

# ハード編

**FMV-DESKPOWER**

K3/50, K3/50c



パソコンの各部は  
こうなっている

基本的な機能を使おう

オプション機器を活用しよう!

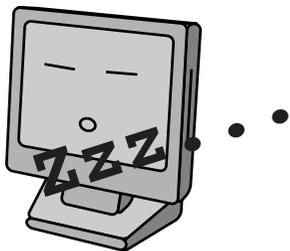
BIOSセットアップ

技術情報

索引

# こんなことがやりたい！

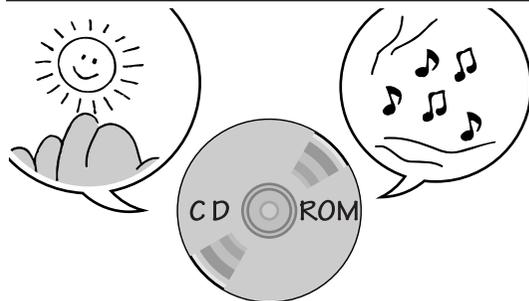
スタンバイ（省電力）機能で  
節電したい！



ちょっと休憩...そんなときはスタンバイ  
（省電力）機能で電力消費を抑えましょう。

☞ P.16

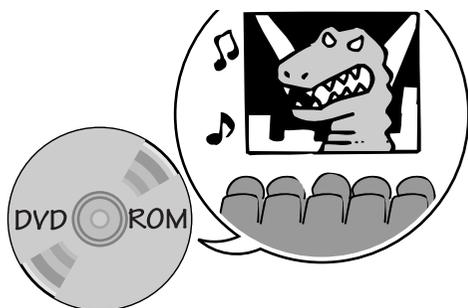
CD-ROM や音楽CD を使いたい！



パソコンでCD ROMの映像や音楽CDの  
音声を楽しむことができます。

☞ P.22

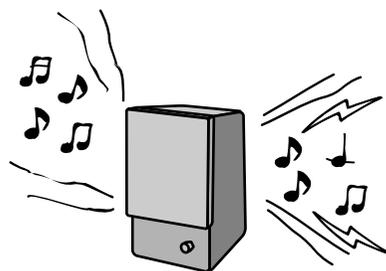
パソコンで映画を見たい！



DVD プレーヤーを使うと、パソコンで映画  
も楽しめます。

☞ P.24

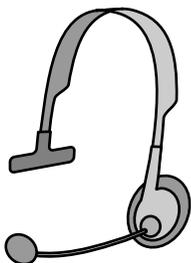
スピーカーで音を聞きたい！



音が大きすぎる、あるいは小さくて聞こえ  
ない...そんなときはスピーカーの音量を調  
節しましょう。

☞ P.34

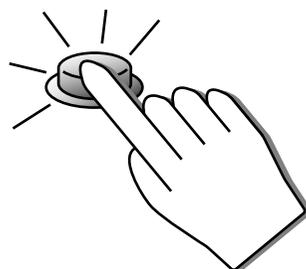
ヘッドセットを使いたい！



添付のヘッドセットを接続して、自分の声  
で文章を入力したり、いろいろなアプリ  
ケーションを使ってみましょう。

☞ P.35

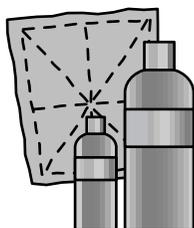
ワンタッチボタンでらくらく！



キーボードのワンタッチボタンを使うと、  
簡単に音楽CDの操作や音量調節、メールソ  
フトの起動が行えます。

☞ P.38

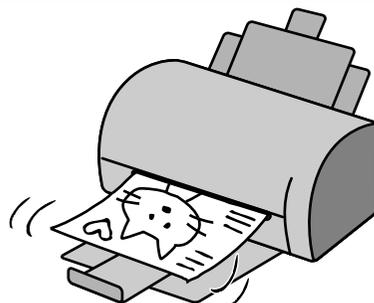
## なんだか汚れてきちゃった... お手入れの方法が知りたい!



パソコンを毎日使っていると、だんだん汚れてしまいますよね...まめにお手入れをしましょう。

👉P.45

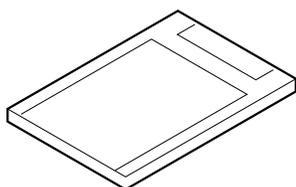
## パソコンで作ったものを印刷したい!



年賀状、カード、企画書...作ったものを印刷したいときは、プリンタを接続します。

👉P.54

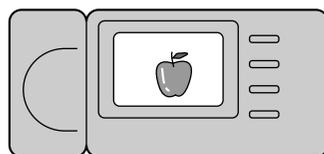
## パソコンでもっと いろいろやってみたい!



オプション機器を接続したり、ネットワークを組めるようにしたり...PCカードを取り付けると、さまざまなことができるようになります。

👉P.58

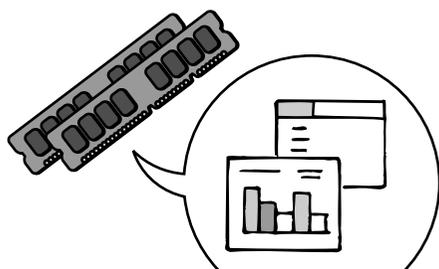
## イラストや写真を取り込みたい!



お気に入りの写真を取り込んで、オリジナルの画像を作りたい...そんなときはデジタルカメラやスキャナを接続します。

👉P.64

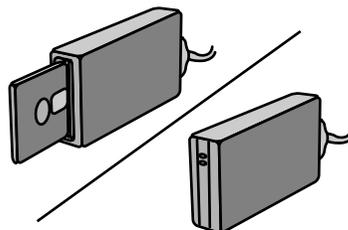
## パソコンの処理をもっと快適にしたい!



たくさんのアプリケーションを同時に使いたい、「メモリ容量の不足」のメッセージがよく出る...そんなときはメモリを増設します。

👉P.70

## もっとたくさんのデータを 保存したい!



あれもこれもとっておきたい...MOドライブやハードディスクを増設すると、大容量のデータを保存できます。

👉P.78, 👉P.83

## 本書の表記について

### 安全にお使いいただくための絵記号について

本パソコンおよびその他のオプション機器を安全にお使いいただくために、以降の記述内容を必ずお守りください。

本書では、いろいろな絵表示をしています。これは装置を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々に加えられるおそれのある危害や損害を、未然に防止するための目印となるものです。その表示と意味は次のようになっています。内容をよくご理解のうえ、本文をお読みください。

 <b>警告</b>	 <b>注意</b>
この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡する可能性または重傷を負う可能性があることを示しています。	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性があること、および物的損害のみが発生する可能性があることを示しています。

また、危害や損害の内容がどのようなものかを示すために、上記の絵表示と同時に次の記号を使っています。

記号の例とその意味	
	で示した記号は、警告・注意をうながす内容であることを告げるものです。記号の中には、具体的な警告内容（左図の場合は感電注意）が示されています。
	Ⓞで示した記号は、してはいけない行為（禁止行為）であることを告げるものです。記号の中には、具体的な禁止内容（左図の場合は接触禁止）が示されています。
	で示した記号は、必ずしたがっていただく内容であることを告げるものです。記号の中には、具体的な指示内容（左図の場合は一般的な強制事項）が示されています。

### 画面例および入力例について

- 表記されている画面およびイラストは開発中のものです。実際とは異なる場合があります。また画面は一例です。お使いの状況によって、画面が若干異なる場合があります。
- お客様に入力していただく文字列（コマンドライン）などは、入力例の文字上にアミ  をかけて表しています。
- 特に指定がない場合、英数字、記号は半角で入力します。また、大文字と小文字の区別はありません。
- 入力時に空白を入れる必要がある場合は、以下のように表しています。

`dir c:`

この場合は、「dir」と入力したあと、（空白キー）を1回押し、続けて「c:」と入力してください。

### イラストについて

- 本来接続されているケーブルなどを省略している場合があります。

## 本文中の記号について

本文中に記載されている記号には、次のような意味があります。

 <b>重要</b>	お使いになるときに注意していただきたいことや、してはいけないことを記述しています。必ずお読みください。
 <b>アドバイス</b>	操作に関連することを記述しています。必要に応じてお読みください。
	知っていると便利なことを記述しています。必要に応じてお読みください。
	手順が分かれる場合などに、次に進む箇所を示しています。
	参照先を記述しています。
	ご覧になっていただきたいマニュアルを記述しています。
	CD-ROMを表しています。
	フロッピーディスクを表しています。
 <b>用語</b>	覚えていただきたい用語を解説しています。パソコンを初めてお使いになる方はぜひお読みください。

## 製品の呼びかたについて

製品名称を、次のように略して表記しています。

製品名称	本書での表記
Microsoft® Windows® 98 operating system SECOND EDITION	Windows98
Microsoft® Internet Explorer 5.00.2614.3500	Internet Explorer
VirusScan for Windows 95/98	VirusScan
情報処理機器の省エネルギー化推進に関する法律	省エネ法

## 機種名の表記について

次のように略して表記しています。

製品名称	本書での表記
FMV-DESKPOWER K3/50, K3/50c	本パソコン
FMV-DESKPOWER K3/50	K3/50
FMV-DESKPOWER K3/50c	K3/50c

こんなことがやりたい！  
本書の表記について

## 第1章 パソコンの各部はこうなっている

1. 各部の名称と働き .....	2
パソコン本体前面 .....	2
パソコン本体側面 .....	4
パソコン本体背面 .....	6
キーボード .....	8
ワンタッチボタン .....	10
マウス .....	11

## 第2章 基本的な機能を使おう

1. 電源を入れる / 電源を切る .....	14
電源を入れてパソコンを使おう .....	14
今日はおしまい。電源を切るには？ .....	15
2. スタンバイ（省電力）機能を使う .....	16
スタンバイ（省電力）機能とは？ .....	16
電源の管理 .....	17
3. フロッピーディスクを使う .....	19
気をつけてください～フロッピーディスクを使うとき .....	19
使えるフロッピーディスクは？ .....	20
フロッピーディスクをセットする / 取り出す .....	20
フロッピーディスクのデータを守るには .....	21
4. CD-ROM / DVD-ROM を使う .....	22
気をつけてください～CDやDVDを使うとき .....	22
使えるディスクは？ .....	23
CDやDVDをセットする / 取り出す .....	23
5. DVD プレーヤーを使う .....	24
気をつけてください～DVDプレーヤーを使うとき .....	24
DVD プレーヤーを起動する .....	24
DVD-ROM を再生する .....	25
操作パネルの各部の名称と働き .....	26
VIDEO CDなどを再生する .....	32
DVDプレーヤーの再インストール方法について .....	32
6. スピーカー / ヘッドセットを使う .....	34
音量を調節する .....	34
ヘッドセットを使う .....	35
ヘッドホンを使う .....	37
7. ワンタッチボタンを使う .....	38
アプリケーションの割り当てを変更する .....	38

8.	スクロールボタンを使う .....	40
	スクロールさせる～スライドして使う .....	40
	スクロールさせる～押して使う .....	41
9.	画面の解像度や発色数を変える .....	42
	表示できる解像度と発色数 .....	42
	解像度や発色数を変更する .....	43
10.	お手入れのしかた .....	45
	パソコン本体 / ACアダプタ / 液晶ディスプレイ / キーボードのお手入れ ...	45
	マウスのお手入れ .....	45
	フロッピーディスクドライブのお手入れ .....	47

### 第3章 オプション機器を活用しよう！

1.	オプション機器を取り付ける前に .....	50
	取り付けられるオプション機器 .....	50
	オプション機器の接続にあたって .....	52
2.	つないで活用！！ .....	54
	文書や画面を印刷したい！～プリンタを接続する～ .....	54
	便利なカード！～PCカードをセットする～ .....	58
	<b>コラム</b> 本パソコンでお使いになれるPCカードの種類 .....	59
	お気に入りのイラストや写真を取り込みたい！	
	～デジタルカメラ / スキャナを使う～ .....	64
	ISDN回線に接続したい！～ターミナルアダプタを接続する～ .....	66
	つないでらくらく！～USB機器を接続する～ .....	67
	オリジナルMDをつくりたい！～MDレコーダーを接続する～ .....	68
3.	メモリを増やす .....	70
	メモリを増やすとは？ .....	70
	取り付けられるメモリ .....	71
	メモリを取り付ける .....	72
4.	MOドライブを増設する .....	78
	MOとは？ .....	78
	お使いになれるMOドライブ .....	78
	<b>コラム</b> 終端抵抗（ターミネータ）とは .....	80
	外付けMOドライブを取り付ける .....	80
5.	ハードディスクを増設する .....	83
	ハードディスクを取り付けるには .....	83
	外付けハードディスクを取り付ける .....	83

## 第 4 章 BIOS セットアップ

1. BIOS セットアップとは .....	90
2. BIOS セットアップの操作のしかた .....	91
BIOS セットアップを起動する .....	91
設定を変更する .....	92
変更内容を取り消す .....	93
BIOS セットアップを終了する .....	94
3. ご購入時の設定に戻す .....	96
4. BIOS のパスワード機能を使う .....	100
パスワードの種類 .....	100
パスワードを設定する .....	100
パスワード設定後のパソコンの起動 .....	101
パスワードを変更 / 削除する .....	103
5. BIOS が表示するメッセージ一覧 .....	105
メッセージが表示されたときは .....	105
メッセージ一覧 .....	105

## 第 5 章 技術情報

1. 仕様一覧 .....	110
パソコン本体 .....	110
液晶ディスプレイ .....	111
DVD-ROM ドライブ ( K3/50 標準搭載 ) .....	111
CD-ROM ドライブ ( K3/50c 標準搭載 ) .....	111
サウンド機能 .....	112
内蔵スピーカー .....	112
FAX / ボイスモデム .....	113
IRQ ( 割り込み要求 ) 一覧 .....	114
<b>コラム</b> IRQ ( 割り込み要求 : Interrupt Request ) とは .....	114
コネクタのピン配列と信号名 .....	116
本体のコネクタ / ジャックで利用できるケーブル .....	119
2. ドライバのインストール .....	120
インストールのときに気をつけること .....	120
ディスプレイドライバをインストールする .....	121
サウンドドライバをインストールする .....	123
3. その他の注意事項 .....	127
インテル® プロセッサ シリアル ナンバについて ( K3/50 をお使いの方 ) .....	127
液晶ディスプレイの特性 .....	127
液晶ディスプレイの廃棄 .....	127
PS/2 マウスの表示 .....	127
モデムについて .....	128
スタンバイ時の注意 .....	129

画面表示について .....	130
電源の切断について .....	130
ACPIのスタンバイモード設定の変更について .....	130
ACPIモードの注意事項 .....	132
APMについて .....	133
索引 .....	140

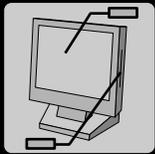


# 第 1 章

## パソコンの各部はこうなっている

パソコン本体やキーボードなどの各部の名称について説明しています。

1. 各部の名称と働き .....	2
-------------------	---

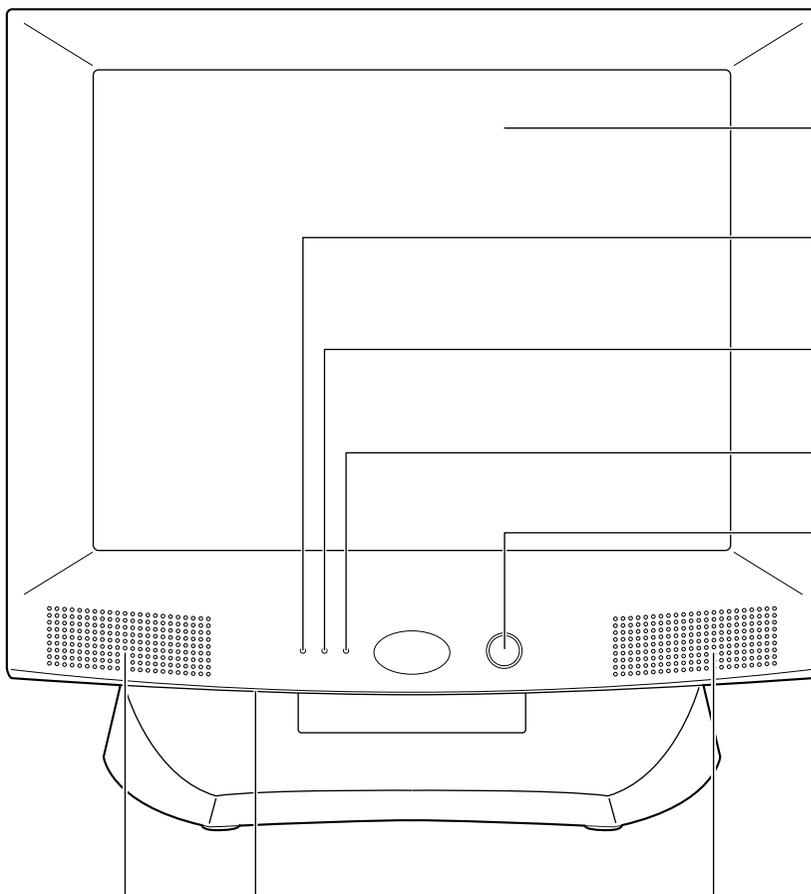


# 1

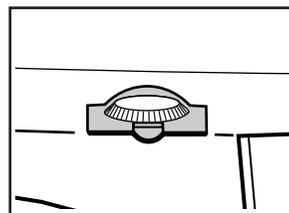
## 各部の名称と働き

ここでは、パソコン本体前面、側面、背面、キーボード、マウスの各部の名称と働きを説明します。

### パソコン本体前面



ブライツボリューム  
液晶ディスプレイのバックライトの明るさを調節します。右に回転させると明るくなり、左に回転させると暗くなります。



**液晶ディスプレイ**

パソコンの画面を表示する液晶ディスプレイです。液晶ディスプレイを見やすい角度(縦方向のみ)に変えるときは、台座部分を手でおさえながら、角度の調整をしてください。

**メール着信ランプ**

FM便利ツールと連携し、Eメールを受信したときに点滅します(省電力機能がACPIモードのときのみ有効です)。

**アクセス表示ランプ**

ハードディスクのデータを読み書きしているときや、DVD-ROMドライブ(K3/50)またはCD-ROMドライブ(K3/50c)からデータを読み込んでいるときに点灯します。

**電源ランプ**

パソコン本体に電源が入っているときに緑色に点灯します。スタンバイ時はオレンジ色に点灯します。

**電源スイッチ (P.14)**

パソコン本体の電源を入れるとき、電源を切るときに押します。

**スピーカー (P.34)**

本パソコンの音声を出力します。

## パソコン本体側面

フロッピーディスクアクセス表示ランプ  
フロッピーディスクを読み書きしているときに点灯します。

フロッピーディスクドライブ (☞P.19)  
フロッピーディスクをセットし、データを読み書きします。

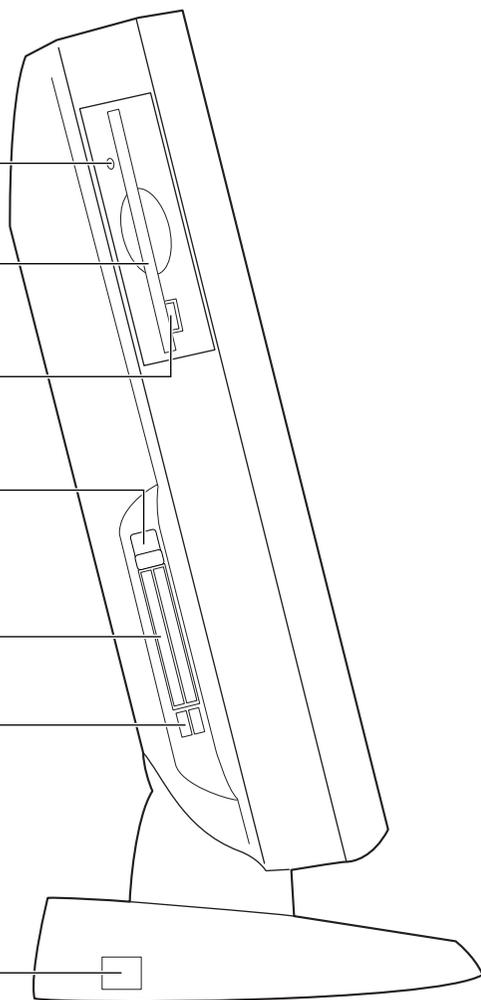
フロッピーディスク取り出しボタン  
フロッピーディスクを取り出すときに押します。

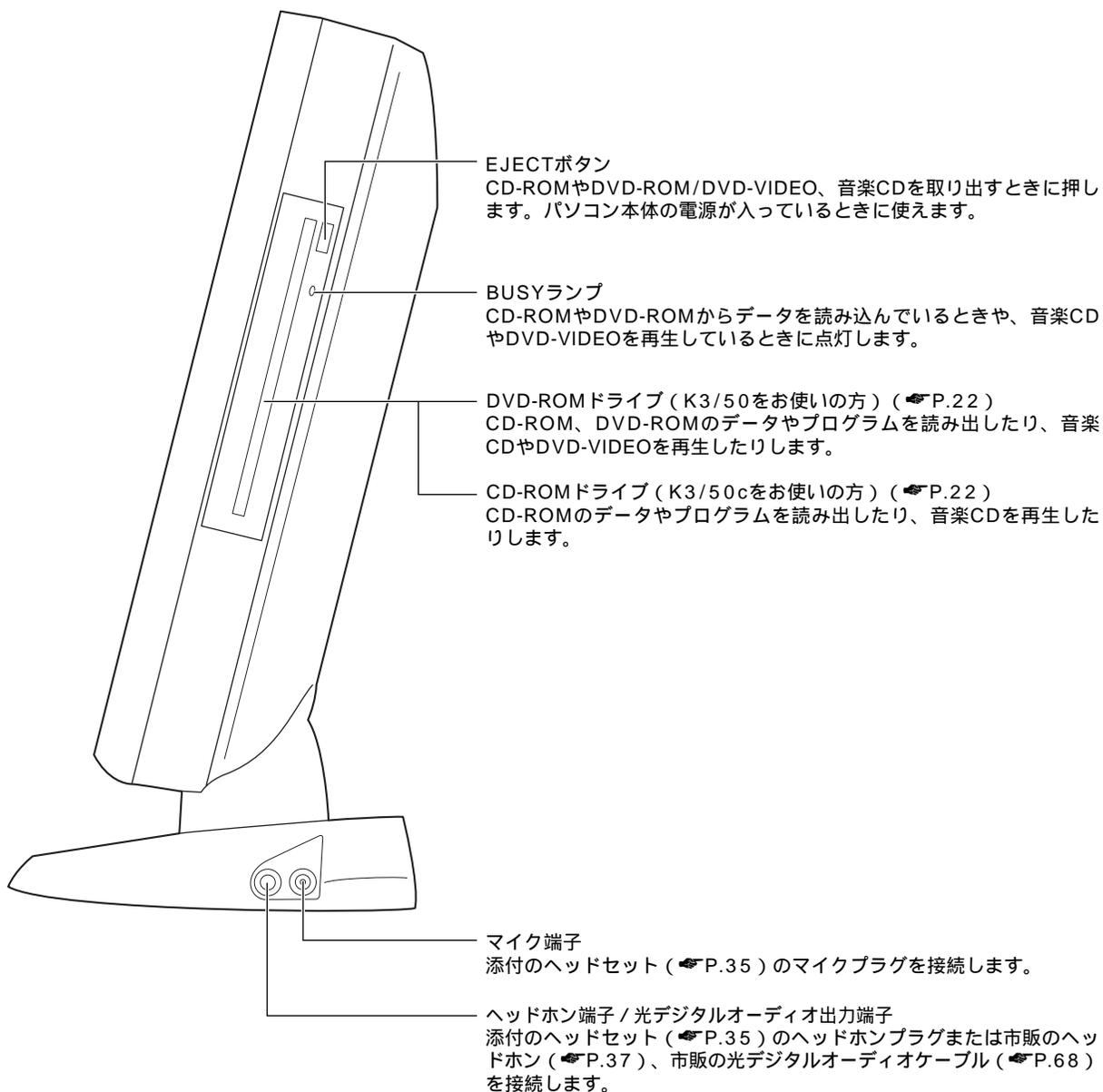
PCカードストッパー  
セットしたPCカードが不用意に抜けるのを防ぎます。

PCカードスロット (☞P.58)  
PCカードをセットするためのスロットです。

PCカード取り出しボタン  
PCカードを取り出すときに押します。

DC-INコネクタ  
ACアダプタを接続します (☞ 『取扱説明書』)。





## パソコン本体背面



### 用語

#### USB(ユーエスピー)

Universal Serial Bus という規格の略称です。USB規格に対応している機器には、次のようなものがあります。

- ・ マウス
- ・ キーボード
- ・ プリンタ
- ・ ターミナルアダプタ
- ・ スピーカー
- ・ デジタルカメラ
- ・ スキャナ
- ・ CCD カメラ

#### PHONE端子

電話機とつながるモジュラーケーブルを接続します。

#### LINE端子

電話回線とつながるモジュラーケーブルを接続します。

#### LINE OUT端子

オーディオ機器などの音声入力端子を接続します。

#### LINE IN端子

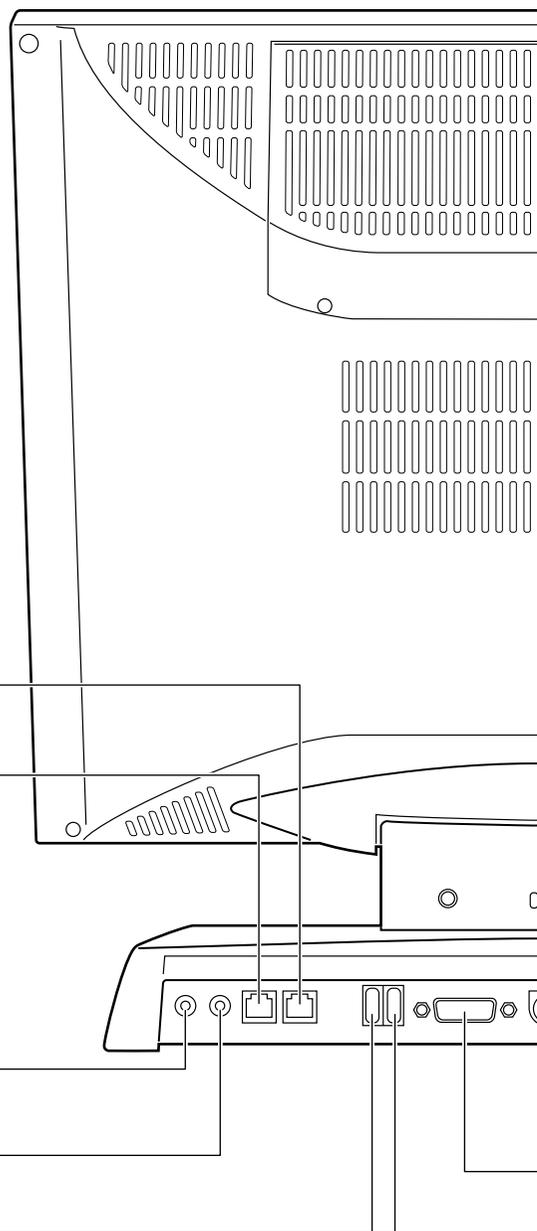
オーディオ機器などの音声出力端子を接続します。

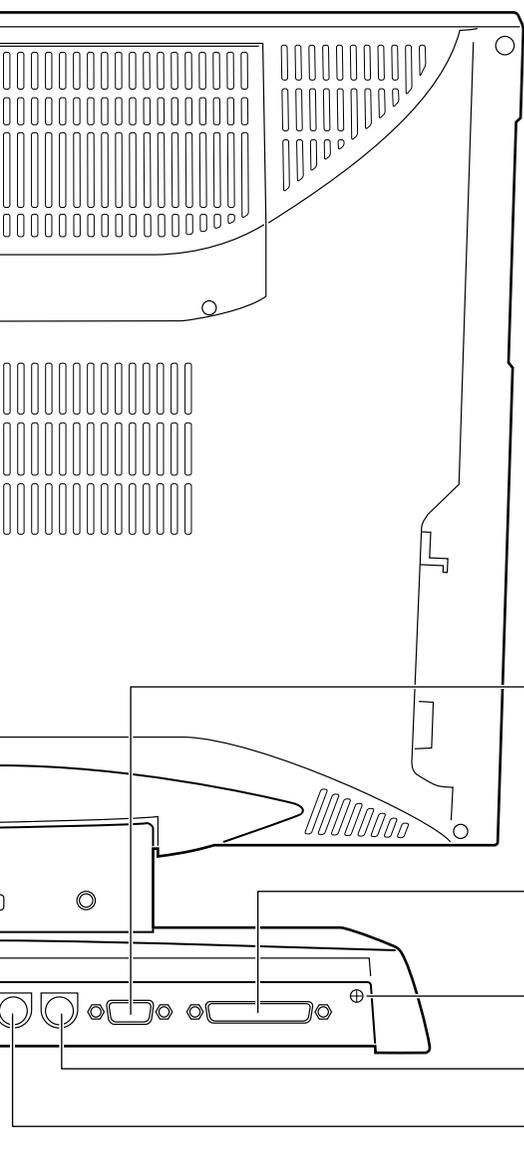
#### USBポート1(左側)

添付のキーボードのUSBケーブルを接続します(☞『取扱説明書』)。

#### USBポート2(右側)

USB機器(☞P.67)を接続します。





シリアルコネクタ (COM1)  
デジタルカメラ (☞P.64)、ターミナルアダプタ (☞P.66) などのRS-232C規格に対応した機器のケーブルを接続します。D-SUB9ピンのケーブルがお使いになれます。シリアルポートともいいます。

パラレルコネクタ  
プリンタ (☞P.54) やスキャナ (☞P.65) などのケーブルを接続します。パラレルポートともいいます。

アース端子  
添付のアース線を接続します。

キーボードコネクタ  
別売りのPS/2キーボードを接続します。通常は使用しません。

マウスコネクタ  
別売りのPS/2マウスを接続します。通常は使用しません。

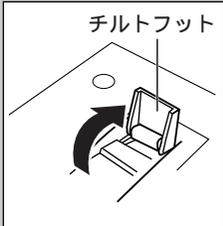
MIDI/JOYSTICK端子  
MIDIケーブルやジョイスティックを接続します。

## キーボード

### アドバイス

キーボードに角度をつけて置くには

キーボード底面にあるチルトフットを起こすと、キーボードに角度をつけて置くことができます。使いやすさいほうをお選びください。



パソコン本体に接続してください

添付のキーボードは、パソコン本体背面のUSBポート1(☞P.6)に接続してお使いください。

キーボードは、パソコンに対して指示を与え、実行させるためのものです。

本パソコンでは、パソコン本体背面のUSBポート1(☞P.6)に接続します(☞☞『取扱説明書』)。

使用するアプリケーションによって動作が異なることがあります。ここでは、各キーを押したときの一般的な動作を説明しています。

マウスポート(裏面)

添付のマウスを接続します(☞☞『取扱説明書』)。

添付のマウス以外は接続しないでください。

ワンタッチボタン(☞P.10)

音楽CDの操作や音量調節、メールソフトの起動を直接行えるボタンです。

F(ファンクション)キー

アプリケーションごとにいろいろな役割が割り当てられます。

Esc(エスケープ)キー

作業を取り消すときに使います。

Caps Lock(キャプスロック)

英数キー

アルファベットを入力するときに、**[Shift]**を押しながらこのキーを押すと、大文字/小文字入力が切り替わります。

Shift(シフト)キー

他のキーと組み合わせて使います。このキーを押しながら文字キーを押すと、キーの上段に刻印されている文字や記号が入力できます。

Fn(エフエヌ)キー

他のキーと組み合わせて使います。このキーを押しながらカーソルキーや**[Num Lock]**を押すと、で囲まれた機能が使えます。

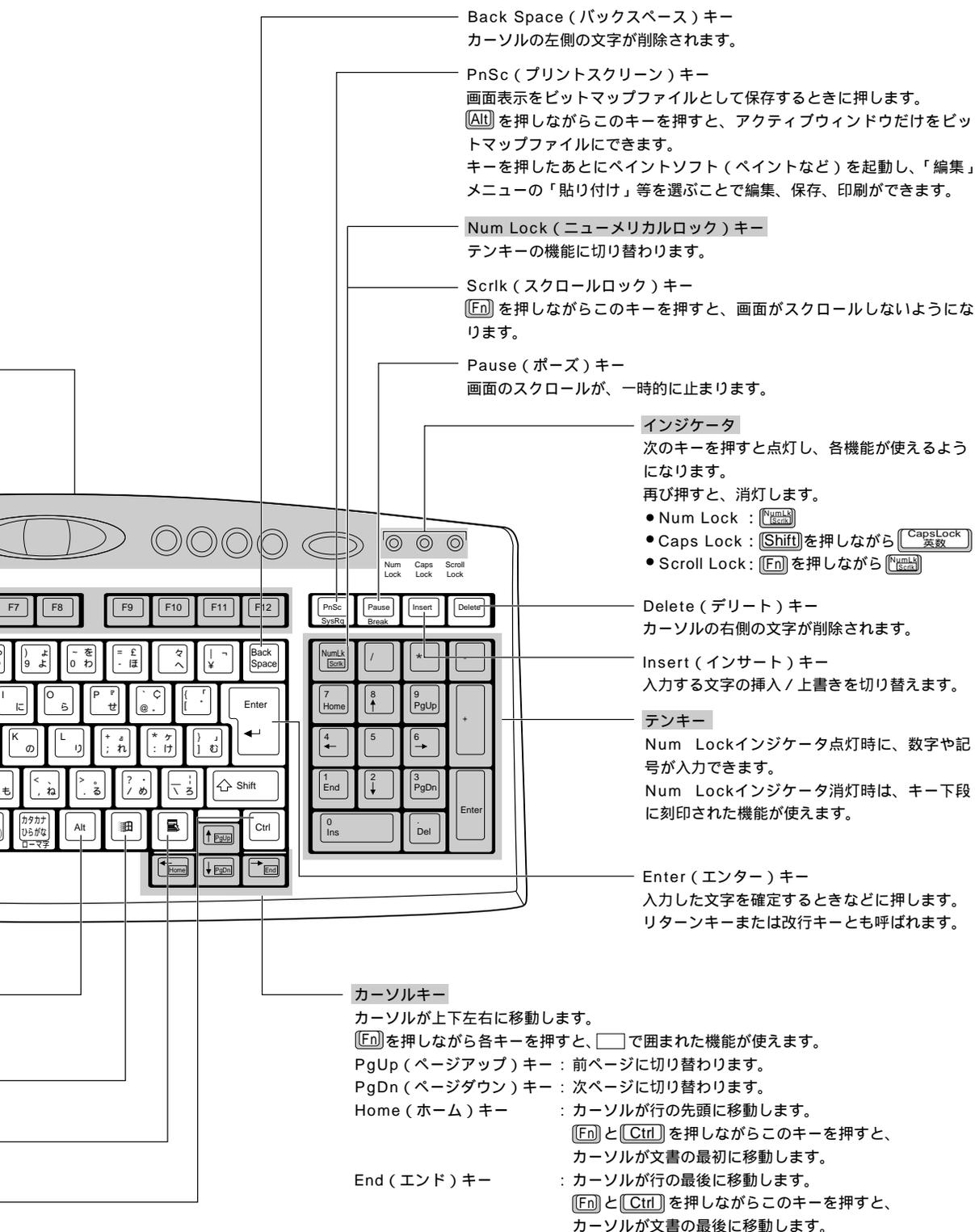
空白(スペース)キー  
空白が入力されます。

Alt(オルト)キー  
他のキーと組み合わせて使います。

Windows(ウィンドウズ)キー  
「スタート」メニューが表示されます。

Application(アプリケーション)キー  
右クリックと同じ役割をします。

Ctrl(コントロール)キー  
他のキーと組み合わせて使います。

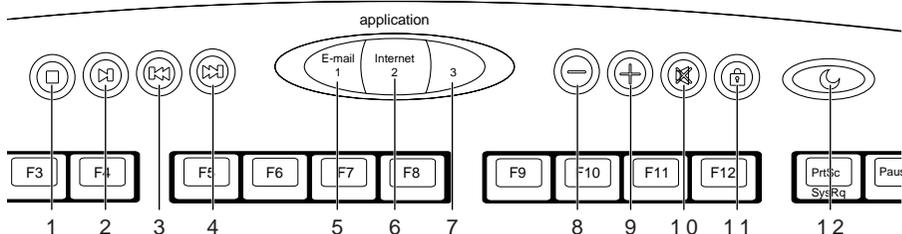


## ワンタッチボタン

### アドバイス

ワンタッチボタンをお使いになるときの注意

1～7, 11のボタンは、FM便利ツールが起動しているときのみお使いになれます。



### 重要

CD操作ボタンは、音楽CD以外では使わないでください

パソコンの動作が不安定になる場合があります。特に「停止/取り出しボタン」を押すとEJECT機能が働いてしまい、エラー画面が表示される場合があります。

詳しくは、『トラブル解決Q&A』の「CD-ROMを取り出したら青い画面になった」をご覧ください。

### 1～4 CD操作ボタン

- |              |  |
|--------------|--|
| 1 停止/取り出しボタン | : 音楽CDの再生を停止します。<br>停止しているときに押すと、音楽CDがスロットから少し出てきます。 |
| 2 再生/一時停止ボタン | : 音楽CDの再生をはじめます。<br>再生しているときは、一時停止します。               |
| 3 巻き戻しボタン    | : 音楽CDの再生する曲順をひとつ前にします。                              |
| 4 早送りボタン     | : 音楽CDの再生する曲順をひとつ次にします。                              |

### 5～7 Application (アプリケーション) ボタン

FM便利ツールで設定されているアプリケーションは変更できます。詳しくは、「ワンタッチボタンを使う」(P.38)をご覧ください。ご購入時は、次のように設定されています。

- |                                 |                            |
|---------------------------------|----------------------------|
| 5 Applicationボタン1 / E-mailボタン   | : らくらくメールBOXが起動します。        |
| 6 Applicationボタン2 / Internetボタン | : Internet Explorerが起動します。 |
| 7 Applicationボタン3               | : インターネット無料体験が起動します。       |

### 8～10 音量調節ボタン

スピーカーの音量を調節します。詳しくは「音量を調節する」(P.34)をご覧ください。

- |                  |  |
|------------------|--|
| 8 ボリュームボタン (-)   | : 音量が小さくなります。                                      |
| 9 ボリュームボタン (+)   | : 音量が大きくなります。                                      |
| 10 Mute (消音) ボタン | : 音が消えます。<br>もう一度押すと、元の音量に戻ります。                    |
| 11 スクリーンセーバーボタン  | : スクリーンセーバーが起動します。                                 |
| 12 スタンバイボタン      | : 本パソコンがスタンバイ状態 (P.16) になります。<br>もう一度押すと元の状態に戻ります。 |

### アドバイス

CD操作ボタンをお使いになるときの注意

FM便利ツールの「CDプレーヤー」でのみ使用できます。

## マウス

### アドバイス

マウスの設定を変えるには

「コントロールパネル」ウィンドウの「マウス」で変更できます。

マウスポインタの速度を変えたり、左右ボタンの役割を入れ替えることができます。

詳しくは、画面マニュアル『パソコン情報ランド』の「解決！Q&A」をご覧ください。

ダブルクリックの速さを変えるには

「FM便利ツール」の「かんたんマウス」で設定してください。

詳しくは、「FM便利ツール」のヘルプをご覧ください。

マウスのすべりが悪くなったら

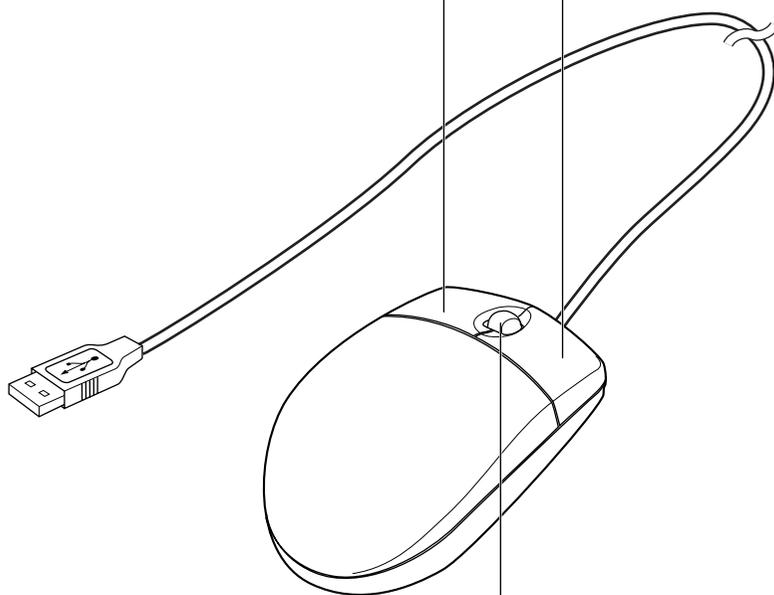
マウスの裏にあるボールが汚れていると、すべりが悪くなります。マウスのボールはクリーニングできます。

詳しくは、「マウスのお手入れ」(P.45)をご覧ください。

マウスは、画面の中の絵や文字を指して、パソコンに情報を伝えるための道具です。本パソコンのマウスは「USB スクロールマウス」というタイプのマウスです。キーボードのマウスポート( P.8 )に接続します。また、スクロールボタンについて詳しくは、「スクロールボタンを使う」( P.40 )をご覧ください。

右ボタン  
右クリックするとき押します。

左ボタン  
クリックするとき押します。



スクロールボタン ( P.40 )  
画面をスクロールしたいときに、押したりスライドさせたりします。

1

パソコンの各部はこうなっている(各部の名称と働き)



## 第 2 章

# 基本的な機能を使おう

本パソコンの基本的な取り扱い方法や、お手入れのしかたについて説明しています。

1. 電源を入れる / 電源を切る .....	14
2. スタンバイ (省電力) 機能を使う .....	16
3. フロッピーディスクを使う .....	19
4. CD-ROM / DVD-ROM を使う .....	22
5. DVD プレーヤーを使う .....	24
6. スピーカー / ヘッドセットを使う .....	34
7. ワンタッチボタンを使う .....	38
8. スクロールボタンを使う .....	40
9. 画面の解像度や発色数を変える .....	42
10. お手入れのしかた .....	45

# 電源を入れる / 電源を切る

ここでは、電源の入れかたと切りかたについて説明します。



- けが
- ・フロッピーディスクをセットまたは取り出すときには、フロッピーディスクドライブの差し込み口に指などを入れないでください。けがの原因となることがあります。
  - ・CD-ROMやDVD-ROMなどをセットまたは取り出すときは、DVD-ROMドライブやCD-ROMドライブのスロットに指などを入れないでください。けがの原因となることがあります。

## 電源を入れてパソコンを使おう



電源を切ったあとに再び電源を入れるときは、10秒ほどお待ちください

### アドバイス

先にパソコン本体の電源を入れてしまったら

接続されている機器を、Windows98が正常に認識できないことがあります。Windows98が完全に起動するのを待ち、次の手順に従って操作してください。

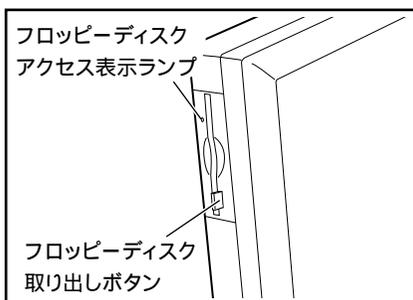
- 1 本パソコンに接続されている機器の電源を入れます。
- 2 「スタート」ボタンをクリックし、「Windowsの終了」をクリックします。
- 3 「再起動する」をクリックし、「OK」をクリックします。本パソコンが再起動し、接続されている機器が認識されます。

### 1 本パソコンに接続されている機器の電源を入れます。

### 2 フロッピーディスクがセットされていないことを確認します。

セットされているときは、フロッピーディスクを取り出してください。

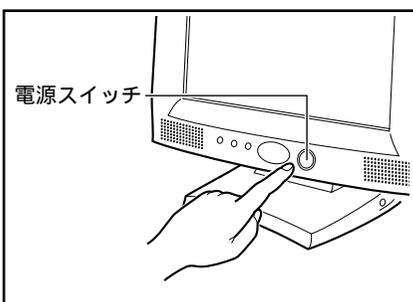
☛「フロッピーディスクをセットする / 取り出す」(P.20)



### 3 パソコン本体の電源スイッチを押します。

電源ランプが点灯します。

しばらくすると、Windows98の画面が表示されます。



### 電源スイッチを押してもWindows98が起動しないときは

Windows98が起動せず、メッセージが表示されたままになっているときは、「BIOSが表示するメッセージ一覧」(☛P.105)をご覧ください。

## 今日はおしまい。電源を切るには？

### アドバイス

その他の電源の切りかた

次の方法でも電源を切ることができます。

- 1 右記の「今日はおしまい。電源を切るには？」の手順2までの操作を行います。
- 2 「スタート」ボタンをクリックし、「Windowsの終了」をクリックします。
- 3 「電源を切れる状態にする」をクリックし、「OK」をクリックします。しばらくするとWindows 98が終了し、電源ランプが消えます。
- 4 本パソコンに接続されている機器の電源を切ります。

### アドバイス

「フロッピーディスクが入っています。Windowsの終了を中止します。」というメッセージが表示されたら

「閉じる」をクリックし、手順2から操作し直してください。

### アドバイス

強制終了について

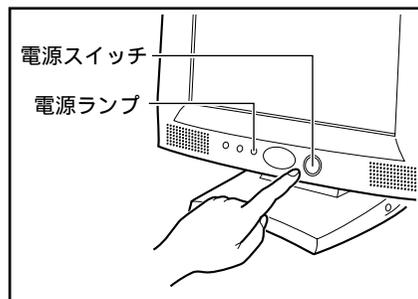
☐『トラブル解決Q&A』の「操作中に動かなくなった」をご覧ください。

### 重要

必ずアプリケーションを終了してください

本パソコンが正常に終了できなかつたり、次に起動するときに正常に起動できなくなることがあります。

- 1 本パソコンで行っていた作業を終了します。  
必要に応じて作業中のデータを保存し、アプリケーションを終了してください。
- 2 フロッピーディスクやCD-ROM、DVD-ROMがセットされていないことを確認します。  
セットされているときは、取り出してください。  
☛ 「フロッピーディスクをセットする / 取り出す」(P.20)  
☛ 「CDやDVDをセットする / 取り出す」(P.23)
- 3 パソコン本体の電源スイッチを押します。  
しばらくするとWindows 98が終了し、電源ランプが消えます。



### 重要

電源スイッチは押し続けしないでください

電源スイッチを押し続けると、強制的に電源が切れ、故障などの原因になります。

- 4 本パソコンに接続されている機器の電源を切ります。

### 電源が切れないときは

使用中のアプリケーションが何らかの理由で動かなくなり、強制終了もできなくなったときは、パソコン本体の電源スイッチを4秒以上押し続けて、本パソコンの電源を切ってください。このあと、パソコン本体の電源ランプが消えている(電源が切れている)ことを確認してください。

オレンジ色に点灯しているときはスタンバイ状態になっていて、電源が切れていません。もう一度電源スイッチを4秒以上押し続けて電源を切ってください。

通常は前記の「今日はおしまい。電源を切るには？」の手順に従って本パソコンの電源を切ってください。

2

基本的な機能を使う(電源を入れる/電源を切る)



# 2

## スタンバイ（省電力）機能を使う

ここでは、本パソコンの省電力機能について説明します。

### スタンバイ（省電力）機能とは？

本パソコンの電力消費を抑えるための機能です。この機能が働くと、パソコン本体が省電力の状態になり、画面の表示が消えて真っ暗になります。

長時間作業をしないときなどは、この機能を使って節電を心がけましょう。

スタンバイ状態になると、パソコン本体の電源ランプの点灯が、緑色からオレンジ色に変わります。

スタンバイ機能には、標準（ACPI S1）と高度（ACPI S3）のモードがあります。ご購入時には標準（ACPI S1）に設定されています。

☞「ACPIのスタンバイモード設定の変更について」（P.130）

### スタンバイ（省電力）機能を働かせるには

本パソコンをスタンバイ状態にするには、次の方法があります。

- ・ キーボードのスタンバイボタン（☞P.10）を押す
- ・ 一定時間操作しなかったときに、自動的にスタンバイ機能が働くように設定する
  - ☞「電源の管理」（P.17）
- ・ 「Windowsの終了」ウィンドウで、「スタンバイ」に設定する
  - ☞ アドバイス「その他の電源の切りかた」（P.15）の手順3で「スタンバイ」をクリックします。

### 📢 重要

次のときは、スタンバイ状態にしないでください

スタンバイ機能が正しく働かなかったり、本パソコンが正常に動作しないことがあります。

- ・ Windows98の起動中  
（パソコン本体の電源を入れてから画面が完全に表示されるまで）
- ・ アクセス表示ランプやBUSYランプの点灯中
- ・ 動画の再生中や音楽の録音/再生中
- ・ ゲーム、音声認識ソフトの使用
- ・ 通信中
- ・ ネットワーク接続中（LANカード増設時）  
（TCP/IPまたはIPX/SPX互換プロトコル設定で省電力に対応したアプリケーションを使用している場合は、スタンバイ状態にできます。ただし、通信中や他のパソコンのファイルを使用しているときを除きます）
- ・ マウスの操作中
- ・ ACPIに対応していないオプション機器を増設した場合

連続してスタンバイボタンを押さないでください

スタンバイ機能が正しく働かなかったり、本パソコンが正常に動作しないことがあります。

### 💡 アドバイス

メッセージが表示されたときは

スタンバイ状態にしようとして、「デバイスドライバがプログラムが原因で待機モードに入れません。すべてのプログラムを終了してからもう一度やり直してください」というメッセージが表示されたときは、プログラムが動作中でスタンバイモードに入れません。動作中のアプリケーションなどを終了してからスタンバイ状態にしてください。

## スタンバイ状態から元の状態に戻すには



### アドバイス

元の状態に戻したときは

画面が表示されても、アクセス表示ランプが完全に消えるまでは操作を行わないでください。

本パソコンをスタンバイ状態から元の状態に戻す（復帰させる）には、次の方法があります。

- ・ もう一度キーボードのスタンバイボタンを押す
- ・ キーボードの  や **[Shift]** を押す
- ・ マウスを動かす

しばらく（5～10秒）すると、パソコン本体の電源ランプが緑色に点灯し、再び画面が表示されます。

スタンバイ機能を高度（ACPI S3）に設定している場合は、「ACPIのスタンバイモード設定の変更について」（ P.130）をご覧ください。

## 電源の管理

Windows98では、一定時間操作しなかったときにスタンバイ機能が働くように設定したり、その他の簡単な省電力機能が設定できます。

変更は次の手順で行います。

- 1** 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。  
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。
- 2** （電源の管理）をクリックします。  
「電源の管理のプロパティ」ウィンドウが表示されます。

### 3 設定を変更します。

本パソコンのご購入時には、次のように設定されています。

<電源設定タブ>

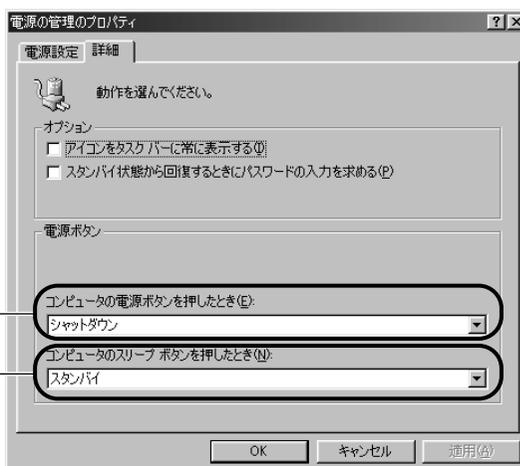
自動的にスタンバイ機能が働くまでの時間を設定します。



<詳細タブ>

パソコン本体の電源スイッチを押すと、シャットダウン状態になります。

キーボードのスタンバイボタン (P.10) を押すと、スタンバイ状態になります。

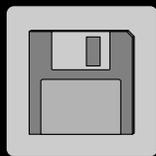


### アドバイス スタンバイに設定すると

設定したボタンを押すと、スタンバイ状態になります。

画面の表示が異なるときは

「コンピュータのスリープボタンを押したとき」が表示されていないときは、「電源の管理のプロパティ」を開いて、一度スタンバイ状態にしてください。スタンバイ状態から復帰したあと、再び「電源の管理のプロパティ」を表示してください。



# 3

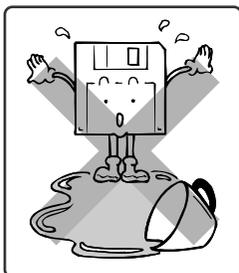
## フロッピーディスクを使う

フロッピーディスクドライブは、フロッピーディスクにデータを保存したり、フロッピーディスクからデータを読み出しするための装置です。

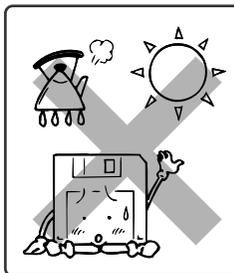
ここでは、本パソコンのフロッピーディスクドライブでお使いになれるフロッピーディスク、フロッピーディスクのセットのしかたや取り出しかたなどについて説明します。

### 気をつけてください~フロッピーディスクを使うとき

フロッピーディスクをお使いの場合に誤った使いかたをすると、データの読み書きができなくなることがあります。フロッピーディスクをお使いになるときは、次の点にご注意ください。



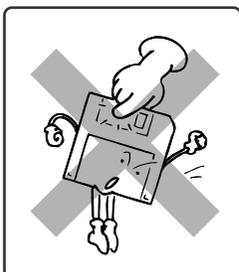
コーヒーなどの液体をかけないでください。



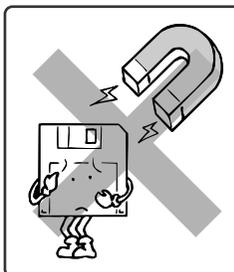
湿度の高い場所や直射日光の当たる場所には置かないでください。



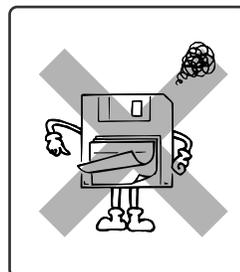
曲げたり、重い物をのせたりしないでください。



シャッターを開いて、中のディスク面に絶対に触れないでください。



磁石など磁気を帯びたものを近づけないでください。



ラベルを重ねて貼らないでください。ドライブから取り出せなくなる原因となります。

## 使えるフロッピーディスクは？

本パソコンのフロッピーディスクドライブは、3モードドライブです。次のような種類、記憶容量のフロッピーディスクがお使いになれます。

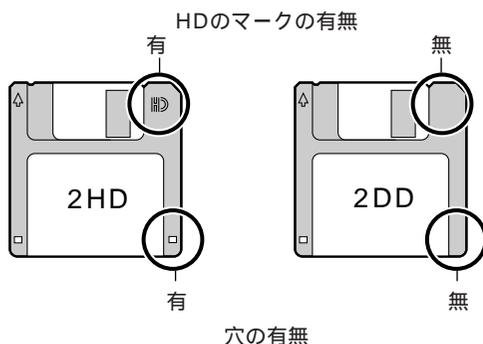
### 2HD

1.44MB、1.2MBの記憶容量のものです。

### 2DD

2HD（1.44MB）の半分の、720KBの記憶容量のものです。

上記の2種類のフロッピーディスクの外見は、下図のような違いがあります。



なお、本パソコンでは1.2MBにフォーマットすることはできません。フロッピーディスクのフォーマット方法については、画面マニュアル『パソコン情報ランド』の「解決！Q&A」をご覧ください。

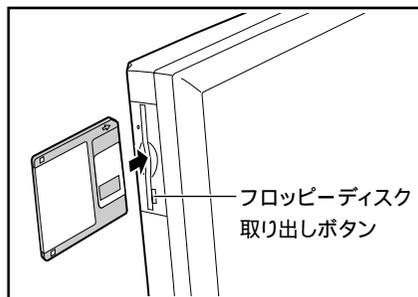
## フロッピーディスクをセットする / 取り出す



**注意** けが フロッピーディスクをセットまたは取り出すときは、フロッピーディスクドライブの差し込み口に指などを入れないでください。けがの原因となることがあります。

### セットする

- 1 ラベル面をパソコン本体前面側にして、フロッピーディスクドライブに差し込みます。「カシャッ」と音がして、フロッピーディスク取り出しボタンが飛び出しますまで差し込んでください。



## 用語

### MB (メガバイト)

バイトとは、パソコンで扱うデータの大きさを表す単位のことです。M(メガ)は100万を表します。1MBとは、約100万バイトのデータということです。パソコンで使われる単位には、他にKB(キロバイト)、GB(ギガバイト)があります。1KBは約1000バイト、1GBは約10億バイトのデータを表します。

## アドバイス

データを読み出せないこともあります

フロッピーディスクをフォーマットした環境(メーカー、機種、ソフトウェア)が違えば、データを読み出せないなど、正しくお使いになれないことがあります。

フロッピーディスクをご購入のときは

「DOS/V用フォーマット済み」と書かれたものをご購入ください。

## 取り出す

### 重要

データが壊れるおそれがあります

フロッピーディスクアクセス表示ランプの点灯中に、フロッピーディスクを取り出さないでください。

### アドバイス

#### 取り出すときの注意

お使いのフロッピーディスクの種類によっては、勢いよく飛び出してくるものもありますので、ご注意ください。

### 1 フロッピーディスクアクセス表示ランプが消えていることを確認し、フロッピーディスク取り出しボタンを押します。

フロッピーディスクが出てきます。

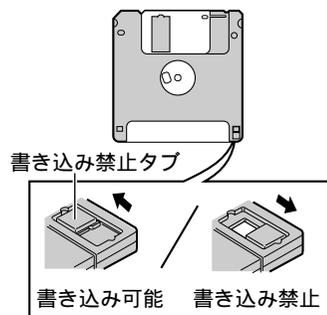


## フロッピーディスクのデータを守るには

フロッピーディスクに保存してある情報を誤って消さないようにするには、フロッピーディスクの書き込み禁止タブをスライドさせ、穴があいた状態(書き込み禁止の状態)にします。

再び情報を書き込みたいときは、書き込み禁止タブをスライドさせ、穴が閉じた状態にします。

また、「気をつけてください～フロッピーディスクを使うとき」(P.19)の注意事項を守ってお使いください。





# 4

## CD-ROM / DVD-ROM を使う

ここでは、DVD-ROMドライブ（K3/50をお使いの方）やCD-ROMドライブ（K3/50cをお使いの方）でお使いになれるディスクの種類と注意事項、DVD-ROMドライブやCD-ROMドライブの使い方を説明します。

DVD-ROMドライブでは、CD-ROM / DVD-ROMの映像や音声、音楽CDなどを再生できます。また、パソコンのプログラムやデータの読み込みができます。

CD-ROMドライブでは、CD-ROMの映像や音声、音楽CDなどを再生できます。また、パソコンのプログラムやデータの読み込みができます。

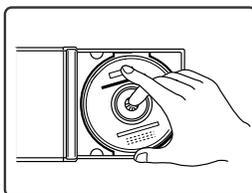
### 気をつけてください～ CD や DVD を使うとき

#### アドバイス

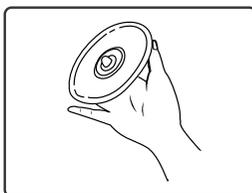
CD-ROM クリーニングディスクは使わないでください

CD-ROM クリーニングディスクをお使いになると、逆にゴミを集めてしまい、DVD-ROMドライブやCD-ROMドライブのレンズが汚れてしまう場合があります。

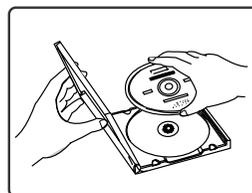
CD-ROM や音楽CD（以下、まとめてCD と呼びます）、DVD-ROM やDVD-VIDEO（以下、まとめてDVD と呼びます）をお使いになるときは、次の点にご注意ください。



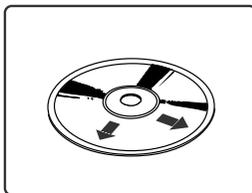
ケースからCDやDVDを取り出すときは、ケースの中央を押しながら取り出してください。



データ面（裏面）に触れないように、CDやDVDのふちを持つようにしてください。

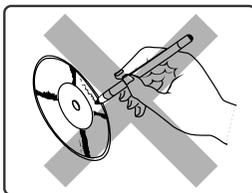


使わないときは、ケースに入れて保管してください。

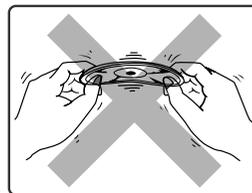


汚れたり水滴がついたりしたときは、乾いた柔らかい布で、中央から外側へ向かって拭いてから、自然乾燥させてください。

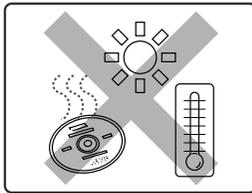
ヘアードライヤーなどで無理に乾燥させないでください。



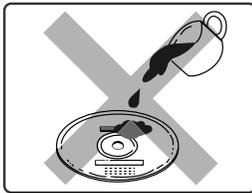
ラベルを貼ったり、ボールペンや鉛筆などで字を書いたりしないでください。また、傷をつけたりしないでください。



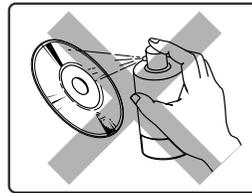
曲げたり、重い物をのせたりしないでください。



高温・低温の場所に保管しないでください。



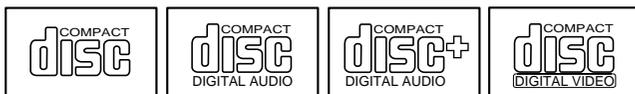
コーヒーなどの液体をかけないでください。



ベンジン、シンナー、水、レコードスプレー、静電気防止剤、シリコンクロスなどで拭かないでください。

## 使えるディスクは？

本パソコンでは、次のマークがついたCD-ROMや音楽CD(12cm、8cm)がお使いになれます。



また、K3/50では、DVD-ROMやDVD-VIDEOもお使いになれます。

## CDやDVDをセットする/取り出す

CDやDVDは、パソコンの電源が入っている状態のときにセットや取り出しができます。



注意

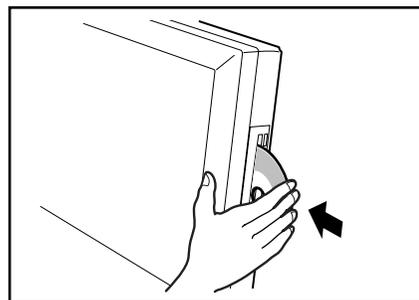
けが CDやDVDをセットまたは取り出すときは、DVD-ROMドライブまたはCD-ROMドライブのスロットに指などを入れないでください。けがの原因となることがあります。

### セットする

- 1 CDやDVDのレーベル面(印刷面)を本体前面側にして、スロットに差し込みます。

CDやDVDが自動的に吸い込まれます。

CDやDVDがセットされ、BUSYランプが点滅します。BUSYランプが消えたことを確認してから、次の操作に進んでください。

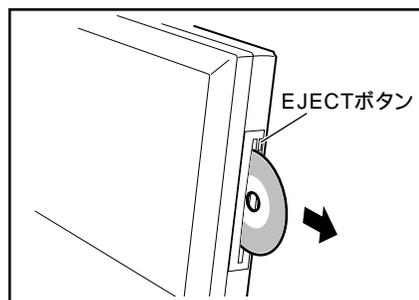


### 取り出す

- 1 CDやDVDを使っているアプリケーションがあれば、終了します。

- 2 BUSYランプが消えていることを確認し、EJECTボタンを押します。

CDやDVDが少し出てきます。



- 3 CDやDVDを取り出します。

### アドバイス

自動で起動するディスクもあります

CD-ROMやDVD-ROMによっては、セットすると自動的に起動するものもあります。

また、音楽CDはセットすると自動的に再生が始まります。

読み込めないディスクは自動的に出てきます

ディスクの挿入面を間違えたり、未記録のCD-R/RWなどの全く読み込めないディスクをセットすると、自動的に出てきます。

K3/50では、自動的に出てくるまでに約1分かかります。



# 5

## DVD プレーヤーを使う

K3/50では、DVDプレーヤーをお使いになると、本パソコンで映画などを楽しむことができます。ここでは、DVDプレーヤーを起動し、DVD-VIDEOを再生する方法を説明しています。

### 気をつけてください～ DVD プレーヤーを使うとき

DVD プレーヤーをお使いになるときは、次の点に注意してください。

- ・ DVDプレーヤーの起動中は画面の解像度、発色数、リフレッシュレートを変更しないでください。
- ・ メディアプレーヤーなど、他のアプリケーションと同時に使用しないでください。

### DVD プレーヤーを起動する

DVD プレーヤーをお使いになるときは、次の手順に従ってください。



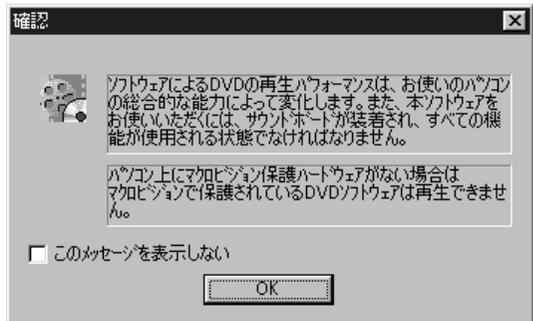
#### アドバイス

このウィンドウを表示させないようにするには

「このメッセージを表示しない」のをクリックしてにしてから「OK」をクリックします。次に起動したときからこのウィンドウは表示されなくなります。

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「プログラム」→「Inter Video WinDVD」の順にマウスカーソルを合わせ、「Inter Video WinDVD」をクリックします。

「確認」ウィンドウが表示されます。



- 2 「OK」をクリックします。  
DVD プレーヤーが起動します。



## アドバイス

順番は逆になっても問題ありません

DVDプレーヤーの起動と、DVD-ROMをセットする順番が逆になっても、特に問題はありません。

自動で再生するディスクもあります

DVDプレーヤーが起動していない状態で、DVD-VIDEOディスクをセットした場合、使用するディスクによっては自動でDVDプレーヤーが起動し、再生を開始するものもあります。

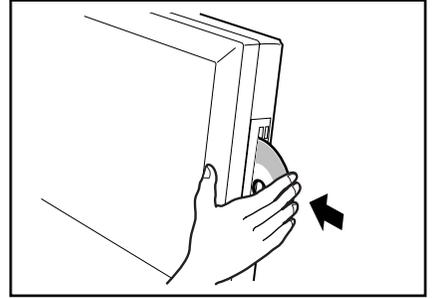
読み込めないディスクは自動的に出てきます

ディスクの挿入面を間違えたり、未記録のCD-R/RWなどの全く読み込めないディスクをセットすると、自動的に出てきます。

K3/50では、自動的に出てくるまでに約1分かかります。

## DVD-ROMを再生する

- 1 DVD-ROMドライブにDVD-ROMをセットします。



- 2  (再生ボタン)を押します。  
再生が始まります。

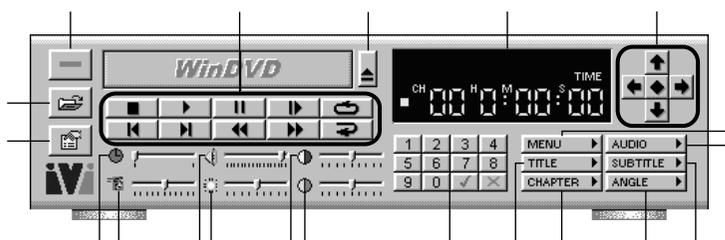
### DVDプレーヤーを終了するときは

DVDプレーヤーを終了するときは、画面左上の  (終了ボタン) を押し、DVD-ROMを取り出します。

2

基本的な機能を使う( DVDプレーヤーを使う )

## 操作パネルの各部の名称と働き



- 終了ボタン** : DVD プレーヤーを終了します。
- 停止ボタン** : 再生を停止します。
- ▶ 再生ボタン** : 再生を開始します。
- ⏸ 一時停止ボタン** : 再生を一時的に停止します。通常の再生に戻すには再生ボタンを押します。
- ⏮ 後ろスキップボタン** : 1つ前のチャプターまたはファイルの先頭にスキップします。
- ⏭ 前スキップボタン** : 1つ先のチャプターまたはファイルの先頭にスキップします。
- ⏪ 早戻しボタン** : 巻戻しをします。
- ⏩ 早送りボタン** : 早送りをします。
- ⏮▶ コマ送りボタン** : コマ送りをします。
- 🔄 リピートボタン** : 繰り返し再生します。
- 🔄▶ レジュームボタン** : メニューボタンで音声等を設定してからこのキーを押すと、再生を中断した部分から再開します。
- イジェクトボタン** : DVD-ROM を取り出します。
- カウンタ** : 再生された時間とチャプターが表示されます。
- カーソルキーと決定ボタン** : メニューのハイライトをカーソルキーで動かし、中央の **▶** (決定ボタン) でメニューを選択します。
- ファイル選択ボタン** : VIDEO CD などのファイルを指定して再生するときに使用します。
- 設定ボタン** : 各種設定をします。
- タイムスライダ** : 再生時間が進むと左から右に **▶** が移動します。
- 速度調整スライダ** : 再生する速度を変更します。**▶** を左にドラッグするとスロー再生に、右にドラッグすると、早送りになります。このスライダを使用中は音声は出力されません。
- ボリューム** : 出力される音声の大きさを設定します。**▶** を左にドラッグすると音が小さく、右にドラッグすると音が大きくなります。
- 輝度調整** : 画面の明るさを調整します。**▶** を左にドラッグすると暗く、右にドラッグすると明るく表示されます。
- 色調整** : 画面の色を調整します。**▶** を左にドラッグすると黄色が強調され、右にドラッグすると青色が強調されます。
- 色調整** : 画面の色を調整します。**▶** を左にドラッグすると緑色が強調され、右にドラッグすると赤色が強調されます。

- テンキー : 数字を入力して  をクリックすると決定します。
- タイトルボタン : 指定したタイトル(ファイル)の先頭から再生します。
- チャプターボタン : 指定したチャプターにスキップします。
- アングル切り替えボタン : 再生するアングルを選択します。
- 字幕切り替えボタン : 表示する字幕を選択します。
- メニューボタン : タイトルメニュー、ルートメニューに戻ります。
- オーディオ切り替えボタン : 再生する音声を選択します。

## 詳細を設定する

 (設定ボタン) を押すと、DVDプレーヤーの詳細を設定することができます。設定したいタブをクリックして変更してください。

### 一般設定タブ



地域(リージョン)コード設定 : 再生する地域コードを設定します。

出荷時には2(西ヨーロッパ、日本、南アフリカ)に設定されています。この設定を変更すると、お手持ちのDVDソフトが再生できなくなる場合があります。通常は変更しないでください。

### 重要

地域(リージョン)コードの設定は4回までです

4回変更すると、以降は地域コードの変更はできません。

- デフォルトDVDドライブ : CD-ROMドライブやDVD-ROMドライブを増設した場合に、通常使用するDVD-ROMドライブを設定します。
- 自動再生 :  をクリックして  にすると、ディスクをセットした際自動で再生が開始されます。
- 表示 : ツールバー、ステータスバー、プレーヤーをそれぞれ表示するかを決めます。 をクリックして  にすると、表示されます。

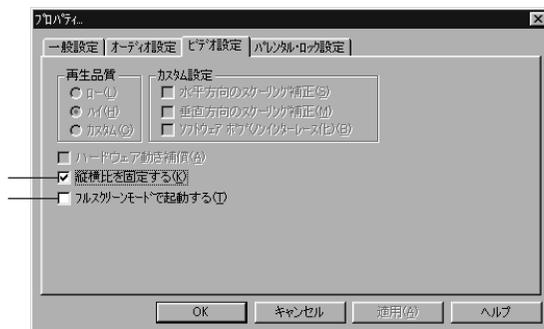
## オーディオ設定タブ



グレー表示の項目はお使いのハードウェア環境では選択できません。

- |             |   |
|-------------|---|
| 2スピーカーモード   | : ご購入時の設定です。  |
| ・モノラル       | : オーディオはミックスして1チャンネル(モノラル)で出力されます。                                  |
| ・ステレオ       | : ディスクのすべてのオーディオは2チャンネルにミックスダウンされて出力されます。                           |
| ・ドルビーサラウンド  | : 2チャンネルの出力と、ドルビープロロジック(Dolby Pro Logic Surround)によるサラウンド効果が出力されます。 |
| ・3Dオーディオ    | : 標準の3Dオーディオによる出力を行います。   |
| オーディオトラック情報 | : 現在のオーディオトラック情報の方式と形式を表示します。                                       |
| ・方式         | : 現在のオーディオトラックの録音方式を表示します。  |
| ・形式         | : 現在のオーディオトラックのサンプリングレートなどの情報を表示します。                                |
| ボーカルオプション   | : カラオケやボーカルタイプのディスクの音声の出力方法を設定します。                                  |
| ・ボーカルなし     | : ボーカルとして記録されている音声は出力されません。   |
| ・左のボーカルのみ   | : 左チャンネルにボーカルとして記録されている音声だけを出力します。                                  |
| ・右のボーカルのみ   | : 右チャンネルにボーカルとして記録されている音声だけを出力します。                                  |
| ・両方         | : ボーカルとして記録されている音声を両チャンネルに出力します。                                    |

## ビデオ設定タブ



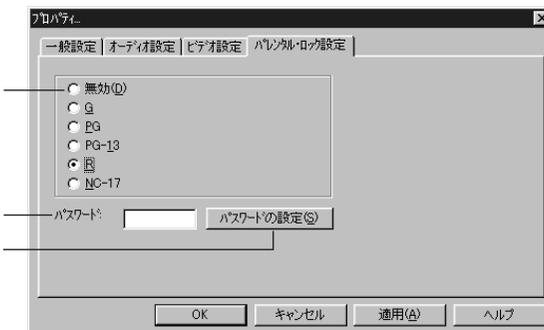
表示に関する設定を行います。

縦横比を固定する

: 再生のウィンドウの大きさを変更した際、ウィンドウの縦と横の比率を固定したままにします。

フルスクリーンモードで起動する : DVD プレーヤーを起動した際、再生ウィンドウをフルスクリーンで起動します。

## パレンタル・ロック設定



お子様に対する視聴制限をすることができます。パスワードを設定すれば、お子様がこの設定を変更することはできません。

詳細については、DVD プレーヤーのヘルプをご覧ください。

無効

: 視聴制限をしません。

・ G

: G 指定のプログラムを制限します。

・ PG

: PG 指定のプログラムを制限します。

・ PG-13

: PG-13 指定のプログラムを制限します。

・ R

: R 指定のプログラムを制限します。

・ NC-17

: NC-17 指定のプログラムを制限します。

パスワード

: 次の でパスワードを設定した場合は右の欄にパスワードを入力します。

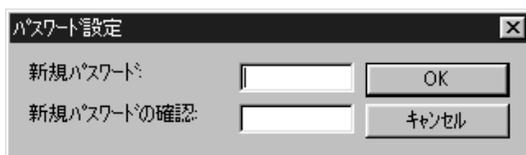
パスワードの設定

: お子様が の設定を変更できないようにパスワードを設定できます。

## パレンタル・ロック設定のパスワードの設定

### 1 「パスワードの設定」ボタンをクリックします。

次の画面が表示されます。



### 2 「新規パスワード」の欄にパスワードを入力します。

パスワードは半角英数字 10 文字以内で入力してください。

### 3 「新規パスワードの確認」の欄に手順 2 で入力したのと同じパスワードを入力し、「OK」をクリックします。

次の画面が表示されます。



### 4 「OK」をクリックします。

パスワードが設定されました。パスワードを入力しなければパレンタル・ロック設定は変更できません。

## その他の機能

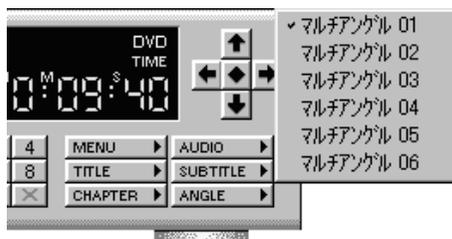
### アングルを切り替える

お使いになる DVD-ROM によっては、再生するアングルを変えることができます。

### 1 アングル切り替えボタンをクリックします。

現在再生されているアングルと、選択可能なアングルが表示されます。

チェックマークがついているところが、現在再生されているアングルです。



### 2 選択したいアングルをクリックします。

再生するアングルが切り替わります。アングルを選択してから切り替わるまでに多少時間がかかります。

## 音声を切り替える

お使いになる DVD-ROM によっては、複数の音声を切り替えることができます。

### 1 オーディオ切り替えボタンをクリックします。

現在再生されている音声と、選択可能な音声が表示されます。

チェックマークがついているところが、現在再生されている音声です。



### 2 選択したい音声をクリックします。

再生する音声切り替わります。音声を選択してから切り替わるまでに少し時間がかかります。音声と映像が一瞬停止します。

## 字幕を切り替える

お使いになる DVD-ROM によっては、複数の字幕を切り替えることができます。

### 1 字幕切り替えボタンをクリックします。

現在再生されている字幕と、選択可能な字幕が表示されます。

チェックマークがついているところが、現在再生されている字幕です。



### 2 選択したい字幕をクリックします。

再生する字幕が切り替わります。字幕を選択してから切り替わるまでに少し時間がかかります。

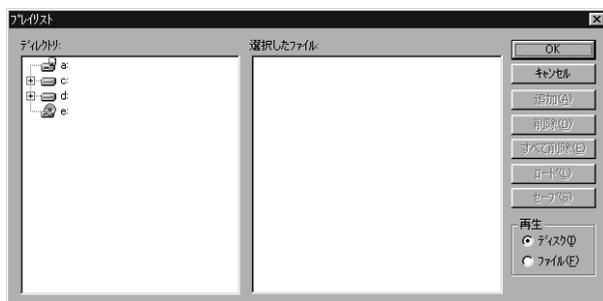
2

基本的な機能をお使い（DVDプレーヤーを使う）

## VIDEO CDなどを再生する

VIDEO CDなどのデータを再生することもできます。

- 1 **ファイル選択ボタンをクリックします。**  
「再生するファイルを開く」ウィンドウが表示されます。



- 2 **再生するファイルをクリックして選び、「追加」をクリックします。**  
選んだファイルが「選択されたファイル」に表示されます。
- 3 **「OK」をクリックします。**
- 4 **操作パネルの再生ボタンをクリックして、再生を開始します。**  
手順3のあと、自動的に再生が開始される場合もあります。

## DVD プレーヤーの再インストール方法について

ここではDVDプレーヤーをインストールし直す方法について説明します。

- 1 **それまで本パソコンで行っていた作業を終了します。**  
必要に応じて作業中のデータを保存し、アプリケーションを終了してください。
- 2 **④「アプリケーションCD 2」をDVD-ROMドライブにセットします。**
- 3 **「スタート」ボタンをクリックし、「ファイル名を指定して実行」をクリックします。**
- 4 **「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。**  
`e:¥update¥display¥windvd¥setup.exe`  
↑ eには、お客様がお使いのDVD-ROMドライブ名を入力してください。  
セットアップが起動し、「ようこそ」ウィンドウが表示されます。
- 5 **「次へ」をクリックします。**  
「製品ライセンス契約」ウィンドウが表示されます。
- 6 **「はい」をクリックします。**  
「ユーザーの情報」ウィンドウが表示されます。

- 7** 「名前」、「会社名」、「シリアル番号」を入力し、「次へ」をクリックします。  
「インストール先の選択」ウィンドウが表示されます。

 **重要**

シリアル番号は本体の背面（WinDVD と書いてあるラベル）にあります

シリアル番号はDVDプレーヤーを再インストールするときや、バージョンアップを行うときに必要なものです。汚したり破損したりしないようにご注意ください。

- 8** 「次へ」をクリックします。  
「セットアップ方法」ウィンドウが表示されます。
- 9** 「標準」を選択し、「次へ」をクリックします。  
「プログラムフォルダの選択」ウィンドウが表示されます。
- 10** 「次へ」をクリックします。  
インストールが始まります。  
インストールが終了すると、「セットアップの完了」ウィンドウが表示されます。
- 11** 「完了」をクリックします。  
メッセージが表示されます。
- 12** 「はい、直ちにコンピューターを再起動します。」を選択し、「完了」をクリックします。  
本パソコンが再起動します。



## 6

## スピーカー / ヘッドセットを使う

ここでは、音量を調節する方法、ヘッドセットや市販のヘッドホンを使う方法について説明します。

## 音量を調節する

音量は、次の方法で調節できます。

- ・ キーボードの音量調節ボタンを使う
- ・ 画面の音量つまみを使う

キーボードの音量調節ボタンは、画面の音量つまみと連動しています。

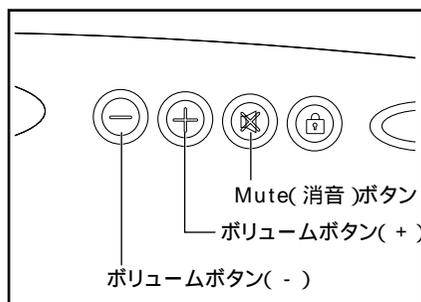
ここでは、それぞれの音量調節のしかたを説明します。

## キーボードの音量調節ボタンを使う

- 1 キーボード上部にある音量調節ボタンを押して、適切な音量に調節します。

ボリュームボタン(-)を押すと小さく、ボリュームボタン(+)を押すと大きくなります。

Mute(消音)ボタンを押すと音が消え、タスクバーの表示がに変わります。もう一度押すと元の音量に戻り、タスクバーの表示もに戻ります。



## 画面の音量つまみを使う

キーボードの音量調節ボタンの操作と同じことが、次の手順で行えます。

- 1 タスクバーの (音量) をクリックします。  
音量つまみが表示されます。
- 2 音量つまみを上下にドラッグして、適切な音量に調節します。



音量つまみ  
下にドラッグすると音が小さく、上にドラッグすると音が大きくなります。

ミュート  
ここをクリックしてにすると音が消え、タスクバーの表示がに変わります。もう一度クリックしてにすると元の音量に戻り、タスクバーの表示もに戻ります。

## アドバイス

タスクバーに (音量) が表示されていないときは

画面マニュアル『パソコン情報ランド』の「解決! Q&A」をご覧ください。

その他の音量調節のしかた

「マスタ音量」ウィンドウのマスタ音量のつまみを上下にドラッグしても、音量を調節できます。

「マスタ音量」ウィンドウの表示方法は次のとおりです。

- 1 タスクバーの (音量) を右クリックします。
- 2 表示されたメニューの「音量コントロールを開く」をクリックします。

「マスタ音量」ウィンドウでは、次の音量調節ができます。

- ・ マスタ音量  
: パソコン全体の音量
- ・ WAVE  
: Wave ファイルの音量
- ・ SW Synth  
: MIDI の音量
- ・ CD プレーヤー  
: 音楽 CD の音量
- ・ PC スピーカー  
: 使用不可

なお、各項目で調節した音量は、パソコン本体の電源を切ると、ご購入時の状態に戻ることがあります。また、「PC スピーカー」の設定は、本パソコンでは使用しません。

### 3 デスクトップの何もないところをクリックします。

音量つまみが閉じます。

閉じなかったときは、いったん音量つまみをクリックしてからデスクトップの何もないところをクリックしてください。

## スピーカーから音が聞こえないときは

次のことを確認してください。

- ・適切な音量になっているか

音量が最小になっていると、スピーカーからの音は聞こえません。適切な音量に調節してください。

また、画面の音量つまみのミュートがになっている（タスクバーにと表示されている）と音は聞こえません。キーボードの Mute（消音）ボタンを押すか、をクリックしてにしてください。

- ・ヘッドセットやヘッドホンが接続されていないか

ヘッドセットやヘッドホンが接続されていると、スピーカーからの音は聞こえません。ヘッドセットやヘッドホンを取り外してください。

## ヘッドセットを使う

本パソコンでは、ヘッドセットを使って音声入力や録音、また音楽を楽しむことができます。

ヘッドセットの接続について詳しくは、『取扱説明書』をご覧ください。

ヘッドセットを使って音声入力や録音をするには、音声認識ソフト「DragonSpeech Partner」を使います。「DragonSpeech Partner」について詳しくは、『DragonSpeech™ Partner3.6 クイックスタート』をご覧ください。また、音声認識が正確に行われるよう、『DragonSpeech™ Partner3.6 クイックスタート』の説明に従ってヘッドセットを正しくお使いください。

ここでは、ヘッドセットの取り扱いの注意について説明します。



## 気をつけてください~ヘッドセットを使うとき

ヘッドセットをお使いになるときは、次の点にご注意ください。

### アドバイス

市販のマイクはお使いになれません

必ず添付のヘッドセットのマイクをお使いください。ヘッドセットのマイク端子だけを接続して、マイクとしてお使いになることもできません。



**聴力障害**  ヘッドセットをお使いになるときは、音量を上げすぎないようにご注意ください。耳を刺激するような大きな音量で長時間お使いになると、聴力に悪い影響を与える原因となることがあります。

**聴力障害**  ヘッドセットをしたままパソコン本体の電源を入れたり切ったりしないでください。刺激音により聴力に悪い影響を与える原因となることがあります。

- ・スピーカーから離してお使いください。ハウリング(キーンと音がすること)を起こす場合があります。
- ・マイクが頬などに当たると雑音が入る場合があります。  
また、マイクの先端が口元と違う方向を向いていると音声が入力されにくくなります。ヘッドセットを付けた後に、マイクの向きを調整してください。
- ・マイクに向かって話すときは、呼吸音が入るのを防ぐため、マイクの先を唇の端に寄せてください。
- ・ヘッドセットで聞くことができる音声は、左右の音を合成したモノラル音声です。音楽CDなどのステレオ音声を聞く場合は、市販のヘッドホンをお使いください。

何らかの理由でヘッドセットが破損した場合は、弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご連絡ください。

## ヘッドセットから音が聞こえないときは

次のことを確認してください。

- ・ヘッドセットが正しく接続されているか  
 『取扱説明書』をご覧ください。正しく接続されているか確認してください。
- ・適切な音量になっているか  
音量が最小になっていると、ヘッドセットからの音は聞こえません。適切な音量に調節してください。  
また、画面の音量つまみのミュートが  になっている(タスクバーに  と表示されている)と音は聞こえません。キーボードの Mute (消音) ボタンを押すか、 をクリックして  にしてください。

## ヘッドホンを使う

市販のヘッドホンは、パソコン本体側面のヘッドホン端子に接続します。

### アドバイス

ヘッドホンのみお使いになれます

ヘッドホン端子と光デジタルオーディオ出力端子は共用です。そのためヘッドホンをお使いのときは、MDレコーダーがお使いになれません。



聴力障害



ヘッドホンをお使いになるときは、音量を上げすぎないようにご注意ください。

耳を刺激するような大きな音量で長時間お使いになると、聴力に悪い影響を与える原因となることがあります。

聴力障害



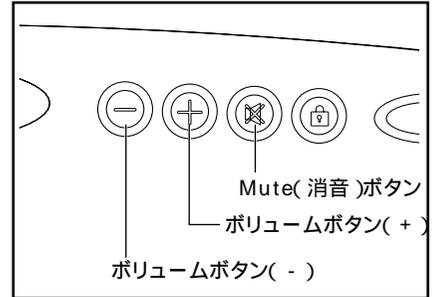
ヘッドホンをしたままパソコン本体の電源を入れたり切ったりしないでください。

刺激音により聴力に悪い影響を与える原因となることがあります。

2

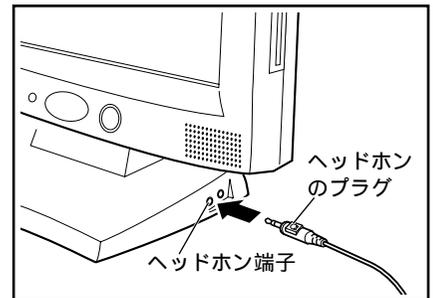
基本的な機能を使う(スピーカー/ヘッドセットを使う)

- 1 キーボード上部にあるボリュームボタン(-)を押し続けて、音量を最小にします。



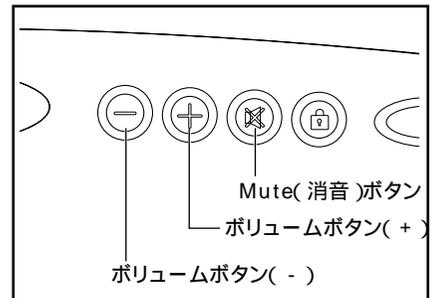
- 2 ヘッドホンのプラグをヘッドホン端子に差し込みます。

パソコン本体側面に2つ並んでいる差し込み口の左側です。



- 3 キーボード上部にある音量調節ボタンを押して、適切な音量に調節します。

ボリュームボタン(-)を押すと小さく、ボリュームボタン(+)を押すと大きくなります。



### アドバイス

ヘッドホンを接続したときは

スピーカーからは音が聞こえなくなります。

### アドバイス

ヘッドホンから音が聞こえないときは

「ヘッドセットから音が聞こえないときは」(P.36)をご覧ください。



## 7

## ワンタッチボタンを使う

ワンタッチボタンの Application (アプリケーション) ボタン (P.10) を使うと、設定したアプリケーションを簡単に起動することができます。

ここでは、各 Application ボタンに割り当てられているアプリケーションの変更のしかたについて説明します。

## アプリケーションの割り当てを変更する

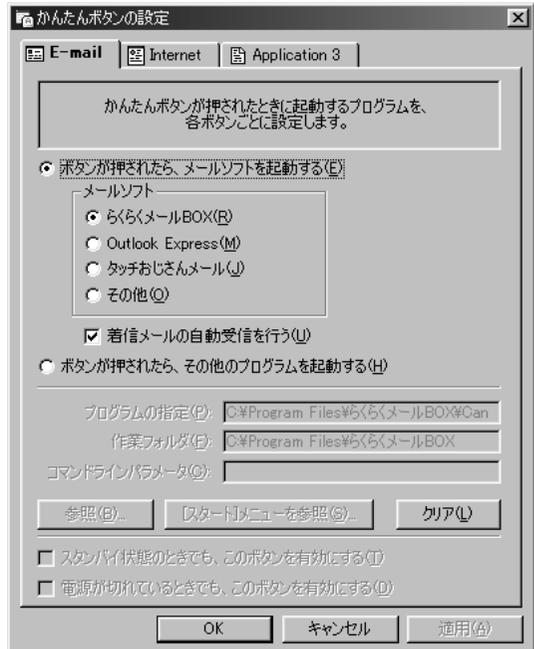
ここでは、Application ボタン 1/E-mail ボタンを E-mail ボタン、Application ボタン 2/Internet ボタンを Internet ボタンと呼びます。

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「プログラム」、「FM 便利ツール」、「1. 便利ツール」の順にマウスポインタを合わせ、「2. かんたんボタン」をクリックします。

「かんたんボタンの設定」ウィンドウが表示されます。

- 2 設定を変更したいボタンのタブをクリックします。

- ・「E-mail」タブ  
E-mail ボタン
- ・「Internet」タブ  
Internet ボタン
- ・「Application 3」タブ  
Application ボタン 3



### アドバイス ご購入時の設定

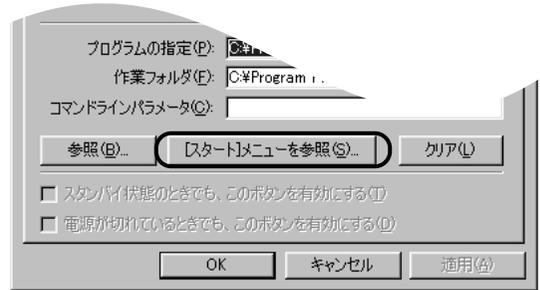
- E-mail ボタン  
: らくらくメールBOX
- Internet ボタン  
: Internet Explorer
- Application ボタン 3  
: インターネット無料体験

## アドバイス

E-mail ボタンを変更するとき

設定したいメールソフトが「メールソフト」欄にないときは、「その他」の  をクリックして  にし、手順 4 へ進みます。また、この場合、メールを自動的に受信するには、メールソフト側で「起動時に新着メールを自動的に取りこむ」設定をする必要があります。設定のしかたについては、各メールソフトのヘルプをご覧ください。

- ▶ E-mail ボタンの設定を変更するとき  
☞ 「メールソフト」欄からお使いになるメールソフトをクリックして  にし、「OK」をクリックします。これで設定は終了です。
  - ▶ Internet ボタンの設定を変更するとき  
☞ 「ボタンが押されたら、その他のプログラムを起動する」の  をクリックして  にし、手順 4 へ進みます。
  - ▶ Application ボタン 3 の設定を変更するとき  
☞ 手順 4 へ進みます。
- 4 「[スタート]メニューを参照」をクリックします。



- 5 表示される一覧から登録するアプリケーション名をクリックし、「OK」をクリックします。
- 6 「OK」をクリックします。



## 8

## スクロールボタンを使う

スクロールボタンを使うと、マウスで簡単に画面をスクロールすることができます。なお、使用するアプリケーションによって、動作が異なったり、お使いになれないことがあります。

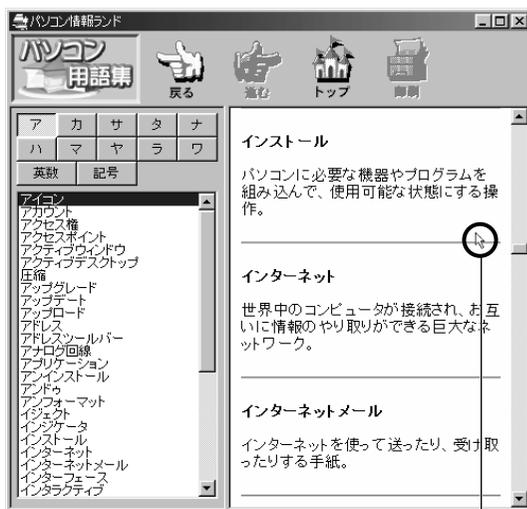
例として、ここでは画面マニュアル『パソコン情報ランド』の「パソコン用語集」でスクロールボタンを使って、右ウィンドウの用語説明を見てみましょう。

## スクロールさせる～スライドして使う

- 1 見たい情報が表示されている領域(ここでは右ウィンドウの中)をクリックします。

スクロールする領域が確定します。

- 2 右ウィンドウの中にマウスポインタを合わせます。

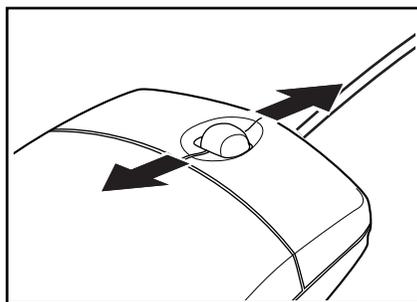


マウスポインタを合わせます

- 3 スクロールボタンを、マウスの後方へスライドさせます。

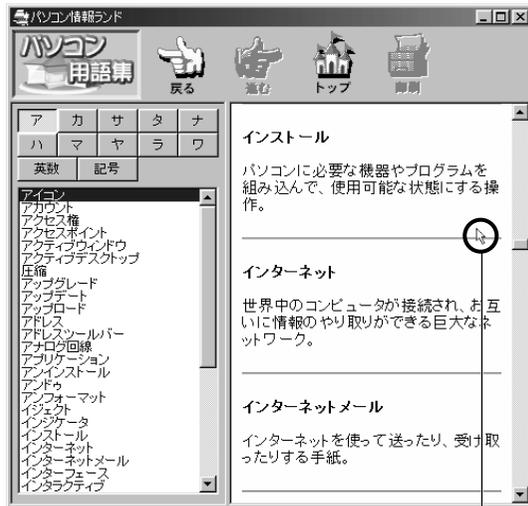
ウィンドウの中の表示がスクロールしていきます。

スクロールボタンをマウスの前方へスライドさせると、反対方向にスクロールしていきます。



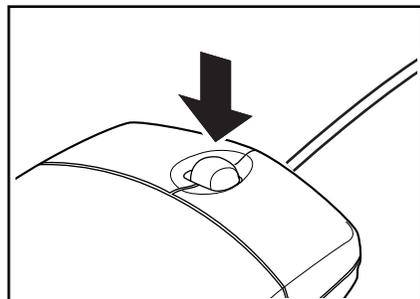
# スクロールさせる～押して使う

1 右ウィンドウの中にマウスポインタを合わせます。

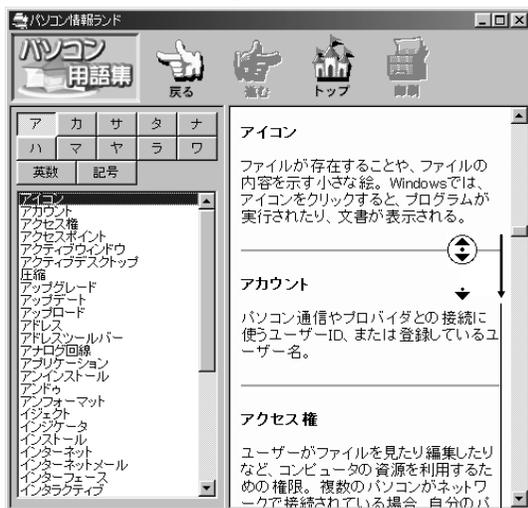


マウスポインタを合わせます

2 スクロールボタンを押します。  
マウスポインタの表示が になります。



3 スクロールさせたい方向にマウスを動かします。



マウスを動かします

ウィンドウの中の表示がスクロールしていきます。  
マウスポインタの表示をに戻すには、もう一度スクロールボタンを押すか、クリックしてください。

2

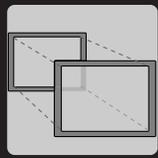
基本的な機能を使う(スクロールボタンを使う)

## アドバイス

スクロールする速さを調整できます

スクロールボタンを押したところからマウスを動かしたところまでの距離によって、スクロールする速さを調整できます。





# 9

## 画面の解像度や発色数を変える

画面の解像度や発色数の変更のしかたを説明します。

### 用語

#### 解像度

縦横にどれだけの点(ドット)を表示できるかを示すものです。

### アドバイス

解像度や発色数が指定されているときは

アプリケーションによっては、使用時の解像度や発色数が指定されていることがあります。必要に応じて変更してください。

1024×768の場合



800×600の場合



(画面は機種により若干異なります)

## 表示できる解像度と発色数

本パソコンで表示できる解像度や発色数は次のとおりです。

解像度	設定可能な発色数	K3/50, K3/50c
640×480ドット	16色	
	256色	
	HighColor (16ビット) TrueColor (24ビット)	
800×600ドット	256色	
	HighColor (16ビット)	
	TrueColor (24ビット)	
1024×768ドット	256色	
	HighColor (16ビット)	
	TrueColor (24ビット)	

- ・ ○は表示可能、×は表示不可、 はご購入時の設定です。
- ・ HighColor (16ビット)は6万5千色、TrueColor (24ビット)は1619万色です。

## 解像度や発色数を変更する

### 重要

アプリケーションや「FM 便利ツール」などの常駐しているプログラムを終了してください。解像度、発色数を変更すると、再起動しなければならないことがあります。作業中のデータを保存し、アプリケーションや「FM 便利ツール」などの常駐しているプログラムを終了させてから変更してください。

#### アクティブデスクトップを解除してください

解像度と発色数を変更する前に、次の手順に従ってアクティブデスクトップの設定を解除してください。

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」、「アクティブデスクトップ」の順にマウスポインタを合わせ、「Web ページで表示」をクリックし、チェックマークを外します。

解像度と発色数を変更した後に、改めてアクティブデスクトップに設定してください。

#### 解像度や発色数を変更するとき

- ・ アプリケーションによっては、解像度や発色数の設定により、正常に動作しないことがあります。お使いになるアプリケーションの動作環境を確認し、解像度や発色数を変更してください。
- ・ 解像度を変更するときに、一時的に画面が乱れることがありますが、動作には問題ありません。

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。

「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。

- 2  (画面) をクリックします。

- 3 「設定」タブをクリックします。



## 4 解像度や発色数を変更します。

解像度を変更するには、「画面の領域」の  を左右にドラッグしてください。

発色数を変更するには、「色」の  をクリックし、一覧から設定したい発色数をクリックしてください。

画面の領域  
画面の解像度を指定します。

色  
画面の発色数を指定します。



### アドバイス

#### リフレッシュレートを設定してください

リフレッシュレートの設定は、次の手順に従って行います。

- 1 「画面のプロパティ」ウィンドウの「設定」タブで、「詳細」をクリックします。  
「Intel(R) 810e Chipset Graphics Driver (DC133 FSB133) 4.11.01.2523」のプロパティウィンドウが表示されます。
- 2 「アダプタ」タブをクリックします。
- 3 「リフレッシュレート」が、「最適」になっていることを確認します。  
上記以外になっている場合は、右側の  をクリックし、選択します。
- 4 「OK」をクリックします。  
「画面のプロパティ」ウィンドウに戻ります。



### アドバイス

「互換性の警告」ウィンドウが表示されたときは

- 1 「新しい色の設定でコンピュータを再起動する」が  になっていることを確認し、「OK」をクリックします。
- 2 「システム設定の変更」ウィンドウで「はい」をクリックします。  
本パソコンが再起動します。

## 5 設定が終了したら「OK」をクリックします。

「OK」をクリックすると、画面にメッセージが表示されます。指示に従って再起動してください。



# 10

## お手入れのしかた

ここではパソコンを快適にお使いいただくために、パソコンのお手入れのしかたを説明します。

お手入れのしかたは、液晶ディスプレイ、マウス、フロッピーディスクドライブなど、各部によって異なります。それぞれの部分にあったお手入れをしてください。

### パソコン本体 / ACアダプタ / 液晶ディスプレイ / キーボードのお手入れ



**感電** お手入れを行うときは、パソコン本体および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。  
接続されている機器を、パソコン本体から取り外してください。



シンナーやベンジンなどの揮発性の強いものや、化学ぞうきんは絶対に使わないでください。  
アルコール成分を含んだ市販のクリーナーは使用しないでください。  
液晶ディスプレイ部分は、ガーゼなどの柔らかい布で拭いてください。

パソコン本体や AC アダプタを清掃するときは、必ず AC アダプタをパソコン本体から取り外してください。

パソコン本体の通風孔にほこりがたまらないように、定期的に清掃してください。

汚れは、乾いた柔らかい布で軽く拭き取ってください。

汚れがひどいときは、水または中性洗剤を含ませた布を固く絞って、拭き取ってください。中性洗剤を使って拭いた場合は、水に浸した布を固く絞って、中性洗剤を拭き取ってください。また拭き取るときは、パソコン本体や AC アダプタ、液晶ディスプレイ、キーボードに水が入らないよう十分注意してください。

### マウスのお手入れ



**感電** お手入れを行うときは、パソコン本体および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。  
接続されている機器を、パソコン本体から取り外してください。

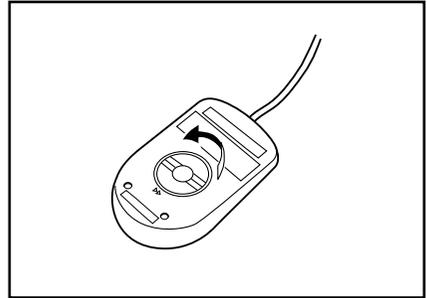


シンナーやベンジンなどの揮発性の強いものや、化学ぞうきんは絶対に使わないでください。  
アルコール成分を含んだ市販のクリーナーは使用しないでください。

表面の汚れは、乾いた布か、または水中性洗剤を含ませた布で軽く拭き取ってください。中性洗剤を使って拭いた場合は、水に浸した布を固く絞って、中性洗剤を拭き取ってください。

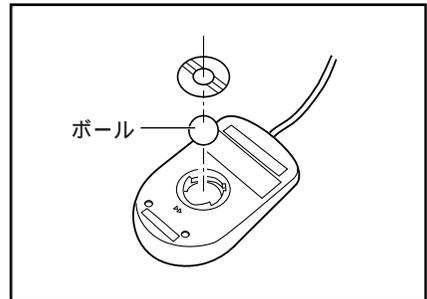
また、マウスの裏にあるボールが汚れていると、すべりが悪くなります。マウスのボールは、マウスから取り外してクリーニングできます。ボールのクリーニング方法は次のとおりです。

- 1** マウスの裏ボタンを、矢印の方向に回して取り外します。



- 2** ボールを取り出して、水または中性洗剤で洗います。

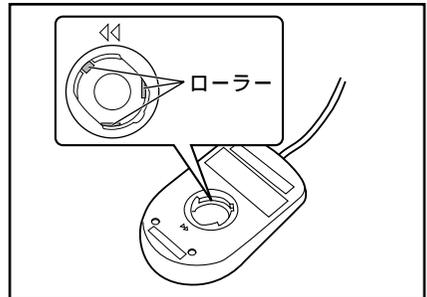
洗ったあと、乾いた布でよく拭いて十分に乾かしてください。



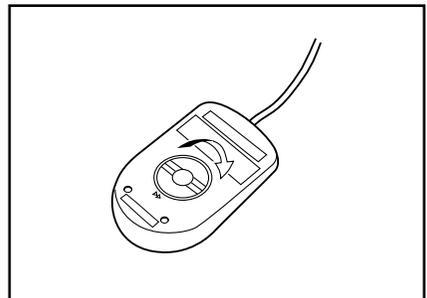
- 3** マウス内部の汚れを拭き取ります。

水に浸して固く絞った布で、マウス内部および裏ボタンを拭きます。

ローラー部分は水で湿らせた綿棒などで拭いてください。



- 4** ボールをマウスに戻し、裏ボタンを矢印の方向に回して取り付けます。



**アドバイス**  
ゴミは完全に除去してください

ローラー部分にゴミがたまると、マウスが正常に動かない原因となることがあります。

## フロッピーディスクドライブのお手入れ

フロッピーディスクは長い期間使っていると、ヘッド（データを読み書きする部分）が汚れてきます。ヘッドが汚れると、データを正常に読み書きできなくなります。別売りのクリーニングフロッピーをご購入になり、3ヶ月に1回はクリーニングを行ってください。

### 用意するもの

商品名 : クリーニングフロッピーマイクロ

商品番号 : 0212116

(富士通コワーコ株式会社取り扱い品 お問い合わせ : 03-3342-5375)

### お手入れのしかた



けが クリーニングフロッピーをセットまたは取り出すときには、フロッピーディスクドライブの差し込み口に指などを入れしないでください。けがの原因となることがあります。

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「プログラム」にマウスポインタを合わせ、「MS-DOS プロンプト」をクリックします。  
「MS-DOS プロンプト」ウィンドウが表示されます。
- 2 「C:¥WINDOWS>」に続けて次のように入力し、**[Enter]**を押します。  
c:¥fjuty¥cIndsk 0  
「cIndsk」と「0（数字のゼロ）」の間は、を1回押してください。
- 3 クリーニングフロッピーをフロッピーディスクドライブにセットし、**[Enter]**を押します。  
「クリーニング中です。あとXX秒」と表示され、クリーニングがはじまります。しばらくすると、「ヘッドクリーニングが終了しました。」と表示されます。
- 4 フロッピーディスクアクセス表示ランプが消えているのを確認し、クリーニングフロッピーを取り出します。
- 5 「MS-DOS プロンプト」ウィンドウ右上の **×** (閉じるボタン) をクリックします。  
「MS-DOS プロンプト」ウィンドウを全画面表示しているときは、exit と入力し、**[Enter]**を押してください。



## 第 3 章

# オプション機器を活用しよう！

パソコンは、さまざまなオプション機器を接続して機能を拡張することができます。

お使いになる目的に応じて、オプション機器を取り付けてください。

本章では、別売りのオプション機器を使うために必要な、接続や設定のしかたについて説明しています。

1. オプション機器を取り付ける前に .....	50
2. つないで活用！！ .....	54
3. メモリを増やす .....	70
4. MOドライブを増設する .....	78
5. ハードディスクを増設する .....	83



# 1

## オプション機器を取り付ける前に

ここでは、本パソコンに取り付けられるオプション機器の種類や、オプション機器を取り付ける前に知っておいていただきたいことなどを説明します。

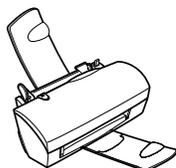
### 取り付けられるオプション機器

別売りのオプション機器を取り付けると、こんなことができます。

そのままつなごう！～本体カバーを外さないで接続できるもの～

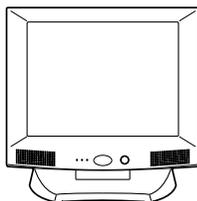
文書や画面を印刷したい！  
～プリンタを接続する～（☞P.54）

お気に入りのイラストや写真を取り込みたい！  
～デジタルカメラ/スキャナを使う～（☞P.64）



オリジナルMDをつくりたい！  
～MDレコーダーを接続する～  
（☞P.68）

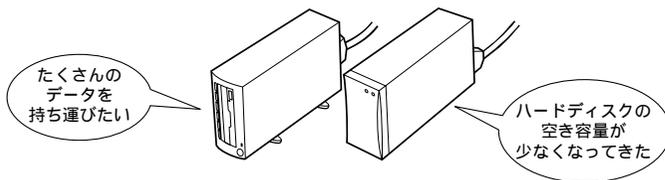
便利なカード！  
～PCカードをセットする～  
（☞P.58）



ISDN回線に接続したい！  
～ターミナルアダプタを接続する～（☞P.66）



つないでラクラク！  
～USB機器を接続する～（☞P.67）



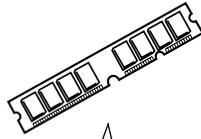
たくさんのデータを  
持ち運びたい

ハードディスクの  
空き容量が  
少なくなってきた

よりたくさんのデータを保存したい！  
～MOドライブを増設する～（☞P.78）  
～ハードディスクを増設する～（☞P.83）

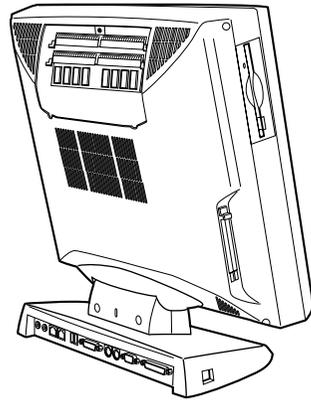
## パワーアップ! ~ 本体カバーを外して接続するもの ~

パソコンの処理をより快適にしたい!  
~ メモリを増やす ~ (P.70)



「メモリ容量が  
不足しています」  
のメッセージが  
よく出る

たくさんの  
アプリケーションを  
同時に使いたい



3

オプション機器を活用しよう! (オプション機器を取り付ける前に)

## オプション機器の接続にあたって

本パソコンで別売りのオプション機器をお使いになるときは、次の流れにそって行ってください。

### アドバイス

純正品をお使いください

接続するオプション機器は、弊社純正品をお使いいただくことをお勧めします。他社製品をお使いになる場合は、本パソコンで正しく動作することを製造元のメーカーにご確認ください。

### オプション機器がACPIモードに対応していないときは

増設するオプション機器がACPIに対応していないときは、本パソコンの設定をAPMモードに変更する必要があります。APMモードへの変更のしかたについては「APMについて」(P.133)をご覧ください。

### 用語

#### ドライバ

ドライバとは、パソコンに取り付けた機器を正しく扱うためのソフトウェアのことです。「デバイスドライバ」とも呼ばれます。

ドライバは、OSとオプション機器との仲立ちをします。パソコンのプログラムが実行しようとする命令を、オプション機器が理解できるように翻訳するのが役目です。

ドライバは、それぞれのオプション機器に対して専用のものがあります。メーカーや機種が違えばドライバも異なります。ほとんどのオプション機器には、ドライバがCD-ROMやフロッピーディスクなどで添付されています。

### まずは準備から！必要なものを用意しよう

本パソコンは「PC/AT互換機」という規格のパソコンです。

接続に使うケーブルも「PC/AT互換機」と表示されたものを用意しましょう。

また、接続するオプション機器は、弊社純正品をお使いいただくことをお勧めします。

### 準備が整ったら、いよいよ接続！

オプション機器によって取り付け方法が異なります。

必ずオプション機器のマニュアルもあわせてご覧ください。

#### 本体カバーを外さずに接続するもの

プリンタ、PCカード、デジタルカメラ、スキャナ、ターミナルアダプタ、USB機器、MOドライブ、ハードディスク、MDレコーダー など

#### 本体カバーを外して接続するもの

メモリ

### あと一歩！ドライバをインストールしよう

オプション機器には、接続するだけで使えるものと、設定作業が必要なものがあります。必ずオプション機器のマニュアルもあわせてご覧ください。

### 完了！オプション機器を使いこなそう！

## 取り付けるときはここに注意！！！！

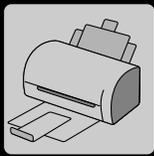
オプション機器を取り付けるときは、次のことに注意してください。

- ・ Windows98 のセットアップは終了していますか？  
Windows98のセットアップを行う前に取り付けると、セットアップが正常に行われないおそれがあります。☞『取扱説明書』をご覧ください、Windows98 のセットアップを行ってください。
- ・ 一度に取り付けるオプション機器は 1 つだけ！  
一度に複数のオプション機器を取り付けると、ドライバのインストールなどが正常に行われないおそれがあります。
- ・ 作業前にパソコン本体および接続されている機器の電源は OFF に！  
安全のため、必ず AC アダプタを取り外し、電源プラグをコンセントから抜いてください。

さらに本体カバーを取り外して作業する場合には、次のことにも注意してください。

- ・ 電源を切った直後は作業をしない！  
電源を切った直後は、パソコン本体内部の装置が熱くなっています。電源を切ったあと 10 分ほど待ってから、作業をはじめましょう。
- ・ 内部のケーブル類や装置の扱いに注意！  
傷つけたり、加工したりしないでください。
- ・ 一度大きな金属質のものに手をふれて静電気を放電しよう！  
内蔵オプション機器は、基板や電子部品がむきだしになっています。これらの部分は、人体にたまる静電気によって損傷を受ける場合があります。
- ・ 基板表面やはんだ付けの部分、コネクタ部分には触れないで！  
金具の部分や基板のふちを持つようにしてください。
- ・ 適切な工具を用意しよう！  
パソコン本体のメモリカバーの取り外しには、プラスのドライバーが必要です。ネジの頭をつぶさないように、ネジのサイズに合ったドライバーをお使いください。

なお、本書で説明している以外のオプション機器の取り付けや分解、本パソコンの改造を行った場合は、保証の対象外となります。



# 2

## つないで活用！！

ここでは、つなぐだけで簡単に使えるプリンタ、PCカード、デジタルカメラ、スキャナ、ターミナルアダプタ、USB機器、MDレコーダーの接続について説明します。



感電

オプション機器の取り付けや取り外しを行うときは、パソコン本体および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いたあとに行ってください。  
感電・火災または故障の原因となります。



故障

- ・オプション機器ケーブルは正しく接続してください。誤った接続状態でお使いになると、パソコン本体およびオプション機器が故障する原因となることがあります。
- ・オプション機器、およびオプション機器ケーブルは、弊社純正品をお使いください。純正品以外のオプション機器、およびオプション機器ケーブルをお使いになると、故障の原因となることがあります。

### 文書や画面を印刷したい！～プリンタを接続する～

年賀状、カード、企画書・・・作ったものを印刷したいときは、プリンタを接続します。



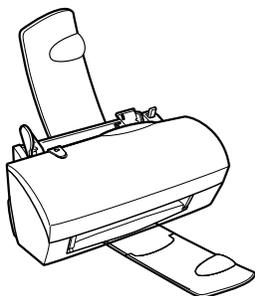
#### アドバイス

#### オプション機器の電源について

オプション機器の電源はパソコン本体の電源を入れる前に入れるのが一般的ですが、パソコン本体より後に電源を入れるものもあります。オプション機器のマニュアルをご覧ください。

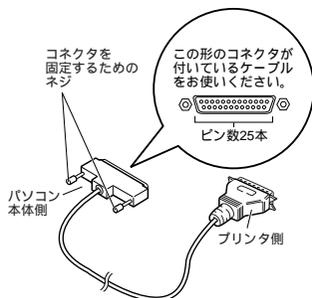
#### 必要なものを用意する

プリンタを接続するには、次のものがが必要です。



#### プリンタ

パソコン本体背面の平行コネクタ（☛P.7）に接続するものや、USBポート（☛P.6）に接続するものなどがあります。Windows 98で動作可能なものをご購入ください。



#### プリンタケーブル

プリンタとパソコンを接続するためのケーブルです。次の形状のケーブルがお使いになれます。

- ・「PC/AT互換機用」または「DOS/V用」などと記載されている
- ・コネクタは「D-SUB25ピン」
- ・ネジで固定する形のもの

プリンタケーブルは、通常プリンタに添付されていません。別途ご購入ください。また、USBケーブルで接続するプリンタもあります。

## プリンタのドライバ

プリンタに添付されています。

プリンタドライバのフロッピーディスクが数枚添付されている場合は、「Windows 98 対応」「PC/AT 互換機用」などと記載されたものをお使いください。

## プリンタのマニュアル

CD-ROM で見るマニュアルもあります。

### 重要

弊社純正品をお使いいただくことをお勧めします

純正品以外のプリンタ、およびプリンタケーブルを取り付けて、正常に動かなかったり、本パソコンが故障しても、保証の対象外となります。

## プリンタを接続する

ここでは、プリンタをパソコン本体の平行コネクタに接続する方法について説明します。

USB ポートに接続するプリンタについては、「つないでらくらく！～USB 機器を接続する～」(P.67)をご覧ください。

### 重要

プリンタは、Windows 98 のセットアップ終了後に取り付けてください

Windows 98 のセットアップ(『取扱説明書』)を行う前に取り付けると、Windows 98 のセットアップが正常に行われずおそれがあります。

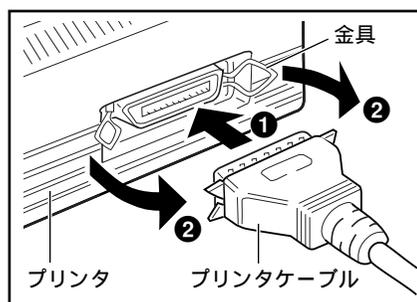
プリンタのマニュアルもご覧ください

接続方法は、プリンタによって異なります。プリンタのマニュアルもあわせてご覧ください。

**1** パソコン本体および接続されている機器の電源を切り、すべての機器の電源プラグをコンセントから抜きます。

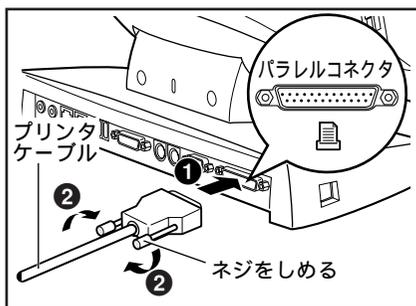
**2** プリンタ側のコネクタの形に合わせて、プリンタケーブルのネジが付いていないコネクタを接続します。

プリンタ側のコネクタの両側に金具が付いている場合は、金具でプリンタケーブルを固定してください。



**3** パソコン本体背面の平行コネクタの形に合わせて、プリンタケーブルのネジの付いているコネクタを接続します。

プリンタケーブルのコネクタの両側のネジをしめて、プリンタケーブルを固定してください。



**4** プリンタに電源ケーブルを接続します。

プリンタに電源ケーブルがつながっている場合もあります。詳しくは、プリンタのマニュアルをご覧ください。

**5** 本パソコンおよび接続されている機器と、プリンタの電源プラグを、コンセントに差し込みます。

**6** 初めて接続するプリンタの場合は、パソコン本体の電源を入れ、続いてプリンタのマニュアルをご覧ください、ドライバをインストールします。

ここに注意してください

・プリンタドライバをインストールするときの注意

プリンタのマニュアルに「接続して電源を入れると自動的にドライバのインストールが始まります。」と記載されていても、お使いの環境によっては、プリンタのマニュアルに記載されている手順どおりに設定が進まないことがあります。そのときは、次の手順でドライバをインストールしてください。

1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「プリンタ」をクリックします。

2 「プリンタの追加」をクリックします。  
「プリンタの追加ウィザード」ウィンドウが表示されます。

3 画面の指示に従って、ドライバをインストールしてください。

・ Windows98 の CD-ROM を要求するメッセージが表示されたときは

「OK」をクリックしてください。「ファイルのコピー」ウィンドウが表示されます。

「ファイルのコピー元」に `c:\windows\options\cabs` と入力し、「OK」をクリックしてください。

・ CD-ROMからプリンタドライバをインストールする場合に、ドライブ名を指定するときは次のように入力してください

`e:¥`

↑ eには、お使いのDVD-ROMドライブ名またはCD-ROMドライブ名を入力してください。

・ 通常使うプリンタに設定してください

接続したプリンタは、通常使うプリンタに設定してください。



## 用語

### プラグアンドプレイ (Plug&Play/PnP)

プラグアンドプレイとは、パソコン本体に接続される機器の設定を自動化するためのしくみのことです。特別な設定をしなくても、プリンタやその他の機器を接続しただけで使えるようになります。Windows98はプラグアンドプレイに対応しています。

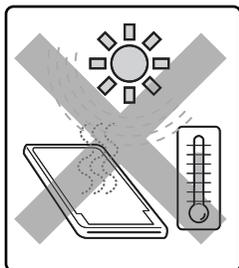
- ・ 弊社製プリンタ「XJ-350/XJ-550」をお使いのとき
  - ・ 本パソコンには、次のプリンタドライバがあらかじめ用意されています。そのため、これらのプリンタをお使いになる場合は、プラグアンドプレイでプリンタが認識されたあとに、自動的にドライバのインストールが始まります。  
XJ-350 : V1.0L10    XJ-550 : V1.0L10 (2000年1月現在)
  - ・ プリンタドライバは、バージョンアップされることがあります。弊社純正品の最新版のドライバは、パソコン通信やインターネットなどのオンライン情報サービスにてご案内します。
    - @nifty 富士通FMシリーズ情報「FM INFO」  
(GO FMINFOでアクセスできます)
    - インターネット富士通パソコン情報ページ「FM WORLD」  
(<http://www.fmworld.ne.jp>)
  - ・ 最新版のドライバのインストールは、次の流れにそって行ってください。
    - 1 プリンタの電源を切ります。
    - 2 古いバージョンのドライバを削除します。  
削除のしかたについては、プリンタのマニュアルをご覧ください。
    - 3 本パソコンを再起動します。
    - 4 Windows98が起動したら、プリンタの電源を入れます。
    - 5 ダウンロードした最新版のドライバを、「プリンタの追加」でインストールします。本パソコンを再起動するときにプリンタの電源が入っていると、プラグアンドプレイが行われ、古いドライバが自動的にインストールされてしまいます。必ず、プリンタの電源を切ってから、本パソコンを再起動してください。  
インストール方法などについて詳しくは、プリンタのマニュアルをご覧ください。
- ・ USB接続について  
プリンタをUSBポートに接続するには、USBケーブルのついたプリンタをご使用になるか、お使いのプリンタに合わせたUSB変換ケーブルを使用します。USB変換ケーブルには専用のドライバが添付されています。詳しくは、USB変換ケーブルのマニュアルをご覧ください。  
弊社製プリンタ「XJ-350/XJ-550」をお使いの場合は、必ず弊社製USB変換ケーブル(FMV-CBL721)をお使いください。この場合、プリンタドライバのインストール中にエラーメッセージが表示されたときは「閉じる」をクリックし、本パソコンを再起動してください。
- ・ スタンバイ状態について  
使用するプリンタがACPIに対応していない場合は、スタンバイ状態から元の状態に戻ったときに、エラーメッセージが表示されるなどの動作異常が起こる場合があります。  
ACPIに対応していないプリンタをお使いの場合は、ACPI対応のプリンタドライバをインストールしてください。ドライバに関しては、プリンタの製造元にお問い合わせください。ドライバが入手できない場合は、本パソコンの設定をAPMモードに変更してください(「APMについて」(P.133))。

## 便利なカード！～ PC カードをセットする～

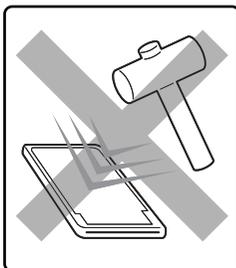
PC カードは、パソコンにさまざまな機能を追加するカードです。

### 気をつけてください～ PC カードを使うとき

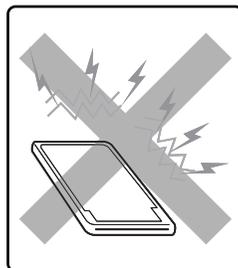
故障をふせぐため、PC カードをお使いになるときは、次の点にご注意ください。



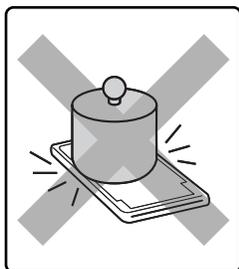
湿度の高い場所や直射日光のあたる場所には置かないでください。



強い衝撃を与えないでください。



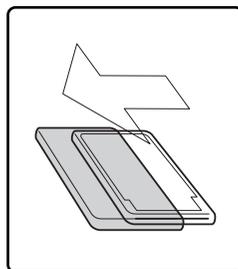
カードをこすったりして静電気を起こさないでください。



曲げたり重い物をのせないでください。



コーヒーなどの液体をかけないでください。



保管する場合は、必ず専用のケースに入れてください。

### 必要なものを用意する



PCカードは、弊社純正品をお使いください。  
純正品以外をお使いになると、感電、火災または故障の原因となります。

### 重要

弊社純正品をお使いいただくことをお勧めします

純正品以外の PC カードをセットして正常に動かなかったり、本パソコンが故障しても、保証の対象外となります。

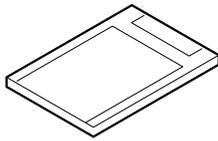
## アドバイス

PC Card Standard に対応した TYPE 、TYPE 、TYPE (Card Bus 対応) の PC カードが使えます

TYPE は 3.3mm、TYPE は 5mm、TYPE は 10.5mm の厚さです。

お使いになれない PC カードもあります

本パソコンでは、ZV ポート対応の PC カードは使えません。



### PC カード

PC Card Standard に対応した TYPE ~ TYPE の PC カードが使えます。

TYPE と TYPE のカードは、同時に 2 枚セットできます。TYPE のカードは 1 枚のみセットできます(他の PC カードとの同時使用はできません)。

本パソコンでは、SCSI カード、LAN カード等がお使いになれます。詳しくは、次の「コラム」をご覧ください。

### PC カードのドライバ

PC カードによっては、CD-ROM やフロッピーディスクで添付されています。

### PC カードのマニュアル

PC カードによって設定方法が異なります。必ず PC カードのマニュアルもご覧ください。



## 本パソコンでお使いになれる PC カードの種類

### コラム

#### SCSI カード

SCSI 規格の MO (光磁気ディスク) ドライブやハードディスクなどを接続するときに必要な PC カードです。

SCSI 規格の MO ドライブについて詳しくは「MO ドライブを増設する」(P.78) をご覧ください。また、ハードディスクについて詳しくは「ハードディスクを増設する」(P.83) をご覧ください。

#### LAN カード

複数台のパソコンやプリンタなどを接続し、データを転送したり共有したりするときに必要な PC カードです。LAN カードでパソコンやプリンタを接続するには、LAN ケーブルなどの LAN 機材も必要となります。

## セットする



け が PCカードをセットするときは、PCカードスロットに指などを入れないでください。  
けがの原因となることがあります。

### 重要

PCカードは、Windows98のセットアップ終了後にセットしてください

Windows98のセットアップ(☞『取扱説明書』)を行う前にセットすると、Windows98のセットアップが正常に行われずおそれがあります。

#### PCカードをセットするときの注意

PCカードをセットするときは、電源を切った状態で行ってください。

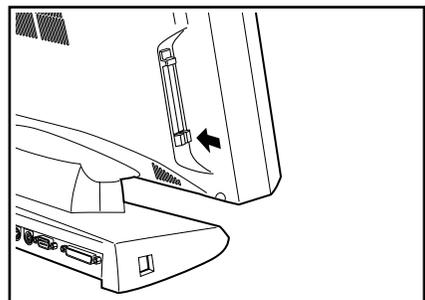
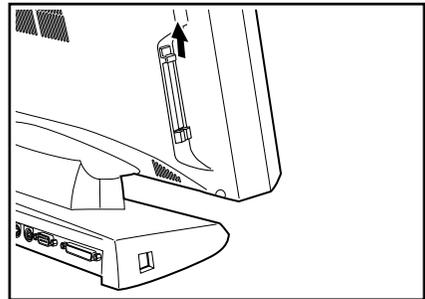
#### PCカードスロットについて

各PCカードスロットで使えるPCカードの種類は、以下のとおりです。

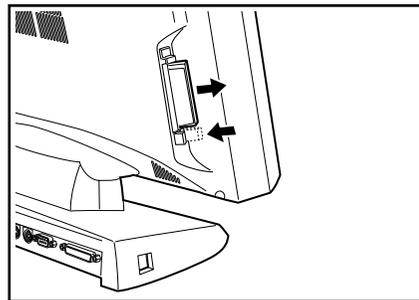
スロット	使用可能なPCカード
スロット1(本体前面側)	TYPE / /
スロット0(本体背面側)	TYPE /

OSによっては、PCカードスロットのスロット0、スロット1をそれぞれスロット1、スロット2と読み替える場合があります。

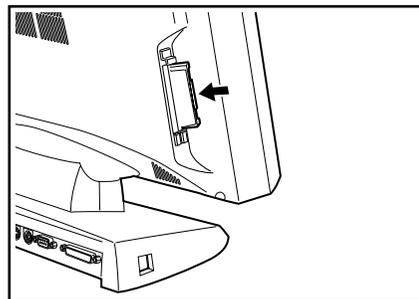
- 1** パソコン本体の電源を切ります。
- 2** PCカードストッパーを上側にスライドさせます。
- 3** PCカード取り出しボタンを押します。  
PCカード取り出しボタンを軽く一回押すと、ボタンが少し飛び出します。



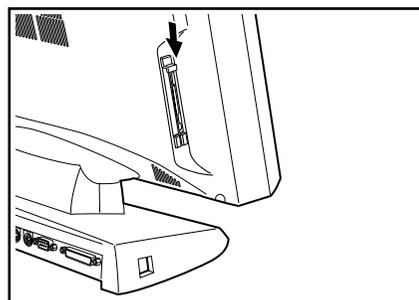
- 4** ダミーカードを取り出します。  
飛び出した PC カード取り出しボタンを押し、ダミーカードを取り出します。



- 5** PC カードをセットします。  
PC カードの製品名を本体背面側に向けて PC カードスロットに差し込みます。



- 6** PC カードストッパーを下側にスライドさせます。



- 7** パソコン本体の電源を入れます。

初めてセットする PC カードの場合は、ドライバのインストールという設定作業を行います。PC カードのマニュアルをご覧ください。画面の指示に従ってドライバをインストールしてください。



PC カードによっては、上記の画面は表示されず、自動的にドライバがインストールされることがあります。

### アドバイス

#### PC カードのコネクタ部分についての注意

コード付きの PC カードや、ケーブルを接続している PC カードのコネクタ部分に物をのせたり、ぶつけたりしないでください。破損の原因となります。

## 取り出す

### 重要

#### PCカードを取り出すときの注意

- ・必ず手順どおりにPCカードを取り出してください。手順どおりに行わないと、PCカードが壊れる原因となります。また、本パソコンが再起動したり、システムが停止することがあります。
- ・PCカードによっては、取り出すときにパソコン本体の電源を切る必要のあるものがあります。PCカードのマニュアルをご覧ください。

### 注意

 **けが** PCカードを取り出すときは、PCカードスロットに指などを入れしないでください。  
けがの原因となることがあります。

 **高温** 使用した直後のPCカードは、高温になっているときがあります。PCカードを取り出すときは、使用後しばらく待ってから取り出してください。  
火傷の原因となることがあります。

- 1** タスクバーの  (PCカード) をクリックします。
- 2** 「×××××の中止」をクリックします。  
×××××には、お使いのPCカードの名称が入ります。

### 重要

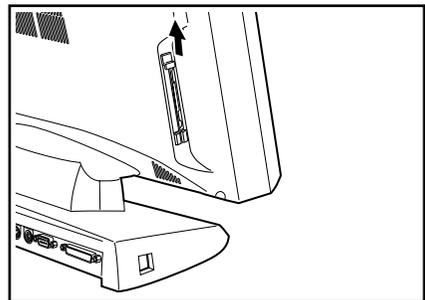
#### 必ず「XXXXXXの中止」をクリックしてください

「XXXXXXの中止」をクリックせずに、PCカードを取り外すと、PCカードが壊れる原因となります。また、本パソコンが再起動したり、システムが停止することがあります。

- 3** 「OK」をクリックします。



- 4** PCカードスロッパーを上側にスライドさせます。



### アドバイス

「このデバイスは取りはずせません」というメッセージが表示されたら

「OK」をクリックして、パソコン本体の電源を切ってから手順4へ進んでください。

☞「今日はおしまい。電源を切るには?」(P.15)

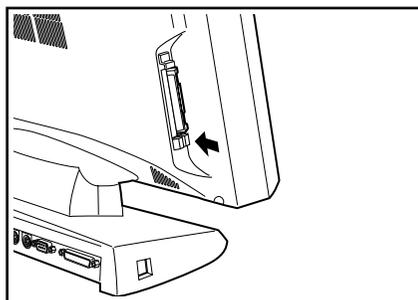
### 💡 アドバイス

コードやケーブルを引っ張らないでください

コード付きのPCカードや、ケーブルを接続しているPCカードを取り出すときは、コードやケーブルを引っ張らないでください。破損の原因となります。

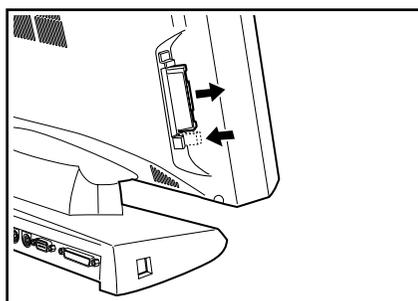
## 5 PCカード取り出しボタンを押します。

PCカード取り出しボタンを軽く一回押すと、ボタンが少し飛び出します。

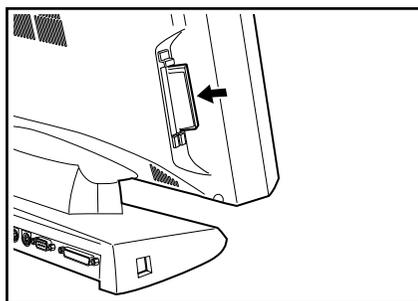


## 6 PCカードを取り出します。

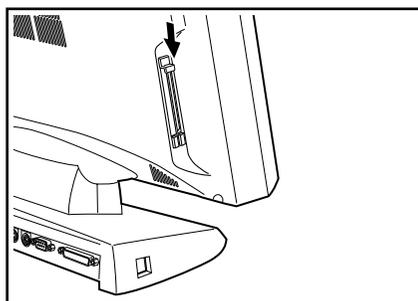
飛び出したPCカード取り出しボタンを押し、PCカードを取り出します。



## 7 ダミーカードをPCカードスロットにセットします。



## 8 PCカードストッパーを下側にスライドさせます。

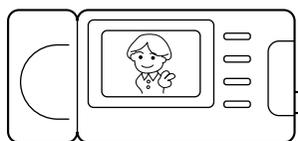


## お気に入りのイラストや写真を取り込みたい! ~デジタルカメラ/スキャナを使う~

お気に入りのイラストや写真を取り込んで、オリジナルの画像を作りたい・・・  
そんなときはデジタルカメラやスキャナを接続します。

### 必要なものを用意する(デジタルカメラ)

デジタルカメラを使うには、次のものがが必要です。



#### デジタルカメラ

デジタルカメラは、画像をデジタル情報として記録するカメラで、各社から発売されています。

デジタルカメラからパソコンに画像データを取り込む方法は、お使いのデジタルカメラによって次のように異なります。

- ・ PCカード(☞P.58)やフロッピーディスクを使って画像データを取り込むもの
  - ・ パソコン本体背面のシリアルコネクタ(☞P.7)やUSBポート(☞P.6)に接続して画像データを取り込むもの
- デジタルカメラのマニュアルをご覧ください、必要なものをご用意ください。

#### 専用ケーブル

デジタルカメラと本パソコンをつなぐケーブルです。ケーブルはデジタルカメラに添付されている場合もあります。

#### ソフトウェア

撮影した写真をパソコンに取り込むためのソフトウェアや、撮影した写真を見たり、文字やイラストを入れて編集したりするためのソフトウェアが必要です。これらのソフトウェアは、デジタルカメラに添付されている場合もあります。

本パソコンには、写真をいろいろ活用できるソフトウェア「らくらく写真館」が添付されています。

#### デジタルカメラのマニュアル

## デジタルカメラを使うには

ご購入されたデジタルカメラによって、接続方法が異なります。

### PC カードスロットに接続するもの

「便利なカード！～ PC カードをセットする～」(☞P.58)をご覧ください。

### パソコン本体背面のシリアルコネクタに接続するもの

ケーブルで、デジタルカメラとパソコン本体背面のシリアルコネクタ(☞P.7)をつなぎます。つないだあと、ケーブルのコネクタの両側のネジをしめて固定してください。

### パソコン本体背面の USB ポートに接続するもの

「つないでらくらく！～ USB 機器を接続する～」(☞P.67)をご覧ください。

なお、デジタルカメラの活用について詳しくは、『使いこなす本ソフト編』をご覧ください。

## 必要なものを用意する(スキャナ)

スキャナを使うには、次のものが必要です。

### スキャナ

スキャナは、コピー機のような形のフラットベッド型が一般的ですが、ほかにもハンディスキャナや、フィルムから直接写真を取り込めるフィルムスキャナなどもあります。パソコン本体背面の USB ポート(☞P.6)やパラレルコネクタ(☞P.7)に接続するものや SCSI カードという拡張カード(本パソコンでは PC カードスロットにセットするタイプ)を使うもの(SCSI 規格)などがあります。

スキャナには TWAIN という規格があり、フォトタッチソフトのほとんどがこの規格に対応しています。TWAIN 対応のスキャナをお使いになることをお勧めします。



### アドバイス

#### SCSI 規格のスキャナをお使いになるときは

スキャナの他に、SCSI カード(PC カードタイプ)、SCSI ケーブル、終端抵抗(ターミネータ)が必要になります。SCSI 規格のコネクタは数種類あります。対応するケーブルと終端抵抗も異なりますので、よくご確認ください。SCSI カード(PC カードタイプ)、SCSI ケーブル、終端抵抗(ターミネータ)について詳しくは、「MO ドライブを増設する」の「必要なものを用意する」(☞P.79)をご覧ください。

### フォトタッチソフト(画像を加工するソフトウェア)

取り込んだ画像の色を調整したり、画像を合成したり、自分の好きなファイル形式に変換したりするためのソフトウェアです。

本パソコンには、「らくらく写真館」というフォトタッチソフトが添付されています。また、スキャナに添付されているフォトタッチソフトもあります。さらに多くの機能を使いたいときには市販のソフトウェアをご購入ください。

### スキャナのドライバ

スキャナに添付されています。

スキャナのドライバのフロッピーディスクが数枚添付されている場合は、「Windows 98 対応」「PC/AT 互換機用」などと記載されたものをお使いください。

### スキャナのマニュアル



## 用語

### SCSI (スカジー)

機器の接続に関する規格のひとつです。SCSI 規格の機器には、スキャナのほかに、MO ドライブやハードディスクなどがあります。

### TWAIN (トゥウエイン)

画像データをコンピュータに取り込むための統一規格です。

## スキャナを使うには

ご購入されたスキャナによって、接続方法が異なります。詳しくは、スキャナのマニュアルをご覧ください。

### パソコン本体背面の平行コネクタに接続するもの

ケーブルで、スキャナとパソコン本体背面の平行コネクタ(☞P.7)をつなぎます。本パソコンでは、コネクタをネジで固定する形のケーブルをお使いください。接続したあと、スキャナのドライバをインストールします。

### パソコン本体背面の USB ポートに接続するもの

「つないでらくらく！～USB機器を接続する～」(☞P.67)をご覧ください。

### SCSI カードに接続するもの

PCカードタイプのSCSIカードをPCカードスロットに取り付けます。取り付けかたなどについては「便利なカード！～PCカードをセットする～」(☞P.58)をご覧ください。

SCSIカードを取り付けたあとに、SCSIケーブルでSCSIカードとスキャナをつなぎます。スキャナには、終端抵抗(ターミネータ)という器具を取り付けます。また、終端抵抗が内蔵されているスキャナもあり、ディップスイッチなどで設定する必要があるものもあります。

接続したあと、スキャナのドライバをインストールします。

## ISDN回線に接続したい！～ターミナルアダプタを接続する～

ISDN回線に接続して、もっと快適にネットワークを楽しみたい・・・そんなときはターミナルアダプタを接続します。

ISDN回線に接続する方法について詳しくは、ターミナルアダプタのマニュアルをご覧ください。なるか、NTTにお問い合わせください。

## 必要なものを用意する

ターミナルアダプタを使うには、次のものがが必要です。

### ターミナルアダプタ

ISDN回線に接続するために必要な機器です。パソコン本体背面のシリアルコネクタ(☞P.7)に接続するものやUSBポート(☞P.6)に接続するものなどがあります。

### 専用ケーブル

ターミナルアダプタと本パソコンをつなぐケーブルです。通常、ターミナルアダプタに添付されています。添付されていない場合は、お使いになるターミナルアダプタに合ったケーブルをご購入ください。

### ターミナルアダプタのドライバ

ターミナルアダプタによっては、ドライバが必要なものがあります。ターミナルアダプタに添付されているドライバをご用意ください。

ターミナルアダプタのドライバのフロッピーディスクが数枚添付されている場合は、「Windows98対応」「PC/AT互換機用」などと記載されたものをお使いください。

### ターミナルアダプタのマニュアル

## ターミナルアダプタを接続するには

ご購入されたターミナルアダプタによって、接続方法が異なります。

### パソコン本体背面のシリアルコネクタに接続するもの

専用のケーブルでターミナルアダプタとパソコン本体背面のシリアルコネクタ(←P.7)をつなぎます。つないだあと、ケーブルのコネクタの両側のネジをしめて固定してください。

### USB ポートに接続するもの

「つないでらくらく! ~ USB 機器を接続する~」(←P.67)をご覧ください。

ターミナルアダプタをISDN回線に接続するには、DSU(ディーエスユー)という機器が別に必要な場合もあります。また、パソコンでFAXを送受信するには、パソコン本体のモデムとターミナルアダプタをモジュラーケーブルでつなぐ必要があります。詳しくは、ターミナルアダプタのマニュアルをご覧になるか、NTTにお問い合わせください。

## つないでらくらく! ~ USB 機器を接続する ~

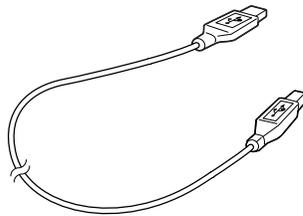
USB 機器を接続して、自分の思いどおりのパソコンにしましょう。

### 必要なものを用意する

USB 機器を使うには、次のものがが必要です。

#### USB 機器

本パソコンに添付されているマウス、キーボードの他に、プリンタ、CCDカメラ、ターミナルアダプタなどがあります。お使いになる目的に応じてご用意ください。



#### USB ケーブル

USB機器と本パソコンをつなぐケーブルです。USB機器に添付されている場合もあります。

マウスなどのようにケーブルが不要なものもあります。

#### USB 機器のドライバ

通常はUSB機器に添付されています。

#### USB 機器のマニュアル



### 用語

#### USB(ユーエスピー)

Universal Serial Bus という規格の略称です。USB規格に対応している機器には、次のようなものがあります。

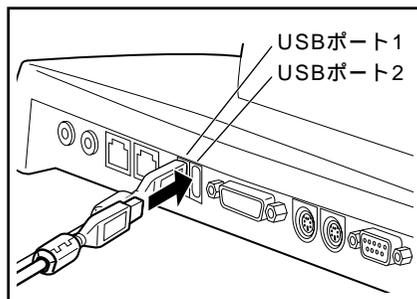
- ・マウス
- ・キーボード
- ・プリンタ
- ・ターミナルアダプタ
- ・スピーカー
- ・デジタルカメラ
- ・スキャナ
- ・CCDカメラ

## USB 機器を使うには

取り付けかたは、次のとおりです。

- 1 **パソコン本体背面の USB ポート 2 に、USB 機器のケーブルを接続します。**

USB 機器のケーブルのコネクタの  マークを背面から見て左にして、差し込んでください。



- 2 **ドライバをインストールします。**

ドライバをインストールしなくても、接続するだけで使える USB 機器もあります。詳しくは、USB 機器のマニュアルをご覧ください。

## オリジナルMDをつくりたい! ~ MDレコーダーを接続する ~

MD (ミニディスク) レコーダーを接続して、自分だけのオリジナル MD をつくることができます。

MD レコーダーの接続について詳しくは、MD レコーダーのマニュアルをご覧ください。

### 必要なものを用意する

MD レコーダーを接続するには、次のものがが必要です。

#### MD

MD は音楽をデジタル情報として記録する 8cm のディスクで、各社から発売されています。

#### MD レコーダー

再生専用のものはお使いになれません。録音可能なものをお使いください。

また、サンプリング周波数 48kHz に対応し、光デジタルオーディオ入力端子を搭載したものをお使いください。

#### 光デジタルオーディオケーブル

本パソコンで使用できる光デジタルオーディオケーブルの組み合わせは次のとおりです。

パソコン側	MD 側
丸形 (光ミニプラグ)	丸形 (光ミニプラグ)
丸形 (光ミニプラグ)	角形 (光プラグ)

### アドバイス

パソコン本体の電源を入れたままでも接続できます

USB 機器は、パソコン本体の電源を切らずに、抜き差しできます。

### アドバイス

出力可能な音源は WAVE と MIDI です  
出力されるサンプリング周波数は 48kHz のみです。

## MD レコーダーを接続する

MD レコーダーを接続する前に、光デジタルオーディオ出力を有効にする設定を行います。

### 重要

光デジタルオーディオ出力端子をお使いになるときは

次の手順に従って、光デジタルオーディオ出力端子の設定を有効にしてください。

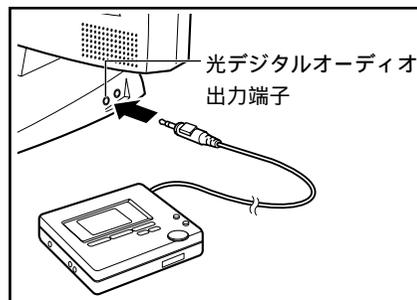
- 1 タスクバーの  (音量) を右クリックします。
- 2 表示されたメニューの「音量コントロールを開く」をクリックします。  
「マスタ音量」ウィンドウが開きます。
- 3 「オプション」メニューの「トーン調整」をクリックします。  
「マスタ音量」に「トーン」が表示されます。
- 4 「トーン」をクリックします。  
「マスタ音量の詳細設定」ウィンドウが開きます。
- 5 「そのほかの調整」にある「1. SPDIF (1)」の  をクリックし、 にします。
- 6 「閉じる」をクリックします。
- 7 「マスタ音量」ウィンドウ右上の  (閉じるボタン) をクリックします。  
「マスタ音量」ウィンドウが閉じます。

### アドバイス

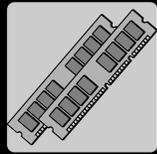
MD レコーダーのみ  
お使いになれます

ヘッドホン端子と光デジタルオーディオ出力端子は共用です。そのため MD レコーダーをお使いのときは、ヘッドホンがお使いになれません。

- 1 パソコン本体側面の光デジタルオーディオ出力端子と MD レコーダーを光デジタルオーディオケーブルで接続します。



MD に録音する方法については、 『使いこなす本ソフト編』をご覧ください。



# 3

## メモリを増やす

「複数のアプリケーションを起動したら、パソコンの動作が遅くなった」「大きなファイルを使おうとするとメモリ不足と表示されてしまう」

このような場合には、本パソコンのメモリを増やすと、パソコンの処理がより速く快適になります。

### メモリを増やすとは？

#### メモリとはどんなもの？

メモリは、CPUが処理するデータやプログラムを一時的にためておく装置です。プログラムやデータは本パソコンに内蔵されているハードディスクに保存されていますが、CPUが処理するたびにハードディスクから読み込んでくると時間がかかります。CPUがメモリからデータを読み込む速度はハードディスクからデータを読み込む速度よりも速いので、必要なプログラムやデータをメモリにためておけば処理が速くなります。メモリは、よく「机」にたとえられます。勉強や仕事をするときに引き出しから本や書類を取り出して机の上に広げるように、ハードディスクに保存されているプログラムやデータが、メモリという「机の上」に広げられているのです。

#### メモリを増やすとパソコンの動作が速くなる

複数のアプリケーションを同時に動かしたり、データを一度にたくさん読み込むと、メモリはどんどん使われてしまいます。

机の上に本やノートを広げると空いた場所がなくなるのと同じです。

机が大きければ本やノートをたくさん広げられますが、机が小さいと少ししか広げることができません。

同じように、メモリも大きければ大きいほど、たくさんのアプリケーションやデータを読み込むことができるようになり、快適に操作できます。

メモリの大きさは「容量」と呼ばれ、64MB、128MBというように表されます。

別売りのメモリを本パソコンに増設してメモリの容量を増やすと、「机」が広がったことになりパソコンの動作が速くなります。

#### 用語

##### CPU(シーピーユー)

Central Processing Unitの略で、パソコンの中核頭脳部分ともいわれる、中央処理装置のことです。

#### 用語

##### MB(メガバイト)

バイトとは、パソコンで扱うデータの大きさを表す単位のことです。M(メガ)は100万を表します。1MBとは、約100万バイトのデータということです。

パソコンで使われる単位には、他にKB(キロバイト)、GB(ギガバイト)があります。1KBは約1000バイト、1GBは約10億バイトのデータを表します。

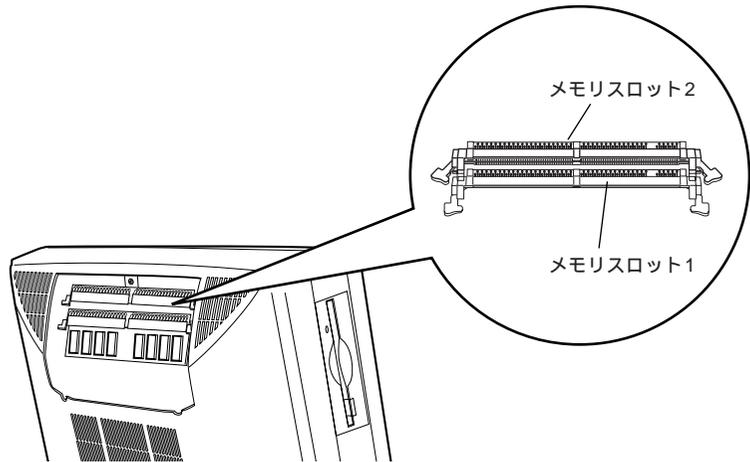
## メモリはどこにある？

メモリは、パソコン本体内部のメモリスロットに取り付けます。本パソコンのご購入時は、メモリスロット 1 に 64MB のメモリが 1 枚取り付けられています。

メモリ容量を増やすには、メモリスロット 2 に、新たにメモリを取り付けます。

メモリは、最大 512MB (256MB × 2 枚) まで増やせます。

メモリを最大容量まで増やしたいときは、あらかじめ取り付けられているメモリ (メモリスロット 1) を取り外して交換します。

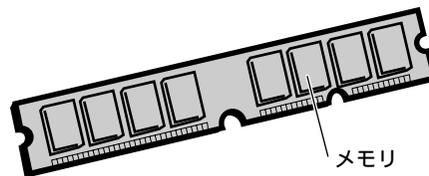


3

オプション機器を活用しよう！(メモリを増やす)

## 取り付けられるメモリ

お使いになれるメモリは次のようなものです。



- ・ 種類 SDRAM (エスディーラム) DIMM (ディム) (SPD 付き)
- ・ メモリバスクロック 100MHz
- ・ ピン数 168 ピン
- ・ 容量 64MB、128MB、256MB
- ・ ECC なし

### 用語

#### SPD(エスピーディー)

Serial Presence Detect の略で、メモリの機能のひとつです。

必ず SPD 付きのメモリをご購入ください。なお、弊社製の SDRAM は、SPD 付きです。

#### ECC(イーシーシー)

Error Correcting Code の略で、データの中の誤りを検出し、訂正する機能のことです。

本パソコンでは、この機能は使いません。

### 重要

弊社純正品をお使いいただくことをお勧めします

純正品以外のメモリを取り付けて、正常に動かなかつたり、本パソコンが故障しても、保証の対象外となります。

メモリのシステムバスクロックにご注意ください

本パソコンに取り付けるメモリは、100MHz 対応のものをお使いください。

## メモリの組み合わせ表

次の表で、メモリの容量とメモリスロットの組み合わせを確認してください。  
表以外の組み合わせにすると、本パソコンが正常に動作しない場合があります。

総容量	メモリスロット1	メモリスロット2
64MB(ご購入時)	64MB	なし
128MB	64MB	64MB
128MB	128MB	なし
192MB	64MB	128MB
256MB	128MB	128MB
256MB	256MB	なし
320MB	64MB	256MB
384MB	128MB	256MB
512MB(最大)	256MB	256MB

あらかじめ取り付けられているメモリを交換します。

## メモリを取り付ける

ここでは、メモリを取り付ける方法を説明します。



感電

メモリの取り付けまたは交換を行うときは、パソコン本体および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いたあとに行ってください。

感電・火災または故障の原因となります。



誤飲

取り外したネジなどの小さな部品は、小さなお子様が悪く誤って飲み込むと窒息の原因となります。保護者の方は、小さなお子様の手の届かないところに置くように注意してください。

万一、飲み込んだ場合は、直ちに医師と相談してください。



けが

メモリの取り付けまたは交換を行うときは、指定された場所以外のネジは外さないでください。

指定された場所以外のネジを外すと、けがをすることがあります。また、故障の原因となることがあります。



けが

基板表面上の突起物には手を触れないでください。

けがをすることがあります。また、故障の原因となることがあります。



故障

・メモリは、弊社純正品をお使いください。

純正品以外のメモリをお使いになると、故障の原因となることがあります。

・メモリを取り付けるときは、メモリの差し込み方向をお確かめのうえ、確実に差し込んでください。誤ってメモリを逆方向に差し込み、差し込みが不完全だったりすると、故障の原因となることがあります。

**重要**

メモリは、Windows98のセットアップ終了後に取り付けてください

Windows98のセットアップ(☞『取扱説明書』)を行う前に取り付けると、Windows98のセットアップが正常に行われぬおそれがあります。

電源を切ってから10分ほど待ってください

電源を切った直後は、パソコン本体内部の装置が熱くなっています。

メモリを取り付けるときは、電源を切り、すべての機器の電源プラグをコンセントから抜いたあと10分ほど待ってから、作業を始めてください。

放電してから作業してください

メモリは人体にたまる静電気によって悪影響を受けます。

取り扱う前に、一度大きな金属質のものに手を触れて静電気を放電してください。

メモリは何度も抜き差ししないでください

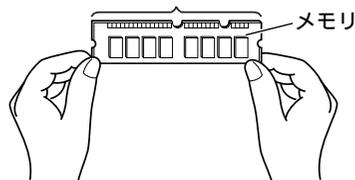
故障の原因となることがあります。

**アドバイス**

メモリの持ちかた

メモリは右図のようにふちを持ってください。金色の線が入っている部分(端子)には、絶対に手を触れないでください。

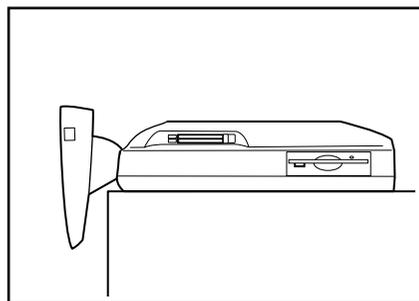
この部分には手を触れないでください。



**1** パソコン本体と接続されている周辺機器の電源を切り、電源ケーブルをコンセントから抜きます。

**2** パソコン本体を横にします。

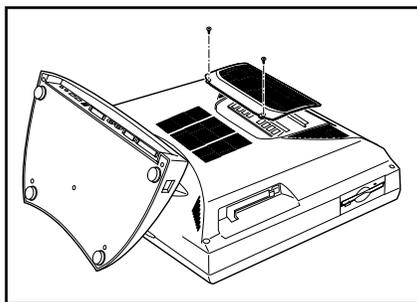
図のように、背面が上になるようにします。テーブルの端などを利用して、パソコン本体が水平になるようにしてください。

**重要**

パソコンを横にするときは

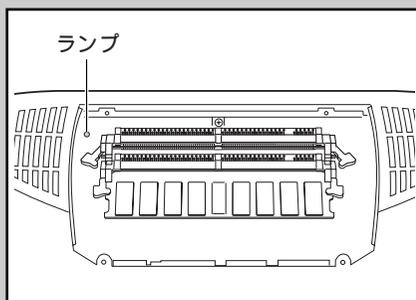
作業はやわらかい布などを敷いた平坦な台の上で行ってください。とくに、液晶ディスプレイに突起物などがあたらないようにしてください。

- 3** メモリカバーのネジ(2カ所)を外し、メモリカバーを取り外します。



**重要**

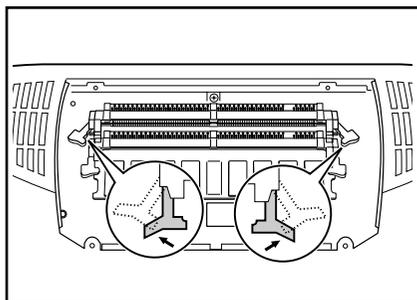
下図のランプが消えていることを確認してください。ランプが点灯している場合、電源を切り、電源ケーブルを抜いてから作業を再開してください。



- 4** メモリを取り付けるメモリスロットの両側のレバーを外側に開きます。

メモリの取り付け場所については、「メモリはどこにある?」(P.71)をご覧ください。

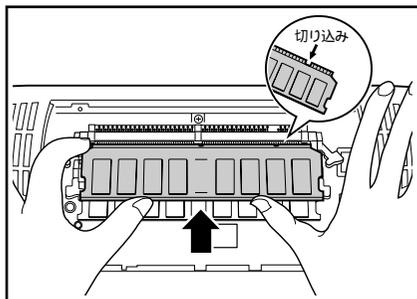
メモリの容量と組み合わせについては、「メモリの組み合わせ表」(P.72)をご覧ください。



- 5** メモリをメモリスロットに差し込みます。

端子に切り込みが入っている方を右側に向けて、メモリスロット正面からまっすぐに差し込んでください。

メモリがメモリスロットに差し込まれると、スロット両側のレバーが自動的に閉じて、メモリがロックされます。必ず、メモリがロックされたことを確認してください。

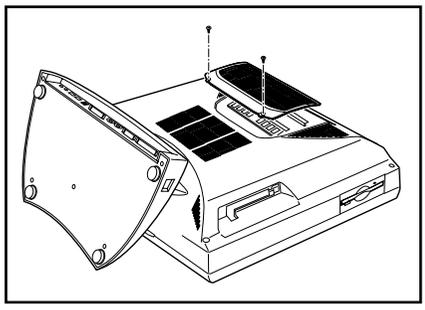


**重要**

メモリの方向をよく確認して正しく差し込んでください

無理に差し込むと故障の原因となります。

- 6 手順3で外したネジ(2カ所)で、メモリカバーを取り付けます。ネジは固くしめすぎないようにしてください。



- 7 パソコン本体を立てます。

メモリ容量を確認してください

メモリを取り付けたあと、増やしたメモリが本パソコンで使える状態になっているかを確認してください。必ず、メモリカバーを取り付けてから確認作業を行ってください。

アドバイス

電源を入れても何も表示されないときはメモリが正しく取り付けられていないと、本パソコンの電源を入れたとき画面に何も表示されない場合があります。その場合は、電源スイッチを4秒以上押し続けて本パソコンの電源を切り、メモリを取り付け直してください。

- 1 パソコン本体の電源を入れます。
- 2 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。
- 3 (システム) をクリックします。「システムのプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 4 で囲んだ部分の数値が、増やしたメモリの分だけ増えているかを確認します。



画面は、64MBのメモリを増設して、128MBに増やした例です。お使いのシステム構成によっては2MB少なく表示される場合があります。

- 5 「OK」をクリックします。
- 6 「コントロールパネル」ウィンドウ右上の (閉じるボタン) をクリックします。

メモリ容量の数値が増えていなかった場合は、次のことを確認してください。

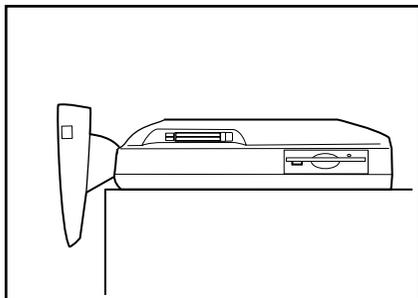
- ・ 増やしたメモリが本パソコンで使える種類のもか 「取り付けられるメモリ」(P.71)
- ・ メモリがメモリスロットにきちんと差し込まれているか 「メモリを取り付ける」(P.72)
- ・ 正しいスロットに取り付けられているか 「メモリはどこにある？」(P.71)
- ・ メモリを正しく組み合わせているか 「メモリの組み合わせ表」(P.72)

## メモリを交換する

本パソコンに取り付けられているメモリを取り外し、より大容量のメモリに交換することができます。

**1** パソコン本体と接続されている周辺機器の電源を切り、電源ケーブルをコンセントから抜きます。

**2** パソコン本体を横にします。  
図のように、背面が上になるようにします。テーブルの端などを利用して、パソコン本体が水平になるようにしてください。

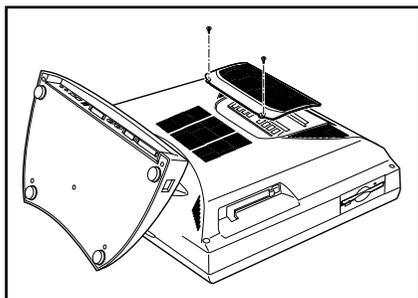


### 重要

パソコンを横にするときは

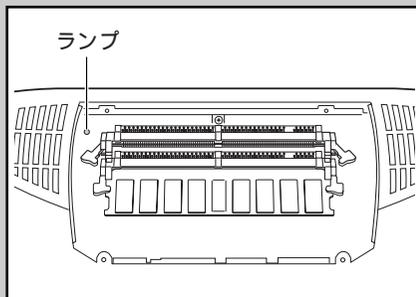
作業はやわらかい布などを敷いた平坦な台の上で行ってください。とくに、液晶ディスプレイに突起物などがあたらないようにしてください。

**3** メモリカバーのネジ(2カ所)を外し、メモリカバーを取り外します。

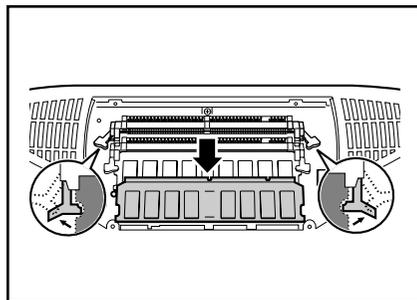


### 重要

下図のランプが消えていることを確認してください。ランプが点灯している場合、電源を切り、電源ケーブルを抜いてから作業を再開してください。



- 4** メモリスロットの両側のフックを外側へ開いて、メモリを引き抜きます。

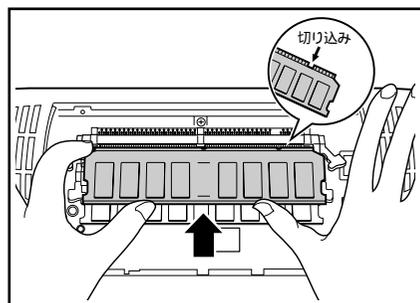


**重要**

フックを勢いよく外側へ開くと、メモリが飛び出し、故障の原因となることがありますので、ご注意ください。

- 5** 新しいメモリをメモリスロットに差し込みます。

端子に切り込みが入っている方を右側に向けて、メモリスロット正面からまっすぐ差し込んでください。メモリがメモリスロットに差し込まれると、スロット両側のレバーが自動的に閉じて、メモリがロックされます。必ず、メモリがロックされたことを確認してください。

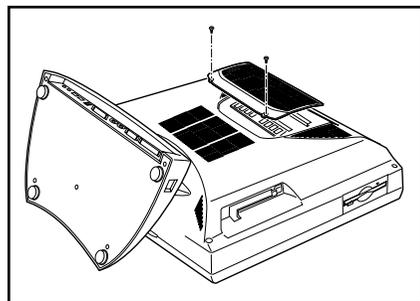


**重要**

メモリの方向をよく確認して正しく差し込んでください

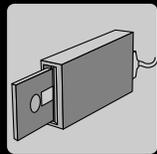
無理に差し込むと故障の原因となります。

- 6** 手順3で外したネジ(2カ所)で、メモ리카バーを取り付けます。ネジは固くしめすぎないようにしてください。



- 7** パソコン本体を立てます。

このあと、「メモリ容量を確認してください」(P.75)をご覧ください。交換したメモリが使える状態になっているかを確認してください。



# 4

## MOドライブを増設する

MO(光磁気ディスク)ドライブを増設すると、本パソコンでMOがお使いになります。MOを使うとフロッピーディスクと比べて大量のデータを保存できます。

### MOとは？

MO(エムオー)ドライブとは、レーザーと磁気でMO(光磁気ディスク)にデータを書き込み、レーザーで読み出しを行う記憶装置です。

MOは、フロッピーディスクと比べて、大量のデータを保存できます。128MB、230MB、540MB、640MB、1.3GBの容量のものが市販されています。フロッピーディスクと同じように、フォーマットしてからお使いください。

お使いになるMOドライブによって、対応している容量が異なります。お使いになる目的に応じた容量のMOドライブをご購入ください。

### お使いになれるMOドライブ

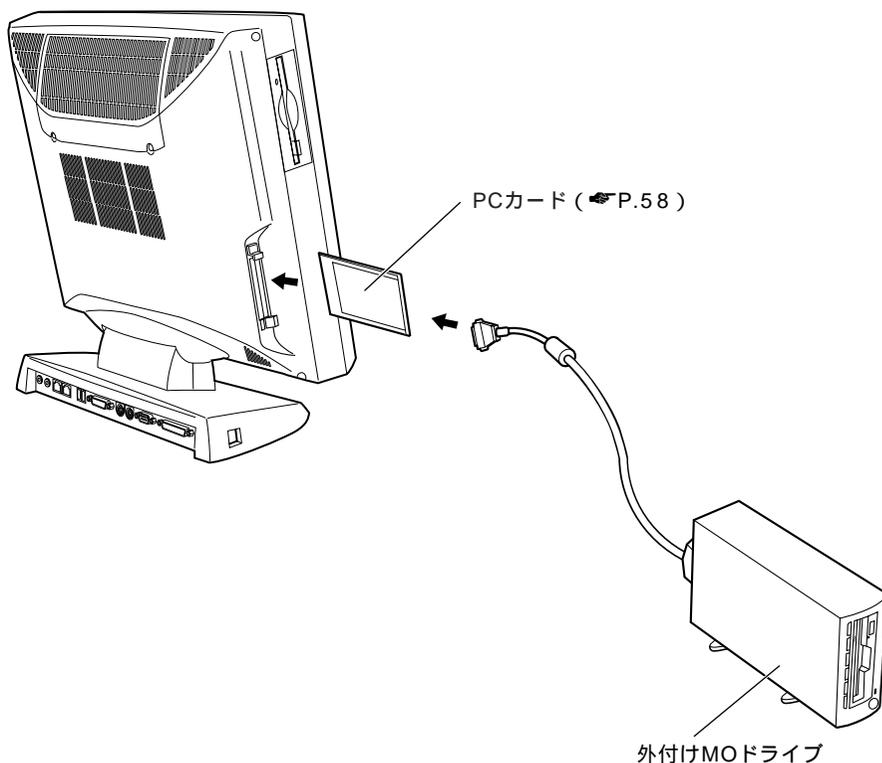
MOドライブには、パソコン本体に内蔵のものと、外付けのものとがあります。本パソコンでは、SCSI規格の外付けMOドライブを増設できます。内蔵MOドライブはお使いになれません。

SCSI規格のMOドライブを使うには、PCカードタイプのSCSIカードが必要です。

#### 用語

##### SCSI(スカジー)

機器の接続に関する規格のひとつです。SCSI規格の機器には、MOドライブのほかに、スキャナやハードディスクなどがあります。



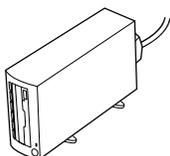
## 必要なものを用意する

外付け MO ドライブを取り付けるときには、次のものがが必要です。

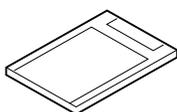
### 重要

弊社純正品をお使いいただくことをお勧めします

純正品以外の外付け MO ドライブ、SCSI カード、SCSI ケーブル、終端抵抗を取り付けて正常に動かなかったり、本パソコンが故障しても、保証の対象外となります。

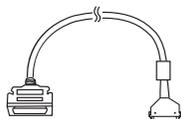


SCSI 規格の外付け MO ドライブ



SCSI カード (P.59)

SCSI 規格の外付け MO ドライブを取り付けるときに必要な PC カードです。



SCSI ケーブル

SCSI カードと外付け MO ドライブを取り付けるときに必要なケーブルです。SCSI 規格のコネクタには数種類あります。お使いになる SCSI カードと外付け MO ドライブに合ったものをよくご確認のうえご購入ください。



終端抵抗 (ターミネータ)

電気信号が、SCSI ケーブルを正しく伝わるようにするためのものです。外付け MO ドライブには、別売りの終端抵抗を取り付けます。SCSI 規格のコネクタは数種類あります。コネクタの形状をご確認のうえご購入ください。

詳しくは次ページの「コラム」をご覧ください。

外付け MO ドライブと SCSI カードのマニュアル



## 終端抵抗（ターミネータ）とは

コラム

SCSI規格のオプション機器は数珠つなぎに接続できます。その際、両端となる機器にそれぞれ終端抵抗を取り付ける必要があります。

たとえば、SCSI規格の外付けMOドライブを1台増設した場合は、SCSIカードと外付けMOドライブが両端となります。

SCSIカードには、通常、終端抵抗が内蔵されていますので、終端抵抗を新たに取り付ける必要はありません。ただし、SCSIカードに添付されているユーティリティソフトなどで、終端抵抗を有効、または無効に設定する必要があるものもあります。

## 外付けMOドライブを取り付ける



警告



感電

外付けMOドライブの取り付けや取り外しを行うときは、パソコン本体および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いたあとに行ってください。  
感電の原因となります。



誤飲

取り外したネジなどの小さな部品は、小さなお子様が悪く飲んでしまう原因となります。保護者の方は、小さなお子様の手の届かないところに置くように注意してください。  
万一、飲み込んだ場合は、直ちに医師と相談してください。



注意



故障

- ・ケーブルは正しく接続してください。誤った接続状態でお使いになると、パソコン本体が故障する原因になることがあります。
- ・外付けMOドライブは、弊社純正品をお使いください。純正品以外のMOドライブをお使いになると、故障の原因となります。



けが

外付けMOドライブの取り付けを行うときは、指定された場所以外のネジは外さないでください。  
指定された場所以外のネジを外すと、けがをされるおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。



重要

SCSIカードと外付けMOドライブは、Windows98のセットアップ終了後に取り付けてください  
Windows98のセットアップ(『取扱説明書』)を行う前に取り付けると、Windows98のセットアップが正常に行われずおそれがあります。

**1** 外付けMOドライブとSCSIカードのSCSI IDを設定します。

SCSI規格では複数の機器を接続できます。それらの機器を区別するために付ける番号が「SCSI ID」です。SCSI IDは0から7番までの番号があります。

SCSIカードには、通常7番が設定されています。

外付けMOドライブは、それ以外の番号(0～6番)を設定してください。

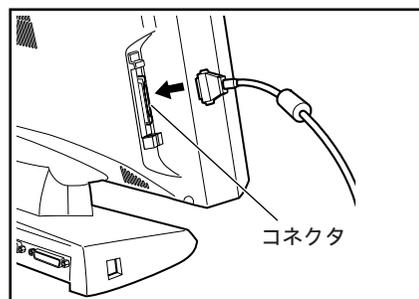
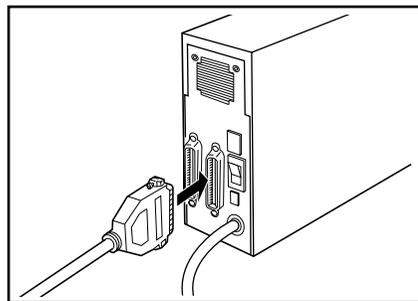
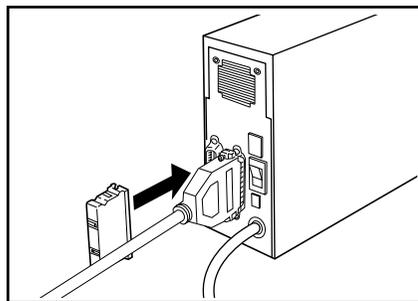
設定のしかたについては、SCSIカードと外付けMOドライブのマニュアルをご覧ください。

**2** SCSIカードをセットします。

セット方法などについて詳しくは、「便利なカード！～PCカードをセットする～」(P.58)をご覧ください。セット後、パソコン本体の電源が入っている場合は、電源を切ります。

**3** SCSIカードのコネクタに、SCSIケーブルを接続します。

SCSIケーブルの片方のコネクタを、パソコン本体側面にあるSCSIカードのコネクタに接続します。

**4** 外付けMOドライブのINコネクタに、SCSIケーブルのもう片方のコネクタを接続します。**5** 外付けMOドライブのOUTコネクタに終端抵抗を取り付けます。**6** 外付けMOドライブに電源ケーブルを接続します。

外付けMOドライブに電源ケーブルがつながっている場合もあります。詳しくは、外付けMOドライブのマニュアルをご覧ください。

**7** パソコン本体と、接続されている機器、接続した外付けMOドライブの電源プラグをコンセントに差し込みます。**アドバイス**

コネクタにIN/OUTの指定がないときは

外付けMOドライブによってはコネクタにIN/OUTの指定がないものもあります。そのときは、どちら側に接続してもかまいません。

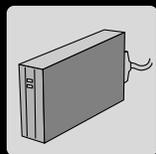
## MOドライブを増設すると

MOドライブを増設すると、ドライブ名が変更されます。DVD-ROMドライブやCD-ROMドライブのドライブ名も変更されます。

増設したMOドライブ



ドライブ名はお使いの状況によって異なります。  
上の画面は、MOドライブを1台増設した場合です。



# 5

## ハードディスクを増設する

### 用語

#### IDE(アイディーイー)

ハードディスクやCD-ROMドライブなどの内蔵ドライブの規格の1つです。

#### SCSI(スカジー)

機器の接続に関する規格のひとつです。SCSI規格の機器には、ハードディスクのほかに、スキャナやMOドライブなどがあります。

本パソコンにはあらかじめIDE規格のハードディスクが1台内蔵されています。さらに、PCカードタイプのSCSIカードをセットすることにより、SCSI規格の外付けハードディスクを増設できます。

### ハードディスクを取り付けるには

パソコンを使い込んでいくうちに、アプリケーションをたくさんインストールしたり、容量の大きな画像データなどをたくさん保存したりして、あらかじめ取り付けられているハードディスクの空き容量が少なくなることがあります。

そのようなときには、ファイルやデータを整理して空き容量を増やすのも1つの方法ですが、さらに別売りのハードディスクを増設して、保存できる容量を増やすという方法もあります。

#### 必要なものを用意する

ハードディスクを増設するには、次のものがが必要です。

##### SCSI規格の外付けハードディスク

ハードディスクには、パソコン本体に内蔵のものと、外付けのものがあります。本パソコンでは、外付けハードディスクが取り付けられます。内蔵ハードディスクはお使いになれません。

##### SCSIカード(PCカードタイプ)、SCSIケーブル、終端抵抗(ターミネータ)

外付けハードディスクを使うために必要なものです。

終端抵抗(ターミネータ)は、内蔵されている場合もあります。

SCSIカード、SCSIケーブル、終端抵抗(ターミネータ)について詳しくは、「MOドライブを増設する」の「必要なものを用意する」(P.79)をご覧ください。

### 外付けハードディスクを取り付ける

SCSI規格の外付けハードディスクを使うには、PCカードタイプのSCSIカードをパソコン本体側面のPCカードスロットにセットします。セットについては、「便利なカード! ~ PCカードをセットする~」(P.58)をご覧ください。

SCSIカードをセットしたあと、SCSIケーブルでSCSIカードと外付けハードディスクをつなぎます。外付けハードディスクには、終端抵抗(ターミネータ)という器具を取り付けます。接続方法などについては、「MOドライブを増設する」(P.78)を参考にしてください。また、外付けハードディスクのマニュアルもあわせてご覧ください。取り付けた外付けハードディスクを使えるようにするためには、「領域を設定する」と「フォーマットする」作業が必要になります。

# 3

## 領域を設定する



### アドバイス

#### 領域を分けると

それぞれの領域が1つ1つのドライブになります。たとえば、領域を2つに分けると、2つのドライブができ、1台のハードディスクが2台のハードディスクであるかのように扱えます。

初めてハードディスクを取り付けたときは、取り付けたあとにハードディスクの領域を設定します。領域の設定は、増設したハードディスクを使えるようにするための作業です。

また、この作業では、増設したハードディスクをいくつかの領域に分けることもできます。

増設したハードディスクの領域を分けるか分けないかは、お使いになりやすいほうを選んでください。

ここでは、ハードディスクを1台増設した場合の領域の設定のしかたを説明します。



### 重要

#### ドライブ名が変更されます

ハードディスクを増設して本書の手順に従って領域の設定を行うと、Eドライブ以降(基本MS-DOS領域を作成する場合はDドライブ以降)のドライブ名が変更されます。DVD-ROMドライブやCD-ROMドライブのドライブ名も変更されます。

お使いのソフトウェアによっては、ドライブ名の修正が必要になることがあります。詳しくは、ソフトウェアのマニュアルをご覧ください。

#### 保存されていたデータが失われます

領域を設定し直すと、そのハードディスクに保存されていたデータは失われてしまいます。使っていたハードディスクの領域を設定し直すときは、フロッピーディスクや他のハードディスクなどにバックアップをとるなどしてから、領域を設定してください。

- 1 外付けハードディスクと、パソコン本体の電源を入れます。**  
パソコン本体の電源を入れる前に、外付けハードディスクの電源を入れてください。
- 2 アプリケーションを終了させ、スクリーンセーバーを解除します。**  
タスクバーにアイコン表示されている「FM 便利ツール」などの常駐しているアプリケーションも終了させてください。
- 3 「スタート」ボタンをクリックし、「プログラム」にマウスポインタを合わせ、「MS-DOS プロンプト」をクリックします。**
- 4 「C:¥WINDOWS>」に続けて `fdisk` と入力して、**[Enter]** を押します。**  
「大容量ディスクのサポートを使用可能にしますか?」というメッセージが表示されます。
- 5 **[Y]** を押して、**[Enter]** を押します。**
- 6 **[5]** を押して「5. 現在のハードディスクドライブを変更」を選び、**[Enter]** を押します。**  
「ハードディスクドライブの番号を入力してください」というメッセージが表示されます。

## 💡 アドバイス

領域の設定を中断するには

- 1 **[Esc]**を押します。
- 2 「C:¥WINDOWS>」と表示されたら、「MS-DOS プロンプト」ウィンドウ右上の**[X]**(閉じるボタン)をクリックします。

## 💡 アドバイス

「5. 現在のハードディスクドライブを変更」が表示されていないときは

領域の設定を中断し、次のことを確認してください。

- ・外付けハードディスクが正しく接続されているか
- ・外付けハードディスクの電源が入っているか

それでも、「5. 現在のハードディスクドライブを変更」が表示されていないときは

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。
- 2  (システム) をクリックし、「デバイスマネージャ」タブをクリックします。
- 3 「ディスクドライブ」の  をクリックし、増設したハードディスクをクリックします。「ディスクドライブ」内の「GENERIC IDE DISK TYPEXX」と「GENERIC XXX FLOPPY DISK」と表示されている以外のものが増設したハードディスクです。
- 4 「プロパティ」をクリックし、「設定」タブをクリックします。
- 5 「オプション」欄の「Int13 ユニット」が  になっていることを確認し、「OK」をクリックします。  
 になっているときは、 をクリックして  にし、「OK」をクリックしてください。
- 6 「OK」または「閉じる」をクリックします。  
「システム設定の変更」ウィンドウが表示された場合は、「はい」をクリックして本パソコンを再起動してください。
- 7 もう一度手順 2 (P.84) から操作し直します。

**7** **[2]**を押して増設したハードディスクを選び、**[Enter]**を押します。

ディスク 1 は、ご購入時に本パソコンに内蔵されているハードディスクです。  
ディスク 2 が増設したハードディスクです。

**8** 「現在のハードディスク」が「2」になっていることを確認し、**[1]**を押して「1. MS-DOS 領域または論理 MS-DOS ドライブを作成」を選び、**[Enter]**を押します。

「どれか選んでください。」というメッセージが表示されます。

**9** **[2]**を押して「2. 拡張 MS-DOS 領域を作成」を選び、**[Enter]**を押します。

「ディスクの総容量は... 拡張 MS-DOS 領域を作ります。」というメッセージが表示されます。

**10** **[Enter]**を押します。

増設したハードディスクによっては、「領域に割り当て可能な最大領域」が「ディスクの総容量」より少なく表示される場合があります。

**11** 「拡張 MS-DOS 領域を作成しました。」というメッセージが表示されたら、**[Esc]**を押します。

## 3

オプション機器を活用しよう！（ハードディスクを増設する）



## アドバイス

容量を入力するときに単位は「MB」または「%」で入力してください。「MB」で指定する場合は「XXXX」と数字のみを入力します。「%」で指定する場合は、「XX%」と単位を付けて入力します。画面に表示されている「割り当て可能な最大領域」の数値を目安に、それ以下の数値を入力してください。「MB」で指定した場合は、入力した値と画面に表示される値が若干異なることがあります。

**12** ここでは、増設したハードディスクの領域を分けるか分けないかによって、操作手順が異なります。

▶ **領域を分けない場合**

☞ 何も入力せずに **[Enter]** を押して、手順 14 へ進みます。

▶ **領域を分ける場合**

☞ 1 つ目の領域に設定したい容量を数字キーで入力し、**[Enter]** を押します。  
「論理 MS-DOS ドライブを作成しました。ドライブ名は変更または追加されました。」というメッセージが表示されます。

**13** 2 つ目の領域に設定したい容量を数字キーで入力し、**[Enter]** を押します。この手順を繰り返すと、さらに領域を分けることができます。

表示されている数値を確認し、そのまま **[Enter]** を押してもかまいません。表示されている数値が、分けた領域の容量となります。

領域をすべて分け終わると、「拡張 MS-DOS 領域の使用可能な領域はすべて論理ドライブに割り当てられています。」というメッセージが表示されます。

**14** **[Esc]** を押します。

**15** **[Esc]** を押します。

「変更を有効にするには、コンピュータを再起動してください。」というメッセージが表示されます。

**16** **[Esc]** を押します。

「C:¥WINDOWS>」と表示されます。

**17** 「MS-DOS プロンプト」ウィンドウ右上の **X** (閉じるボタン) をクリックします。

「MS-DOS プロンプト」ウィンドウを全画面表示しているときは、**exit** と入力し、**[Enter]** を押してください。

**18** 「スタート」ボタンをクリックし、「Windows の終了」をクリックします。

**19** 「再起動する」をクリックし、「OK」をクリックします。

本パソコンが再起動します。

続いて、増設したハードディスクをフォーマットします。

## フォーマットする

領域の設定を行ったあとに、フォーマットする必要があります。フォーマットすると、増設したハードディスクにデータを読み書きできるようになります。

また、フォーマット済みのものを増設した場合も、領域を設定し直すとフォーマットが無効になります。あらためてフォーマットし直してください。



### 重要

フォーマットするとデータは失われます

ハードディスクのフォーマットを行うと、そのハードディスクの内容はすべて失われます。あらかじめ取り付けられていたハードディスクを誤ってフォーマットしないようにご注意ください。



## アドバイス

アプリケーションを終了させ、スクリーンセーバーを解除してください

ハードディスクのフォーマットを行う前に、常駐しているアプリケーション(「FM 便利ツール」など、タスクバーにアイコン表示されているアプリケーション)を終了させてください。

## アドバイス

どのドライブが増設したハードディスクのものか調べてください

フォーマットされていないハードディスクのドライブ(≡)を反転表示させたとき、「マイコンピュータ」ウィンドウの左端のローカルディスクの欄は何も表示されません。

あらかじめ取り付けられていたハードディスクのドライブ(≡)を反転表示させると、ローカルディスクの欄に円グラフが表示されます。

「アクセスできません。」と表示されたときは

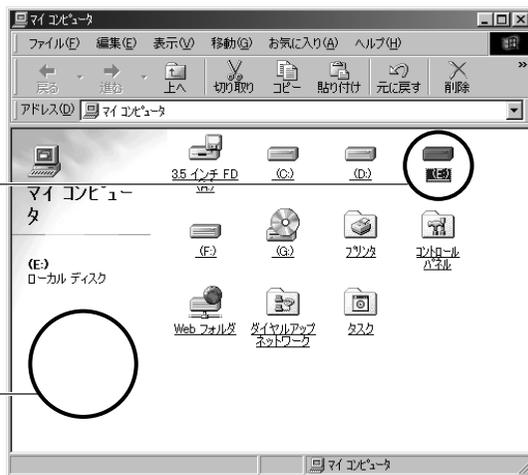
増設したハードディスクのドライブのアイコンをクリックしてしまうと、「アクセスできません。」というメッセージが表示されます。メッセージが表示されたら「キャンセル」をクリックしてください。

1 デスクトップの (マイコンピュータ) をクリックします。

2 増設したハードディスクのドライブ(≡)にマウスポインタを合わせます。マウスポインタが から に変わり、選んだドライブのアイコンが反転表示されます。

増設したハードディスクのドライブ

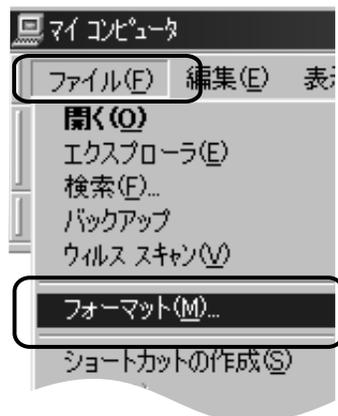
ここに何も表示されていないことを確認してください。



増設したハードディスクのドライブ名は、領域の設定でハードディスクの領域をいくつに分けたかによって異なります。

上の画面は、ハードディスクを1台増設し、本書の手順に従って、増設したハードディスクの領域(拡張MS-DOS領域)を2つに分けた場合です。

3 「ファイル」メニューの「フォーマット」をクリックします。



4 「フォーマットの種類」の「通常のフォーマット」の をクリックして にし、「開始」をクリックします。

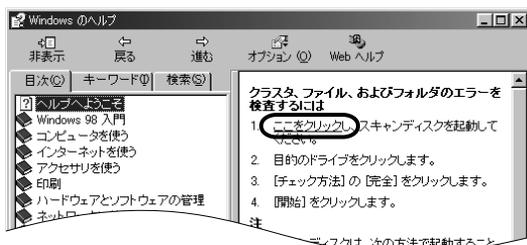
増設したハードディスクのドライブ名であることを確認してください。



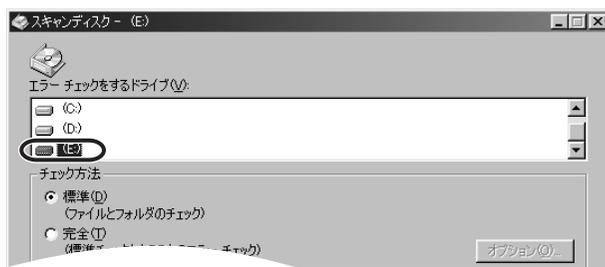
3

オプション機器を活用しよう！(ハードディスクを増設する)

- 5 「OK」をクリックします。  
フォーマットが始まります。
- 6 フォーマット結果を確認したあと、「閉じる」をクリックします。
- 7 「OK」をクリックします。
- 8 増設したハードディスクに、スキャンディスクを実行します。  
スキャンディスクは、ディスクの表面にエラーがないかを調べます。  
ヘルプ画面の「ここをクリック」をクリックしてください。



- 9 「エラーチェックをするドライブ」でチェックするドライブを選びます。



- 10 「チェック方法」の「完全」の  をクリックして  にし、「開始」をクリックします。  
スキャンディスクが始まります。しばらくするとスキャンディスクが終了し、「結果レポート」が表示されます。
- 11 「結果レポート」ウィンドウの内容を確認し、「閉じる」をクリックします。
- 12 「スキャンディスク」ウィンドウの「閉じる」をクリックします。
- 13 「Windows のヘルプ」ウィンドウの右上の **X** (閉じるボタン) をクリックします。
- 14 「フォーマット」ウィンドウの「閉じる」をクリックします。
- 15 「マイコンピュータ」ウィンドウの右上の **X** (閉じるボタン) をクリックします。

**アドバイス**  
エラーが検出されたときは

スキャンディスクの途中で、ハードディスクにエラーが検出された場合は、画面の指示に従ってエラーを修復してください。

**アドバイス**  
領域を 2 つ以上に分けたときは

手順 2 (P.87) ~ 14 を繰り返し、増設したハードディスクのすべての領域をフォーマットしてください。

## 第 4 章

# BIOS セットアップ

BIOS セットアップの設定方法や、設定をご購入時の状態に戻す方法などについて説明しています。BIOS セットアップは、本パソコンのハードウェアとしての状態を設定するためのソフトウェアです。

日常적으로お使いになる範囲では、BIOS セットアップを操作する必要はありません。設定が必要な場合のみ、お読みください。正しく設定しないと本パソコンが正常に動作しなくなることもあります。また、BIOS セットアップの画面、項目名、仕様は、改善のため予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。

1. BIOS セットアップとは .....	90
2. BIOS セットアップの操作のしかた .....	91
3. ご購入時の設定に戻す .....	96
4. BIOS のパスワード機能を使う .....	100
5. BIOS が表示するメッセージ一覧 .....	105



## 1

# BIOS セットアップとは

BIOS(バイオス)セットアップはメモリやハードディスク、フロッピーディスクドライブなどのハードウェアの環境を設定するためのソフトウェアです。

本パソコンでは、あらかじめ最適な状態に設定されています。電源を入れたとき、または再起動したときに、BIOS セットアップに関するメッセージが表示されたときなどに設定を行ってください。

通常、本パソコンをお使いになる範囲では、BIOS セットアップを操作する必要はありません。

誤ってBIOS セットアップを起動してしまった場合は、「BIOS セットアップを終了する」(P.94)をご覧ください。



## アドバイス

### バッテリーの交換について

BIOSセットアップで設定した内容は、パソコン本体内部のCMOS RAM(シーモス ラム)と呼ばれるメモリに記録されます。このCMOS RAMは、記録した内容をバッテリーによって保存しています。BIOS セットアップを正しく行っても、電源を入れたとき、または再起動したときに、BIOS セットアップに関するメッセージが表示されるときは、このCMOS RAMに設定内容が保存されていないおそれがあります。バッテリーが消耗していることが考えられますので、弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービスまたはご購入元にご連絡ください。

パーソナルエコーセンターのご利用については、『富士通パソコンポート ご案内』をご覧ください。



## BIOS セットアップの操作のしかた

ここでは、BIOS セットアップの始めかた、終わりかた、設定の変更のしかたについて説明します。

## BIOS セットアップを起動する

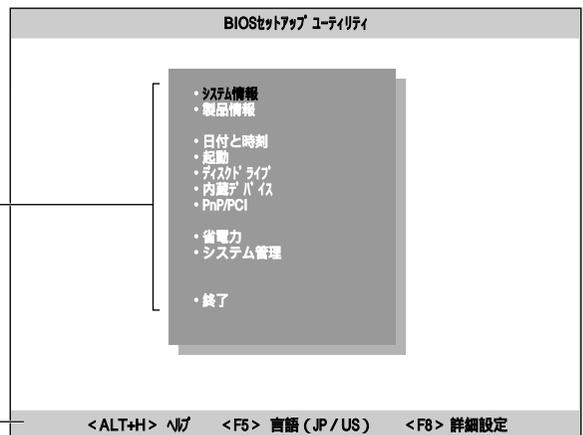
- 1 それまで本パソコンで行っていた作業を終了します。  
必要に応じてデータを保存し、アプリケーションを終了してください。
- 2 「スタート」ボタンをクリックし、「Windows の終了」をクリックします。
- 3 「再起動する」をクリックし、「OK」をクリックします。  
本パソコンが再起動します。
- 4 画面下に「<F2> : BIOS セットアップ <F12> : 起動メニュー」と表示されている間に、**[F2]**を押します。  
BIOS セットアップのメインメニュー画面が表示されます。

 アドバイス

## BIOS セットアップを始められないときは

Windows 98 が起動してしまうと、BIOS セットアップを始められません。Windows 98 が完全に起動するのを待ってから、もう一度手順 2 ~ 4 の操作を行ってください。

BIOS セットアップの各メニューです。



キー一覧  
設定時に使うキーの一覧です。

## 設定を変更する

BIOS セットアップは、キーボードを使ってすべての操作を行います。

- 1**   を押して、設定を変更したいメニューにカーソルを合わせます。



- 2** 設定を変更したいメニューが水色で表示されていることを確認し、 を押します。

詳細設定項目を表示するときは、 を押してから  を押します。

- 3**   を押して、設定を変更したい項目にカーソルを合わせます。

- ・ の付いている項目はサブメニューがあることを表します。
- ・ の付いている項目にカーソルを合わせて  を押すと、サブメニューが表示されます。



ヘルプフィールド  
カーソルを合  
わせた項目の説明  
が表示されます。

(画面は一例です)

- 4**   を押して、設定を変更します。

さらに他のメニューの設定を変更したいときは、 を押してメインメニュー画面に戻り、手順 1 から繰り返します。

サブメニューを表示していた場合は、 を押すと 1 つ前の画面に戻ります。

BIOS セットアップを終了するときは、「BIOS セットアップを終了する」(P.94)をご覧ください。

### アドバイス 詳細設定項目について

本章の画面の中で、斜体表示されている項目は詳細設定項目です。通常は表示されません。

通常は、詳細設定項目の設定を変更する必要はありません。

### アドバイス 数値を入力する項目もあります

項目の中には、数値を入力するものもあります。詳しくは BIOS 画面のヘルプをご覧ください。

## 設定時に使う各キーの役割

- ・ **[Esc]** : 前画面に戻ります。各メニューが表示されているときは、メインメニュー画面に戻ります。サブメニューやヘルプが表示されているときは、各メニューに戻ります。メインメニュー画面が表示されているときは、BIOSセットアップを終了するメッセージが表示されます。
- ・ **[Enter]** : ・が付いている項目のサブメニューを表示します。または、設定を選択します。
- ・ **[ ]** : 設定するメニューや項目、設定にカーソルを移動します。
- ・ **[ ]** : 設定を変更します。
- ・ **[F5]** : BIOSセットアップ画面の表示を英語に切り替えます。もう一度押すと日本語に戻ります。
- ・ **[F8]** : メインメニュー画面で押すと、詳細設定項目が表示されます。詳細設定項目の表示を消すには、メインメニュー画面で再度 **[F8]** を押しします。
- ・ **[Alt]+[H]** : このキーを押したときの画面上で使えるキーと、そのキーの役割について表示されます。  
**[Esc]** を押すと表示は消えます。

## 変更内容を取り消す

前回保存したときの設定に戻すことができます。ただし、変更した設定をいったん保存した場合は、保存した設定に戻ります。

- 1 「終了」メニューを表示します。**
- 2 「変更前の値を読み込む」を選び、**[Enter]** を押します。**  
「変更前の値を読み込みますか？」というメッセージが表示されます。
- 3 「はい」を選び、**[Enter]** を押します。**  
設定が前回保存したときの値に戻ります。

保存した設定をご購入時の状態に戻すには、「ご購入時の設定に戻す」(  P.96 ) をご覧ください。

## BIOS セットアップを終了する

- 1 各メニューの設定を終了し、**[Esc]** を押してメインメニュー画面を表示します。
- 2 **[F10]** を押して、「終了」にカーソルを合わせます。



- 3 **[Enter]** を押します。



#### 4 ▶ 設定を保存してBIOS セットアップを終了し、Windows 98 を起動する場合

☞   を押して、「変更を保存して終了する (再起動)」にカーソルを合わせ、**[Enter]** を押します。次のメッセージが表示されます。

設定した内容を保存して再起動しますか？

[はい] [いいえ]

#### ▶ 設定を保存してBIOS セットアップを終了し、本パソコンの電源を切る場合

☞   を押して、「変更を保存して終了する (電源Off)」にカーソルを合わせ、**[Enter]** を押します。次のメッセージが表示されます。

設定した内容を保存して電源をOFFしますか？

[はい] [いいえ]

#### ▶ 設定を保存しないでBIOS セットアップを終了し、Windows 98 を起動する場合

☞   を押して、「変更を保存せずに終了する (再起動)」にカーソルを合わせ、**[Enter]** を押します。次のメッセージが表示されます。

設定した内容を保存せずに再起動しますか？

[はい] [いいえ]

#### 5 を押して、「はい」にカーソルを合わせ (水色で表示されている状態) **[Enter]** を押します。

BIOS セットアップが終了します。

## 3

## ご購入時の設定に戻す

BIOS セットアップの設定をご購入時の状態（標準設定値）に戻す方法は次のとおりです。

- 1 メインメニュー画面が表示されていないときは、**[Esc]** を押してメインメニュー画面を表示します。  
BIOS セットアップを起動していない場合は、「BIOS セットアップを起動する」(P.91)をご覧ください。
- 2   を押して、「終了」にカーソルを合わせ、**[Enter]** を押します。



- 3   を押して「標準設定を読み込む」にカーソルを合わせ、**[Enter]** を押します。



- 4   を押して「はい」にカーソルを合わせ（水色で表示されている状態）、 を押します。

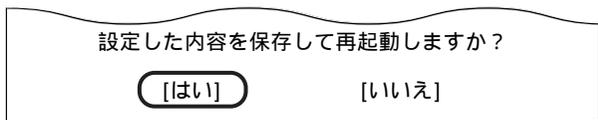


設定がご購入時の状態に戻ります。

- 5   を押して「変更を保存して終了する（再起動）」にカーソルを合わせ、 を押します。



- 6   を押して「はい」にカーソルを合わせ（水色で表示されている状態）、 を押します。



BIOS セットアップが終了し、Windows 98 が起動します。

## 標準設定値一覧

ご購入時に設定されている値は、次の表のとおりです。  
 「ご購入時の設定に戻す」(P.96)の操作を行うと、表のような値に設定されます。  
 表の備考欄に が付いている項目は、詳細設定項目 (P.92) です。

### 日付と時刻メニュー

項目	標準設定値	備考
システム日付	-	現在の日付が表示
システム時刻	-	現在の時刻が表示

### 起動メニュー

項目	標準設定値	備考
起動デバイスの優先順位	-	
1. [Floppy Disk A:]		
2. [Hard Disk C:]		
3. [IDE CD-ROM]		
高速起動	使用する	
起動時の自己診断画面	表示しない	
起動時のNumLock設定	使用する	
メモリ診断	使用しない	
BIOS書き換えモード	使用しない	
言語 (Language)	日本語 (JP)	

### ディスクドライブメニュー

項目	標準設定値	備考
フロッピーディスクコントローラ	使用する	
フロッピーディスク A	1.44MB 3.5インチ	
書き込み禁止機能	使用しない	
IDEコントローラ	両方使用する	
IDEプライマリマスター	-	
デバイスの検出	自動	
タイプ	ハードディスク	
シリンダ数	-	
ヘッド数	-	
セクタ数	-	
最大容量	[20416]MB	
LBAモード制御	自動	
マルチセクタ転送	自動	
32ビットアクセス	使用する	
PIO転送モード	自動	
DMA転送モード	自動	
IDEプライマリスレーブ	-	サブメニュー項目はプライマリマスターを参照 / タイプはDVD (K3/50の場合) またはIDE CD-ROM (K3/50cの場合) と表示される
IDEセカンダリマスター	-	サブメニュー項目はプライマリマスターを参照
IDEセカンダリスレーブ	-	サブメニュー項目はプライマリマスターを参照
書き込み禁止機能	使用しない	

#### 内蔵デバイスマニュー

項目	標準設定値	備考
シリアルポート	使用する	
I/Oアドレス	3F8h	
割り込み要求 (IRQ)	4	
パラレルポート	使用する	
I/Oアドレス	378h	
割り込み要求 (IRQ)	7	
モード	双方向	
DMAチャンネル	-	
PS/2マウス	使用する	
サウンドコントローラ	使用する	
USBホストコントローラ	使用する	
USBキーボード/マウス	使用する	

#### PnP/PCIメニュー

項目	標準設定値	備考
プラグアンドプレイ対応OS	はい	
PCI IRQの共有	はい	
PCI IRQの設定	自動	
INTA#	-	モデムのIRQを表示
INTB#	-	カードバスコントローラのIRQを表示
INTC#	-	カードバスコントローラのIRQを表示
INTD#	-	サウンドコントローラのIRQを表示
16bit PC Card-0の割り込み予約 (IRQ)	いいえ	
16bit PC Card-1の割り込み予約 (IRQ)	いいえ	
グラフィックコントローラ用メモリ設定	64	
ディスプレイアダプタの初期化	使用する	
リソース (ESCD) の初期化	いいえ	

#### 省電力メニュー

項目	標準設定値	備考
省電力モード	使用する	
電源スイッチ	スタンバイ	
ハードディスク省電力	使用しない	
スタンバイ移行時間	使用しない	
スタンバイモード (ACPI)	標準	
自動ウェイクアップ	-	
有効なウェイクアップ状態	電源OFF	
モデム着信によるウェイクアップ	使用しない	
PCI PMEによるウェイクアップ	使用しない	
時刻によるウェイクアップ	使用しない	
ウェイクアップ日付	-	
ウェイクアップ時間	-	
AC通電再開時の動作	電源OFF	

#### システム管理メニュー

項目	標準設定値	備考
セキュリティ	-	
管理者用パスワード	未設定	
ユーザー用パスワード	-	
パスワード要求	-	
プロセッサシリアルナンバ	使用しない	K3/50のみ

## 4

## BIOS のパスワード機能を使う

本パソコンでは、特定の人だけが起動や BIOS セットアップを行えるように、パスワードを設定することができます。

ここでは、パスワードの設定方法や変更方法などについて説明します。

## パスワードの種類

本パソコンで設定できるパスワードは次の 2 つです。

- ・ 管理者用パスワード

特定の人だけが、BIOS セットアップを行えるようにするためのパスワードです。設定したパスワードを入力しないと、BIOS セットアップおよび OS が起動しないようにします。

- ・ ユーザー用パスワード

特定の人だけが、本パソコンを使えるようにするためのパスワードです。設定したパスワードを入力しないと、BIOS セットアップおよび OS が起動しないようにします。

このパスワードで BIOS セットアップを起動した場合は、システム日付、システム時刻、ユーザーパスワードのみ変更できます。

## パスワードを設定する

管理者用パスワード、ユーザー用パスワードを設定する方法を説明します。

 **重要**

ユーザー用パスワードを設定するときは管理者用パスワードを設定してください

ユーザー用パスワードは、管理者用パスワードが設定されているときのみ設定できます。

**1** BIOS セットアップを起動します。

起動のしかたについては「BIOS セットアップを起動する」(P.91)をご覧ください。

**2**   を押して、「システム管理」にカーソルを合わせ、**[Enter]** を押します。

**3**   を押して、「管理者用パスワード」または「ユーザー用パスワード」にカーソルを合わせます。

**4**   を押します。

パスワードを入力するウィンドウが表示されます。

**管理者用パスワード**

パスワードを2度入力してください。最高7文字のパスワードを設定できます。

新しいパスワードを入力してください -----[ ]  
 新しいパスワードを確認してください -----[ ]

パスワードの設定

## アドバイス

テンキーで入力するには

テンキーで数字を入力するには  を押して、数字を入力できる (NumLock インジケータが点灯している) 状態にしてください。

- 5** パスワードを入力します。  
入力できる文字はアルファベットと数字です。最高7文字までなら何文字でもかまいません。  
入力した文字は表示されず、代わりに「\*」が表示されます。
- 6**  を押します。  
カーソルが「新しいパスワードを確認してください。」の項目に移ります。
- 7** 手順5で入力したパスワードをもう一度入力し、 を押します。
- 8**  を押します。  
設定値が「設定済み」になります。  
再入力したパスワードが、手順5で入力したものと違っていた場合は、メッセージが表示されます。 を押して、手順5から操作し直してください。
- 9** 続いてユーザー用パスワードを設定する場合は、手順3～8を繰り返します。
- 10** 設定内容を保存して、BIOS セットアップを終了します。  
終了のしかたについては「BIOS セットアップを終了する」(P.94)をご覧ください。

## パスワード設定後のパソコンの起動

パスワードを設定すると、次に電源を入れたとき、またはBIOSセットアップを始めるときに、次の画面が表示されます。



設定したパスワードを入力し、 を押してください。

### 重要

誤ったパスワードを3回入力すると

「不正確なパスワードが入力されました。システムは使用できません。」というメッセージが表示されて、パソコンが停止します。その場合は、電源スイッチを4秒以上押し続けてパソコンの電源を切ってから10秒ほど待って、もう一度電源を入れます。そのあと、正しいパスワードを入力してください。

## アドバイス

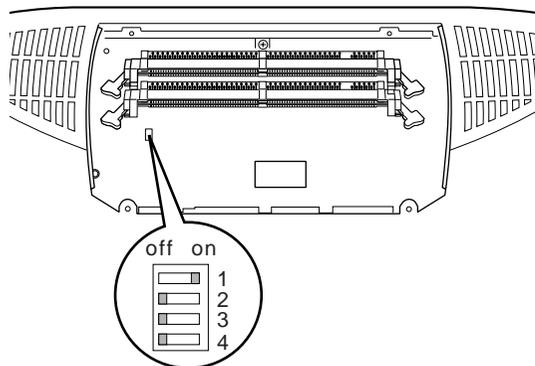
もう一度パスワードを設定するときは

ディップスイッチの1をONにしてから、もう一度パスワードを設定してください。パスワードの設定方法は、「パスワードを設定する」をご覧ください(☞P.100)。

## パスワードを忘れてしまったら

設定したパスワードを忘れてしまい、BIOSセットアップや起動ができなくなった場合は、パソコン本体内部のディップスイッチ(SW1)を変更してください。

### ディップスイッチの位置



### ディップスイッチを変更する



**感電** ディップスイッチを変更するときは、パソコン本体と接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いたあとに行ってください。感電の原因となります。



**けが** 基板表面上の突起物には手を触れないでください。けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。

- 1** 「メモリを交換する」(☞P.76)をご覧ください、メモ리카バーを取り外します。
- 2** 「メモリを交換する」(☞P.76)をご覧ください、メモリスロット1のメモリを取り外します。
- 3** ディップスイッチ(SW1)の1を「ON」から「OFF」に変更します。本パソコンのご購入時は、「ON」に設定されています。
- 4** 「メモリを取り付ける」(☞P.72)をご覧ください、メモリスロット1に取り外したメモリを取り付けます。
- 5** 「メモリを取り付ける」(☞P.72)をご覧ください、メモ리카バーを取り付けます。ケーブルをつなぎ、電源プラグをコンセントに差し込むと、自動的に電源が入ります。
- 6** BIOS セットアップを起動します。起動のしかたについては「BIOSセットアップを起動する」(☞P.91)をご覧ください。

- 7   を押して、「システム管理」にカーソルを合わせ、**[Enter]** を押し  
ます。
- 8   を押して、「管理者用パスワード」または「ユーザー用パスワード」  
にカーソルを合わせます。
- 9   を押し  
ます。  
設定が「未設定」に変更されます。
- 10 設定内容を保存して、BIOS セットアップを終了します。  
終了の仕方については、「BIOS セットアップを終了します」(P.94) をご覧ください。

## パスワードを変更 / 削除する

### パスワードを変更する

- 1 BIOS セットアップを起動します。  
起動のしかたについては「BIOS セットアップを起動する」(P.91) をご覧ください。
- 2   を押して、「システム管理」にカーソルを合わせ、**[Enter]** を押し  
ます。
- 3   を押して、「管理者用パスワード」または「ユーザー用パスワード」  
にカーソルを合わせます。
- 4   を押して、設定を「未設定」に戻します。

#### 重要

管理者用パスワードを変更すると

ユーザー用パスワードも一緒に削除されます。

- 5 もう一度   を押して、パスワード入力用のウィンドウを表示させ  
ます。
- 6 新しいパスワードを入力します。  
パスワードが新しくなります。
- 7 設定内容を保存して BIOS セットアップを終了します。  
終了のしかたについては「BIOS セットアップを終了する」(P.94) をご覧ください。

## パスワードを削除する

### 重要

#### 管理者用パスワードを削除すると

ユーザー用パスワードも一緒に削除されます。

#### ユーザー用パスワードを削除すると

管理者用パスワードでしか、BIOS セットアップおよび OS が起動できなくなります。

- 1** BIOS セットアップを起動します。  
起動のしかたについては「BIOS セットアップを起動する」( P.91 )をご覧ください。
- 2**   を押して、「システム管理」にカーソルを合わせ、 を押しします。
- 3**   を押して、「管理者用パスワード」または「ユーザー用パスワード」にカーソルを合わせます。
- 4**   を押して、設定を「未設定」に戻します。
- 5** 設定内容を保存して BIOS セットアップを終了します。  
終了のしかたについては「BIOS セットアップを終了する」( P.94 )をご覧ください。



# 5

## BIOS が表示するメッセージ一覧

ここでは、本パソコンが表示するメッセージ (BIOS メッセージ) について説明します。必要に応じてお読みください。

### メッセージが表示されたときは

「メッセージ一覧」をご覧になり、次のいずれかの方法でエラーを解消してください。

- ・ BIOS セットアップの設定を変更する  
指示に従って BIOS セットアップを起動して、設定をご購入時の状態 (標準設定値) に戻してください。詳しくは、「ご購入時の設定に戻す」(P.96) をご覧ください。
- ・ オプション機器の取り付けを確認する  
オプション機器やメモリなどを取り付けているときは、それらが正しく取り付けられているかを確認してください。また、IRQ (割り込み要求) (P.114) が正しく設定されているかも確認してください。このとき、オプション機器のマニュアルもあわせてご覧ください。

上記の方法で対処してもメッセージが表示される場合、または次の「メッセージ一覧」に当てはまるメッセージがない場合は、本パソコンが故障している可能性があります。弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。

### メッセージ一覧

次のメッセージが表示されると、本パソコンが停止します。指示に従って対処してください。

1. メモリーエラーです。XXXX:YYYY:ZZZzh(R:xxxxh,W:yyyyh)  
Memory Error at XXXX:YYYY:ZZZzh(R:xxxxh,W:yyyyh)  
本パソコンの電源を切り、メモリが正しく取り付けられているか確認してください。正しく取り付けられているときは、弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。
2. キーボードエラーです。または、キーボードが接続されていません。  
Keyboard Error or Not Connected  
本パソコンの電源を切り、キーボードが正しく接続されているか確認してください。正しく取り付けられているときは、弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。
3. 装置の設定エラーです。  
Equipment Configuration Error  
弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。
4. フロッピーディスクコントローラのエラーです。  
Floppy Disk Controller Error  
弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。

#### アドバイス

##### 電源を切るときは

電源スイッチを 4 秒以上押し続けて、本パソコンの電源を切ってください。電源ランプがオレンジ色に点灯しているときは、もう一度電源スイッチを 4 秒以上押し続けて、本パソコンの電源を切ってください。その後、必ず本パソコンの電源ランプが消えていることを確認してください。

5. フロッピーディスク A のエラーです。  
Floppy Drive A Error  
弊社パーソナルエコーセンター、FMインフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。
6. IDE プライマリマスターのエラーです。  
IDE Primary Channel Master Drive Error  
弊社パーソナルエコーセンター、FMインフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。
7. IDE セカンダリマスターのエラーです。  
IDE Secondary Channel Master Drive Error  
弊社パーソナルエコーセンター、FMインフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。
8. CPU BIOS 更新コードが不一致です。  
CPU BIOS Update Code Mismatch  
弊社パーソナルエコーセンター、FMインフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。
9. CPU クロックが不一致です。  
CPU Clock Mismatch  
[F2]を押して BIOS セットアップを起動し、「ご購入時の設定に戻す」(P.96)の操作を行ってください。  
それでも本メッセージが表示される場合は、弊社パーソナルエコーセンター、FMインフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。
10. リアルタイムクロックのエラーです。  
Real Time Clock Error  
[F2]を押して BIOS セットアップを起動し、「ご購入時の設定に戻す」(P.96)の操作を行ってください。  
それでも本メッセージが表示される場合は、弊社パーソナルエコーセンター、FMインフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。
11. CMOS バッテリーが損傷しています。  
システム CMOS のチェックサムが正しくありません。  
CMOS Battery Bad  
CMOS Checksum Error  
[F2]を押して BIOS セットアップを起動し、「ご購入時の設定に戻す」(P.96)の操作を行ってください。  
それでも本メッセージが表示される場合は、バッテリーの交換が必要です。弊社パーソナルエコーセンター、FMインフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。
12. I/O アドレスが競合しています。  
I/O Resource Conflict(s)  
[F2]を押して BIOS セットアップを起動し、「PnP/PCI」メニューで「リソース (ESCD) の初期化」を「はい」に設定して、本パソコンを再起動してください。  
それでも本メッセージが表示される場合は、弊社パーソナルエコーセンター、FMインフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。
13. メモリのリソースが競合しています。  
Memory Resource Conflict(s)  
[F2]を押して BIOS セットアップを起動し、「PnP/PCI」メニューで「リソース (ESCD) の初期化」を「はい」に設定して、本パソコンを再起動してください。  
それでも本メッセージが表示される場合は、弊社パーソナルエコーセンター、FMインフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。

14. IRQ 設定のエラーです。  
IRQ Setting Error  
[F2] を押して BIOS セットアップを起動し、「PnP/PCI」メニューで「リソース (ESCD) の初期化」を「はい」に設定して、本パソコンを再起動してください。それでも本メッセージが表示される場合は、弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。
15. 拡張 ROM の割り当てに失敗しました。  
Expansion ROM Allocation Failed  
本パソコンの電源を切り、増設したオプション機器が正しく取り付けられているか確認し、もう一度本パソコンの電源を入れてください。それでも本メッセージが表示される場合は、弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。
16. シリアルポート 1 のリソースが競合しています。  
Onboard Serial Port 1 Conflict(s)  
増設したオプション機器と本パソコンのシリアルポート 1 のリソースが競合しています。  
増設したオプション機器のリソースを変更するか、[F2] を押して BIOS セットアップを起動し、「内蔵デバイス」メニューで「シリアルポート」のリソースを変更してください。
17. パラレルポートのリソースが競合しています。  
Onboard Parallel Port Conflict(s)  
弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。
18. システムディスクをセットし、<Enter> キーを押してください。  
Insert system diskette and press Enter key to reboot  
弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。
19. PS/2 キーボードのエラーです。  
PS/2 Keyboard Interface Error  
弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。
20. PS/2 マウスのエラーです。  
PS/2 Pointing Device Error  
弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。
21. PS/2 マウスのエラーです。  
PS/2 Pointing Device Interface Error  
弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。
22. Invalid system disk  
Replace the disk, and then press any key  
フロッピーディスクドライブに、システム以外のフロッピーディスクをセットしたまま電源を入れる则表示されます。  
フロッピーディスクを取り出して、何かキーを押してください。



# 第 5 章

---

## 技術情報

本パソコンの仕様や、ドライバのインストール、注意事項などについて説明しています。

1. 仕様一覧 .....	110
2. ドライバのインストール .....	120
3. その他の注意事項 .....	127



## 1

## 仕様一覧

## パソコン本体

製品名称	FMV-DESKPOWER K3/50	FMV-DESKPOWER K3/50c
CPU	Pentium® processor 500MHz	Celeron™ processor 500 MHz
キャッシュメモリ	L1 32KB + L2 256KB	L1 32KB + L2 128KB
BIOS ROM	256KB (フラッシュROM)	
システムRAM	標準 64MB (SDRAM) ECC なし 最大 512MB	
システムバスクロック	100MHz	66MHz
フロッピーディスク	3.5 インチ × 1 (3 モード対応)	
ハードディスク	20.4GB (Cドライブ約 19.4GB、Dドライブ約 1.0GB) 1	
DVD-ROM ドライブ	CD-ROM : 最大 24 倍速 DVD-ROM : 最大 6 倍速 スロットイン	—————
CD-ROM ドライブ	—————	CD-ROM : 最大 24 倍速 スロットイン
グラフィック	Intel 社製 82810E	
ディスプレイ	15 インチ TFT	
オーディオ機能	Crystal 社製 CS4281 + CS4297A (AC97)	
デジタル出力	光デジタルオーディオ出力 (EIAJ 丸形光ミニジャック) 2	
I/F	PS/2 ポート	Mini-DIN 6pin × 2 (キーボード、マウス用)
	シリアルポート	非同期 RS-232C × 1 D-SUB 9pin
	パラレルポート	セントロニクス準拠 / ECP / EPP 対応 D-SUB 25pin
	USB ポート	USB1.1 準拠 (UHCI) × 2 (背面 × 2)
	サウンド	マイク入力 × 1、LINE 入力 × 1、LINE 出力 × 1、 ヘッドホン端子 / 光デジタルオーディオ出力端子 × 1、 MIDI / JOYSTICK 端子 × 1
	FAX / ボイス モデム	モジュラージャック × 2 (LINE × 1、PHONE × 1) DATA 56Kbps (受信) 33.6Kbps (送信) / FAX 14.4Kbps
PC カードスロット数	PC Card Standard 準拠 TYPE / × 2 または Type × 1 スロット (CardBus 対応)	
電源 / 周波数	AC100V 50/60Hz	
消費電力	最大 100W	
重量	約 9Kg	
外形寸法	W390mm × D174mm × H379mm (モニタ垂直時)	
使用環境	温度 10 ~ 35 湿度 20 ~ 80% (RH)	
省エネ法に基づく エネルギー消費効率	区分 R 0.0043	区分 R 0.0086
対応 OS	Windows98 SE (DirectX : 6.1 対応)	

- 1 本書に記載のディスク容量は、1MB=1000<sup>2</sup>byte、1GB=1000<sup>3</sup>byte 換算によるものです。Windows 上で 1MB=1024<sup>2</sup>byte、1GB=1024<sup>3</sup>byte 換算で表示される容量は、本書に記載のディスク容量より少なくなります。
- 2 光デジタルオーディオ出力端子はヘッドホン端子と共用です。本パソコンのデジタル出力は、サンプリング周波数 48kHz のみ有効です。48kHz に対応したオーディオ機器をお使いください。また、一般の CD プレーヤー類と同等のデジタルオーディオのコピーマネージメントを行っております。

本パソコンの仕様は、改善のために予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。

## 液晶ディスプレイ

製品名称	FMV-DESKPOWER K3/50, K3/50c
表示方式	TFT
サイズ	15 インチ
最大解像度	1024 × 768 ドット
最大発色数	1619 万色

## DVD-ROM ドライブ (K3/50 標準搭載)

インターフェース	ATAPI 規格準拠 (SFF8020/8090) (IDE 接続)
オーディオインターフェース	アナログのみ (ATAPI 規格準拠)
ディスク・ローディング	スロットイン ローディング
データ転送速度	CD-ROM 最大 24 倍速 DVD-ROM 最大 6 倍速
対応フォーマット (読み取りのみ)	CD 媒体 CD-DA, CD-ROM Mode 1, CD-ROM XA (Mode 2 Form1/Form2) Photo-CD, CD-Bridge, CD-I, Video-CD, CD エクストラ規格準拠, CD-R, CD-RW DVD 媒体 DVD-5, DVD-9, DVD-10, DVD-R

8 cm disk にはアダプタを使用せずに対応。

## CD-ROM ドライブ (K3/50c 標準搭載)

インターフェース	ATAPI 規格準拠 (SFF8020) (IDE 接続)
オーディオインターフェース	アナログのみ (ATAPI 規格準拠)
ディスク・ローディング	スロットインローディング
データ転送速度	CD-ROM 最大 24 倍速
対応フォーマット (読み取りのみ)	CD 媒体 CD-DA, CD-ROM Mode 1, CD-ROM XA (Mode 2 Form1/Form2) Photo-CD, CD-Bridge, CD-I, Video-CD, CD エクストラ規格準拠, CD-R, CD-RW

8 cm disk にはアダプタを使用せずに対応。

## サウンド機能

チップセット	Crystal 社製 CS4281 + CS4297A (AC97)
録音再生機能	サンプリング周波数 5kHz ~ 48kHz 16bit Stereo 最大 96 個同時再生可能 同時録音再生動作可能
MIDI 機能	Microsoft GS Wavetable SW Synth

## 内蔵スピーカー

方式	バスレフ型ボックススピーカー
スピーカーユニット	口径：40 × 30 (mm) インピーダンス：8
定格 (最大) 入力	1W/ch
音圧レベル	74dB/W (m)
再生周波数	200Hz ~ 15kHz

## FAX / ボイスモデム

名称	FAX / ボイスモデム-56000 (全二重) FMV-FX52Z1B
通信方式	2線式 全二重 (FAXモードでは2線式 半二重)
通信規格	K56flex™.ITU-T V.90/V.34/V.32bis/V.32/V.22bis /V.22/V.21/Bell212A,103 (データモード) ITU-T V.17/V.29/V.27ter (FAXモード)
通信速度	データモード : 56000,54667,54000,53333, (受信時) 52000,50667,50000,49333, 48000,46667,46000,45333, 44000,42667,42000,41333, 40000,38667,38000,37333, 36000,34667,34000,33333, 32000,30667,29333,28000bps データモード : 33600,31200,28800,26400, (送受信) 24000,21600,19200,16800, 14400,12000,9600,7200,4800, 2400,1200bps FAXモード : 14000,12000,9600,7200,4800, 2400bps
同期方式	調歩同期
データ転送 プロトコル	MNP class 4/5 ITU-T V.42/V.42bis
バスインターフェース	PCI
FAXインターフェース	TIA/EIA578 (class1)
音声蓄積機能	PCM
直流抵抗値	260
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自動速度検出</li> <li>・発信音、呼び出し音、話し中音、無音、ダイヤル音、音声などの回線接続の進行状況を示す応答音の検出</li> <li>・スピーカーフォン機能は未対応</li> </ul>

- ・ K56flex は Conexant Systems Inc.、Lucent Technologies 社が提唱している通信規格です。
- ・ V.90 および K56flex で接続する場合は、接続先のプロバイダなどが同規格に対応していることが必要です。
- ・ 56000bps は V.90 および K56flex の理論上の最高速度であり、実際の通信速度は回線状況により変化します。V.90 による 33600bps (K56flex は 31200bps) を超える通信速度は受信時のみで、V.90 送信時は 33600bps (K56flex は 31200bps) が最高速度になります。  
日本国内の一般公衆回線、または構内交換機経由で通信を行う場合は、同規格での通信ができないことがあります。
- ・ MS-DOS モードおよび Windows98 の MS-DOS プロンプトではお使いになれません。
- ・ 本モデムに搭載されておりますスピーカーでは、ダイヤルパルス音を聞くことができません。
- ・ 300bps での通信は行えません。

## IRQ (割り込み要求) 一覧



### アドバイス

IRQの値は変更されることもあります

ここに記載しているIRQの値は、ご購入時のものです。オプション機器を増設すると、値が変更されることがあります。

現在のIRQを確認するには

オプション機器を増設すると、IRQの値が変更されることがあります。現在のIRQは、次の手順で確認できます。

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。
- 2  (システム) をクリックします。
- 3 「デバイスマネージャ」タブをクリックします。
- 4 「コンピュータ」が反転表示されていることを確認し、「プロパティ」をクリックします。
- 5 「リソースの表示」タブで、「割り込み要求 (IRQ)」をクリックします。IRQの値の一覧が表示されます。

ご購入時の本パソコンのIRQ (割り込み要求) は、次のように設定されています。

IRQ (割り込み要求)	使っているハードウェア
00	システムタイマ
01	キーボード
02	割り込みコントローラ
03	空き
04	通信ポート (COM1)
05	サウンド / USB
06	フロッピーディスクドライブ
07	プリンタポート
08	リアルタイムクロック
09	ACPI / モデム / グラフィック
10	PC カード
11	PC カード
12	PS/2 マウスポート
13	数値データプロセッサ
14	ハードディスク / DVD-ROM ドライブ (K3/50) / CD-ROM ドライブ (K3/50c)
15	空き



IRQ (割り込み要求 : Interrupt Request) とは

コラム

周辺装置が要求する処理はすべてCPUが行いますが、CPUはどの装置からいつ「こういう処理を行ってほしい」という要求がくるかを予想できません。CPUが常にすべての装置を監視していると、処理を行っている時間よりも、監視している時間のほうが長くなってしまい、非効率的です。そこで、各周辺装置や拡張カードのほうで、CPUに実行してほしいことが発生したときに、IRQの番号を使って現在CPUが行っている処理に「割り込み」、「自分のほうを優先してほしい」と要求します。CPUは、どの装置から要求が来たのかをIRQから判断して、処理を行います。それが終われば、CPUはふたたび元の処理に戻ります。

## IRQ を解放する

オプション機器をお使いになる場合には、オプション機器を取り付ける前に次の設定が必要になることがあります。

取り付けるオプション機器が必要とするIRQが本パソコンですでに使われているときは、そのままではそのオプション機器を使えません。オプション機器を取り付ける前に、オプション機器が必要とするIRQを本パソコンで空ける必要があります。この作業を「IRQの解放」といいます。

本パソコンのIRQの使用状況について詳しくは、「IRQ（割り込み要求）一覧」（P.114）をご覧ください。

ここでは、シリアルポートのIRQを解放する手順を例に、IRQを解放する方法を説明します。

### 用語

#### デバイス

パソコン本体内部の装置（メモリ）や、パソコンに接続する機器（マウス、キーボード、PCカードなど）のことをデバイスと呼びます。

### アドバイス

#### IRQを解放すると

それまでそのIRQを割り当てられていたデバイスは使えなくなります。IRQ4を解放すると、パソコン本体背面のシリアルコネクタ（COM1）（P.7）が使えなくなります。このコネクタにオプション機器を接続している場合は、そのオプション機器も使えなくなります。

### 重要

#### IRQを解放したデバイスは使えません

IRQを解放すると、それまでそのIRQを割り当てられていたデバイスは、使えなくなりますのでご注意ください。

再びお使いになるときは、IRQを再設定してください。

#### IRQは不用意に解放しないでください

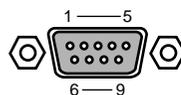
IRQは、不用意に解放すると、本パソコンが動作しなくなることがあります。「IRQ（割り込み要求）一覧」（P.114）でよくご確認のうえ、IRQを解放してください。

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。
- 2 （システム）をクリックします。
- 3 「デバイスマネージャ」タブをクリックします。  
本パソコンのハードウェアの一覧が表示されます。
- 4 解放したいIRQを使っているデバイスをクリックして選びます。  
IRQ4を解放するには「ポート（COM/LPT）」内の「通信ポート（COM1）」を選びます。
- 5 「プロパティ」をクリックします。  
デバイスのプロパティの「情報」が表示されます。
- 6 「デバイスの使用」の「このハードウェアプロファイルで使用不可にする」の  をクリックして  にし、「OK」をクリックします。  
「デバイスマネージャ」タブに戻ります。  
IRQを解放したデバイスに×印が付きます。
- 7 「閉じる」をクリックします。  
「システムのプロパティ」ウィンドウが閉じます。  
デバイスによっては、「閉じる」をクリックしたあとに、再起動するメッセージが表示されるものがあります。この場合は「はい」をクリックし、本パソコンを再起動してください。再起動したら、操作は終了です。
- 8 「スタート」ボタンをクリックし、「Windowsの終了」をクリックします。
- 9 「再起動する」をクリックして、「OK」をクリックします。  
本パソコンが再起動します。

## コネクタのピン配列と信号名

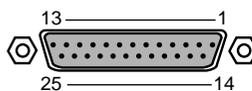
各コネクタのピンの配列および信号名は次のとおりです。

### シリアルコネクタ



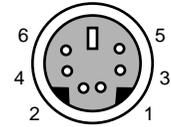
ピンNo.	信号名	方向	内容
1	CD	入力	キャリア検出
2	RD	入力	受信データ
3	TD	出力	送信データ
4	DTR	出力	データ端末レディ
5	GND	-	グラウンド
6	DSR	入力	データセットレディ
7	RTS	出力	送信要求
8	CTS	入力	送信可
9	RI	入力	リングインジケート

### パラレルコネクタ



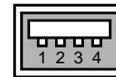
ピンNo.	信号名	方向	内容
1	STROBE	入出力	ストロブ
2	DATA0	入出力	データ0
3	DATA1	入出力	データ1
4	DATA2	入出力	データ2
5	DATA3	入出力	データ3
6	DATA4	入出力	データ4
7	DATA5	入出力	データ5
8	DATA6	入出力	データ6
9	DATA7	入出力	データ7
10	ACK	入力	アクノリッジ
11	BUSY	入力	ビジー
12	PE	入力	用紙切れ
13	SELECT	入力	セレクト
14	AUTOFD	出力	自動送り
15	ERROR	入力	エラー
16	INIT	出力	初期化
17	SLCTIN	出力	セレクト
18~25	GND	-	グラウンド

## キーボードコネクタ



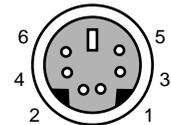
ピンNo.	信号名	方向	内容
1	DATA	入出力	データ
2	NC	-	未接続
3	GND	-	グラウンド
4	VCC	-	電源
5	CLK	入出力	クロック
6	NC	-	未接続

## USB ポート



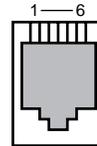
ピンNo.	信号名	方向	内容
1	VCC	-	ケーブル・電源
2	- DATA	入出力	- データ信号
3	+ DATA	入出力	+ データ信号
4	GND	-	ケーブル・グラウンド

## マウスコネクタ



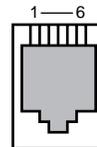
ピンNo.	信号名	方向	内容
1	DATA	入出力	データ
2	NC	-	未接続
3	GND	-	グラウンド
4	VCC	-	電源
5	CLK	入出力	クロック
6	NC	-	未接続

## LINE 端子 (モデム)

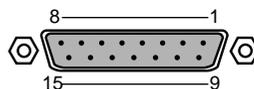


ピンNo.	信号名	方向	内容
1	NC	-	未接続
2	-	-	PHONE端子の5ピンと接続
3	LINE	入出力	公衆回線に接続
4	LINE	入出力	公衆回線に接続
5	-	-	PHONE端子の2ピンと接続
6	NC	-	未接続

## PHONE 端子 (モデム)



ピンNo.	信号名	方向	内容
1	NC	-	未接続
2	-	-	LINE端子の5ピンと接続
3	TEL	入出力	電話機に接続
4	TEL	入出力	電話機に接続
5	-	-	LINE端子の2ピンと接続
6	NC	-	未接続



ピンNo.	信号名	方向	内容
1	+ 5V	-	電源
2	JOYF0	入力	ジョイスティックAボタン1
3	JRC0	入力	ジョイスティックA X座標
4	GND	-	グラウンド
5	GND	-	グラウンド
6	JRC1	入力	ジョイスティックA Y座標
7	JOYF1	入力	ジョイスティックAボタン2
8	+ 5V	-	電源
9	+ 5V	-	電源
10	JOYF2	入力	ジョイスティックBボタン1
11	JRC2	入力	ジョイスティックB X座標
12	MIDIOUT	出力	MIDI出力
13	JRC3	入力	ジョイスティックB Y座標
14	JOYF3	入力	ジョイスティックBボタン2
15	MIDIIN	入力	MIDI入力

### 本体のコネクタ / ジャックで利用できるケーブル

パラレルコネクタ	D-SUB25 ピンコネクタ付きケーブル
シリアルコネクタ	D-SUB9 ピンコネクタ付きケーブル
USB ポート	USB ケーブル
MIDI/JOYSTICK 端子	D-SUB15 ピンコネクタ付きケーブル
LINE/PHONE 端子	モジュラーケーブル
LINE OUT/LINE IN 端子	ミニプラグ (ステレオ) ケーブル
MIC IN 端子	ミニプラグ (モノラル) ケーブル
ヘッドホン端子 / 光デジタルオーディオ出力端子	ミニプラグ (ステレオ) ケーブル 光デジタルオーディオケーブル (丸形光ミニプラグ)



# 2

## ドライバのインストール

パソコンの調子が悪いとき、その原因がドライバにある場合があります。ゲームなどをインストールして、パソコンに合わないドライバに更新されてしまうと、パソコンは正しく動作しません。パソコンの状態に合わせて、ドライバを再インストールしてください。

画面が正しく表示されない場合はディスプレイドライバをインストールします。  
音が正しく出ない場合はサウンドドライバをインストールします。

### インストールのときに気をつけること

正常にインストールを行うために、次の点にご注意ください。

#### アクティブデスクトップの解除

アクティブデスクトップに設定されたままインストールを行うと、正常にインストールを終了できない場合があります。インストールの前に、次の手順に従ってアクティブデスクトップの設定を解除します。

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」、「アクティブデスクトップ」の順にマウスポインタを合わせ、「Web ページで表示」をクリックし、チェックマークを外します。

Windows98 の標準画面に切り替わります。

インストール終了後、改めてアクティブデスクトップに設定してください。

#### アプリケーションの終了やスクリーンセーバーの解除

開いているウィンドウや、起動しているアプリケーションをすべて終了させてください。「VirusScan」や「FM 便利ツール」など、タスクバーに常駐するタイプのアプリケーションを終了させ、スクリーンセーバーを解除してください。

また、操作中、何度もパソコンが再起動されるので、スタートアップに登録されているアプリケーションは、そのつど終了させる必要があります。

#### 「バージョンの競合」ウィンドウが表示された場合

インストール中に、「バージョンの競合」ウィンドウが表示されることがあります。その場合は、表示されたメッセージの内容をよくお読みになり、必ず  「アプリケーション CD 2」に入っているファイルがインストールされるように、「はい」または「いいえ」を選んでください。

- ▶ ディスプレイドライバをインストールする場合
  - ☛ 「ディスプレイドライバをインストールする」(P.121) をご覧ください。
- ▶ サウンドドライバをインストールする場合
  - ☛ 「サウンドドライバをインストールする」(P.123) をご覧ください。



#### アドバイス

アクティブデスクトップを解除する別の方法

デスクトップの何も無いところで右クリックし、「アクティブデスクトップ」にマウスポインタを合わせ、「Web ページで表示」をクリックしても、アクティブデスクトップを解除できます。

## ディスプレイドライバをインストールする

インストールを始める前に、必ず「インストールのときに気をつけること」(P.120)をご覧ください。

ディスプレイドライバのインストールは⑨「アプリケーション CD 2」から行います。

- 1** それまで本パソコンで行っていた作業を終了します。  
必要に応じて作業中のデータを保存し、アプリケーションを終了してください。
- 2** 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。
- 3** ⑨「アプリケーション CD 2」をDVD-ROMドライブまたはCD-ROMドライブにセットします。
- 4** 「コントロールパネル」ウィンドウの (画面) をクリックします。  
「画面のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 5** 「設定」タブをクリックし、「詳細」をクリックします。
- 6** 「アダプタ」タブをクリックし、「変更」をクリックします。  
「デバイスドライバの更新ウィザード」ウィンドウが表示されます。
- 7** 「次へ」をクリックします。  
「検索方法を選択してください。」というメッセージが表示されます。
- 8** 「特定の場所にあるすべてのドライバの一覧を作成し、インストールするドライバを選択する」の をクリックし、 にします。
- 9** 「次へ」をクリックします。  
「モデル」の一覧が表示されます。
- 10** 「ディスク使用」をクリックします。  
「ディスクからインストール」ウィンドウが表示されます。
- 11** 「配布ファイルのコピー元」に次のように入力し、「OK」をクリックします。  
e:¥810e  
↑ eには、お使いのDVD-ROMドライブ名またはCD-ROMドライブ名を入力してください。
- 12** 「モデル」一覧の中の「Intel(R) 810e Chipset Graphics Driver (DC133 FSB133) 4.11.01.2523」をクリックします。  
「Intel(R) 810e Chipset Graphics Driver(DC133 FSB133) 4.11.01.2523」が2つ表示される場合には、上段をクリックしてください。
- 13** 「OK」をクリックします。  
「ドライバ更新の警告」ウィンドウが表示された場合は、「はい」をクリックしてください。  
「次のデバイス用のドライバファイルを検索します。:Intel(R) 810e Chipset Graphics Driver (DC133 FSB133) 4.11.01.2523」というメッセージが表示されます。

- 14** 「次へ」をクリックします。  
ファイルのコピーが始まります。  
「バージョンの競合」ウィンドウが表示された場合には、「いいえ」をクリックしてください。
- 15** 「Intel(R) 810e Chipset Graphics Driver (DC133 FSB133) 4.1.1.01.2523 ハードウェアデバイス用に選択したドライバがインストールされました。」というメッセージが表示されたことを確認し、「完了」をクリックします。  
「Intel(R) 810e Chipset Graphics Driver( DC133 FSB133 ) 4.1.1.01.2523 のプロパティ」ウィンドウに戻ります。
- 16** 「アダプタ」タブの「リフレッシュレート」が「最適」になっていることを確認します。  
上記以外になっている場合は、「リフレッシュレート」の▼をクリックし、選択します。メッセージが表示されたら、「OK」または「はい」をクリックしてください。
- 17** 「閉じる」をクリックします。  
「画面のプロパティ」ウィンドウに戻ります。
- 18** 「閉じる」をクリックします。  
「システム設定の変更」ウィンドウが表示されます。
- 19** 「はい」をクリックします。  
本パソコンが再起動します。
- 20** 「コントロールパネル」ウィンドウの右上の×(閉じるボタン)をクリックします。  
「コントロールパネル」ウィンドウが閉じます。
- 21** 「スタート」ボタンをクリックし、「ファイル名を指定して実行」をクリックします。
- 22** 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。  
e:\¥810e¥810fjuti.exe  
↑ eには、お使いのDVD-ROMドライブ名またはCD-ROMドライブ名を入力してください。  
「設定が変更されました。設定を有効にするためにシステムを再起動します。よろしいですか?」というメッセージが表示されます。
- 23**  「アプリケーションCD 2」をDVD-ROMドライブまたはCD-ROMドライブから取り出します。
- 24** 「はい」をクリックします。  
本パソコンが再起動します。

**アドバイス****画面の設定を変更するには**

解像度や発色数などの画面の設定を変更するには、「画面の解像度や発色数を変える」(P.42)をご覧ください。

**「モニターを設定してください」というメッセージが表示されたときは**

「はい」をクリックします。モニターの設定について詳しくは、『トラブル解決Q & A』の「画面が乱れる」をご覧ください。

**アクティブデスクトップに設定してください**

ご購入時の状態に戻すには、このあと、次の手順に従ってアクティブデスクトップに設定してください。

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」、「アクティブデスクトップ」の順にマウスポインタを合わせ、「Web ページで表示」をクリックし、チェックマークを付けます。  
アクティブデスクトップに切り替わります。

**ディスプレイドライバはバージョンアップされることがあります**

最新のドライバは、パソコン通信やインターネットなどのオンライン情報サービスにてご案内します。

- @nifty 富士通 FM シリーズ情報「FM INFO」  
(GO INFO でアクセスできます)
- インターネット富士通パソコン情報ページ「FM WORLD」  
(<http://www.fmworld.ne.jp>)

**サウンドドライバをインストールする**

インストールを始める前に、必ず「インストールのときに気をつけること」(P.120)をご覧ください。

サウンドドライバのインストールは、⑧「アプリケーション CD 2」から行います。

- 1 **それまで本パソコンで行っていた作業を終了します。**  
必要に応じて作業中のデータを保存し、アプリケーションを終了してください。
- 2 ⑧「アプリケーション CD 2」をDVD-ROMドライブまたはCD-ROMドライブにセットします。
- 3 ⑧「アプリケーション CD 2」内にある次のフォルダを、本パソコンの「マイドキュメント」へコピーします。  
`¥update¥sound¥crystal`  
コピーのしかたについては、『かるがるパソコン入門』をご覧ください。
- 4 「スタート」ボタンをクリックし、「ファイル名を指定して実行」をクリックします。
- 5 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。  
`c:¥my documents¥crystal¥v5011¥setup.exe`  
「my」と「documents」の間は、を1回押してください。  
「Crystal Audio Setup」ウィンドウが表示されます。
- 6 「Uninstall Crystal Drivers」をクリックします。  
「Crystal driver uninstall complete」ウィンドウが表示されます。

## 7 「Restart」をクリックします。

本パソコンが再起動されます。

「新しいハードウェアの追加ウィザード」ウィンドウが表示され、「次の新しいドライバを検索しています：PCI Multimedia Audio Device」というメッセージが表示されます。

## 8 「次へ」をクリックします。

「検索方法を選択してください。」というメッセージが表示されます。

## 9 「使用中のデバイスに最適なドライバを検索する(推奨)」が になっていることを確認し、「次へ」をクリックします。

## 10 「検索場所の指定」の をクリックして にし、次のフォルダ名を入力します。

c:\my documents\crystal\v5011

「my」と「documents」の間は、 を1回押してください。

## 11 「フロッピーディスクドライブ」と「CD-ROMドライブ」が になっていることを確認します。

になっている場合は、 をクリックし  にしてください。

## 12 「次へ」をクリックします。

「このデバイス用の更新されたドライバが見つかりました。」というメッセージが表示されます。

## 13 「更新されたドライバ(推奨)Crystal CS4281 PCI Audio」が選択されていることを確認し、「次へ」をクリックします。

「次のデバイス用のドライバファイルを検索します。:Crystal CS4281 PCI Audio」というメッセージが表示されます。

## 14 「次へ」をクリックします。

ファイルがコピーされ、「新しいハードウェアデバイスに必要なソフトウェアがインストールされました。」というメッセージが表示されます。

## 15 「完了」をクリックします。



### アドバイス

Windows98のCD-ROMを要求するメッセージが表示されたときは

「OK」をクリックします。

表示されたウィンドウの「ファイルのコピー元」に c:\windows\options\cabs と入力し、「OK」をクリックしてください。

「再起動しますか?」と表示された場合は、「はい」をクリックし、本パソコンを再起動してください。

Crystal SoundFusion(™)ディスクを要求するメッセージが表示されたときは

「OK」をクリックします。

表示されたウィンドウの「ファイルのコピー元」に次のフォルダ名を入力し、「OK」をクリックしてください。

c:\my documents\crystal\v5011

「my」と「documents」の間は、 を1回押してください。

「ファイルが見つかりません。」というメッセージが表示された場合は、次のいずれかのフォルダ名を入力し、「OK」をクリックしてください。

c:\windows\options\cabs または c:\windows\system

次に、正しくサウンドドライバがインストールされたかを確認します。

- 16** 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。

「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。

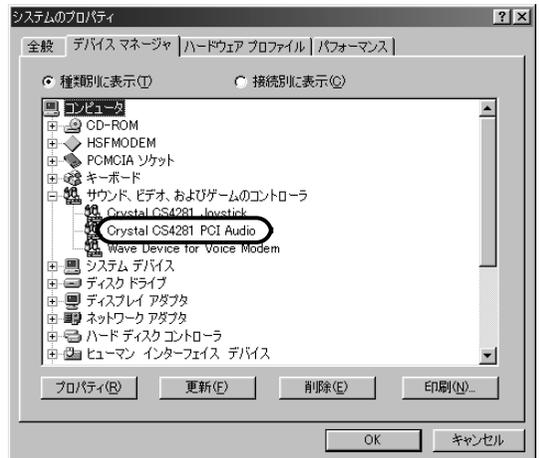
- 17**  (システム) をクリックします。

「システムのプロパティ」ウィンドウが表示されます。

- 18** 「デバイスマネージャ」タブをクリックします。

- 19** 「サウンド、ビデオ、およびゲームのコントローラ」の  をクリックします。

「Crystal CS4281 PCI Audio」が表示されていることを確認します。



(お使用の状況により、画面が異なる場合があります)

- 20** 「OK」をクリックします。

次に、MIDI の設定を確認します。

- 21** 「コントロールパネル」ウィンドウの  (マルチメディア) をクリックします。

「マルチメディアのプロパティ」ウィンドウが表示され、「オーディオ」タブが前面に表示されます。

## アドバイス

「!」や「x」が表示されていたり、画面例のように表示されていないときは

「!」や「x」が表示されていたり、画面例のように表示されていない場合は、手順4 (P.123) から操作し直してください。

それでも「!」や「x」が表示されている場合は、弊社パーソナルエコーセンターまたは、FM インフォメーションサービスにご連絡ください。

**22** 「再生」、「録音」の「優先するデバイス」が「Crystal CS4281」になっていることを確認します。

他のデバイスになっている場合は、「優先するデバイス」の右側の▼をクリックし、「Crystal CS4281」をクリックします。



**23** 「OK」をクリックします。

「マルチメディアのプロパティ」ウィンドウが閉じます。

**24** 「コントロールパネル」ウィンドウの右上の✕(閉じるボタン)をクリックします。

「コントロールパネル」ウィンドウが閉じます。

**25**  「アプリケーションCD 2」をDVD-ROMドライブまたはCD-ROMドライブから取り出します。

 **アドバイス**

サウンドドライバのインストール終了後は

手順3 (P.123)で、本パソコンの「マイドキュメント」へコピーしたフォルダは削除してもかまいません。

アクティブデスクトップに設定してください

ご購入時の状態に戻すには、このあと、次の手順に従ってアクティブデスクトップに設定してください。

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」、「アクティブデスクトップ」の順にマウスポインタを合わせ、「Web ページで表示」をクリックし、チェックマークを付けます。アクティブデスクトップに切り替わります。



## 3

## その他の注意事項

## インテル® プロセッサ シリアル ナンバについて(K3/50をお使いの方)

## インテル プロセッサ・シリアル・ナンバ

インテル® Pentium® プロセッサに組み込まれた電氣的に読み取り可能なシリアル番号で、ウェブ上でのセキュリティ向上や情報管理・資産管理などに利用することができます。

プロセッサ・シリアル・ナンバはBIOS セットアップ(☛P.91)を使用して読み取り機能の「使用する」/「使用しない」を設定することができます。

## プロセッサ・シリアル・ナンバについての詳細情報

プロセッサ・シリアル・ナンバの詳細については、<http://www.intel.com/jp/pentiumiii>を参照してください。

## 液晶ディスプレイの特性

TFT液晶ディスプレイは高度な技術を駆使し、一画面上に235万個以上(解像度1024 × 768の場合)の画素(ドット)より作られています。このため、画面上の一部に点灯しないドットや、常時点灯するドットが存在する場合がありますが、これらは故障ではありませんので、あらかじめご了承ください。

## 液晶ディスプレイの廃棄

液晶ディスプレイ内の蛍光管の中には水銀が含まれています。本パソコンの廃棄にあたっては、地方自治体の条例または規則に従ってください。

## PS/2 マウスの表示

本パソコンでは次の2カ所でエラーのメッセージが表示されます。故障ではありませんので、お使いになるうえで問題はありません。

- ・「システムのプロパティ」ウィンドウの「デバイスマネージャ」タブで、「PS/2 互換マウスポート」に「！」マークが表示されます。
- ・システム情報の「問題のあるデバイス」に「PS/2 互換マウスポート」と表示されます。

## 5

## モデムについて

### 内蔵モデムに電話回線を接続するときの注意



近くで雷が起きたときは、パソコン本体の電源プラグをコンセントから、モジュラーケーブルをモジュラージャックから抜いてください。そのまま使用すると、場合によっては本パソコンを破壊し、火災の原因となります。



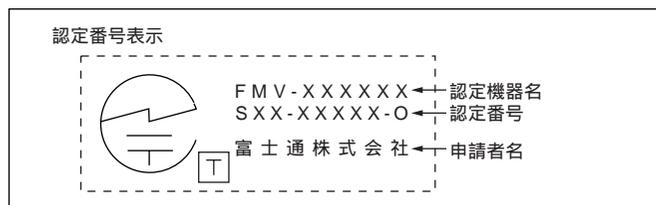
モジュラージャックやモジュラーコネクタに指などを入れないでください。感電の原因となることがあります。

- ・ モデムが使用可能な回線  
本モデムは、接続する電話回線がNTTの一般公衆電話回線の電気的な仕様と同じでないと正常に動作しません。
- ・ ホームテレホン、ビジネスホンなどには接続できません  
本モデムが接続できる回線は、一般のNTT公衆電話回線のみです。ホームテレホン、ビジネスホン、キーテレホン、ポタン電話などは、NTTの電話回線と電気的な仕様が異なるため接続できません。接続前に電話装置メーカーや保守業者にお問い合わせください。
- ・ デジタル回線に接続する場合  
本モデムはデジタル網（ISDN等）やデジタル構内交換網（デジタルPBX）の回線に直接接続することはできません。モデムカードが故障するおそれがありますので、ターミナルアダプタ等を経由して、アナログポートに接続してお使いください。
- ・ PBXに接続する場合  
PBXに接続される通信回線の仕様がNTTの電話回線と電気的な仕様が異なる場合、本モデムがお使いになれないことがあります。たとえば、呼出信号の電圧や周期、ダイヤルトーンの条件などについてはNTT回線の仕様に準拠しています。接続する前に、PBXの製造メーカーや保守業者にお問い合わせください。  
ただし、「0」発信によって外線に接続するPBX内線電話の場合、お使いのアプリケーションの設定で初期化コマンドにATX3を追加するか、または発信音をチェックしない設定をすることで、発信できることがあります。
- ・ キャッチホン1契約をしている場合  
パソコン通信やFAX送受信中に他から電話がかかると、回線が一時的に切断されます。その場合は、通信データが壊れたり、送受信が中止されたりすることがあります。キャッチホン2に変更するか、または同一の回線ではお使いにならないでください。
- ・ FAX受信時の注意  
自分側からダイヤルした場合、またはハンドセットで通話している間は、相手側からのFAXを受信できません。
- ・ 通信アプリケーションをお使いになるときの注意  
通信アプリケーションでデータのアップロード/ダウンロードを行う場合は、パソコンがスタンバイ状態にならないように設定してください。アップロード/ダウンロードの途中でスタンバイ状態になると、データ転送が中断することがあります。
- ・ ACアダプタなどは離してお使いください  
ACアダプタなどは、ノイズを発生して電話回線に影響を及ぼす場合があります。モデムをお使いになる場合は、これらのノイズ源と回線に影響のない程度に離してお使いください。

- ・他のモデムを接続しないでください  
他の外付けモデム、または電話機付きのモデムなどが、本モデムの「PHONE」端子に接続されている場合は取り外してください。
- ・分岐アダプタを使用して、インターネットやパソコン通信をしているときの注意  
通信中は電話機の受話器を外さないようにしてください。受話器が外れると、通信の妨害となり、通信が中断されることがあります。  
分岐アダプタをお使いになる場合は、なるべく2分岐以内にしてください。
- ・モジュラーケーブルの長さが足りないとき  
添付のモジュラーケーブルで長さが足りないときは、十分な長さの市販品をお買い求めください。
- ・ATコマンドについて  
本モデムのATコマンドについては、「アプリケーションCD 2」にあるPDFマニュアルをご覧ください。  
e:¥FX52Z1¥README.pdf  
↑ eは、お使いのDVD-ROMドライブ名またはCD-ROMドライブ名に読み替えてください。  
PDFマニュアルの使いかたについては、『使いこなす本ソフト編』の「付録3 PDFマニュアルの使いかた」をご覧ください。
- ・リダイヤル抑制機能について  
電気通信事業法に準じて、本モデムのリダイヤル（最初のダイヤリングは含まれません）は、3分間に最大2回までしかできません。3回以上リダイヤルをすると、リダイヤル抑制がかかります。  
リダイヤル抑制中は、次のように応答を返します。  
DELAYED（残り時間）

## 認定番号の表示

本モデムの技術基準適合認定番号は、本体背面に表記されています。



## スタンバイ時の注意

- ・電源スイッチなどで本パソコンをスタンバイにしても、まれに、すぐに復帰する場合があります。その場合には、一度マウスを動かしてから、再びスタンバイにしてください。
- ・WAVE/MIDI/AVI/MPEG/DATなどのマルチメディア関連のファイルおよびCD、DVDを再生する場合、「電源の管理のプロパティ」ウィンドウ（P.17）で「システムスタンバイ」を「なし」に設定してください。

## 画面表示について

次の場合に画面がちらついたり、ノイズが表示されたりすることがあります。

- ・ 解像度が切り替わる瞬間( 起動中や、MS-DOSプロンプトの全画面モードへの切り替わり時など)
- ・ 再起動したとき
- ・ 電源を入れたとき、切ったとき
- ・ スタンバイになるとき、スタンバイから復帰するとき
- ・ 「画面のプロパティ」ウィンドウで「詳細」をクリックしたとき

## 電源の切断について

システムが停止した状態で電源を切る場合、電源スイッチを4秒以上押し続けて指を離れたときに、電源が再投入されることがあります。その場合は、再起動時に画面の左下に「<F2> : BIOS セットアップ <F12> : 起動メニュー」と表示されていることを確認し、もう一度電源スイッチを4秒以上押し続けて電源を切ってください。

## ACPIのスタンバイモード設定の変更について

本パソコンでは、スタンバイモードを標準 (ACPI S1) と高度 (ACPI S3) のどちらかを選んでお使いになれます。ご購入時の設定は、標準 (ACPI S1) となっています。

- ・ 標準 (ACPI S1) : スタンバイ時にCPUの動作を停止し節電します。消費電力は高度設定ほど小さくなりませんが、すぐに復帰できます。
- ・ 高度 (ACPI S3) : スタンバイ時にメモリにデータを保存し、メモリ以外の電源を切り大幅に節電します。消費電力は最小になりますが、標準設定に比べ復帰に時間がかかります。

スタンバイモード設定を変更するには、「スタンバイモード設定ツール」を使用して、次の手順に従って操作してください。

### 重要

#### オプション機器はACPI S3に対応している必要があります

スタンバイモードを高度 (ACPI S3) へ設定を変更する前に、増設したオプション機器がACPI S3に対応していることを確認してください。オプション機器が対応していない場合は、スタンバイ状態から復帰しなかったり、復帰した後に正しく動作しない、などの不具合が発生する場合があります。

#### スタンバイモードを高度 (ACPI S3) へ設定を変更した場合

キーボードやマウスの操作では、スタンバイから復帰しません。電源スイッチを押して、スタンバイから復帰させてください。

#### マルチユーザー環境でご使用の場合

ログインするユーザーごとにスタンバイモードを同じ設定にする操作が必要です。

## 💡 アドバイス

「スタンバイモードの設定 - 高度 (ACPI S3) 設定エラー」ウィンドウが表示される場合

内容をよくお読みのうえ、「次の画面」をクリックしてください。

「スタンバイモードの設定」ウィンドウが表示される前に「スタンバイモードの設定 - 高度 (ACPI S3) 設定エラー」ウィンドウが表示された場合

「高度」の下に「(現在の設定)」が表示された状態で「OK」をクリックしてください。

BIOS設定の「標準設定値を読み込む」を行うと、スタンバイモードは標準 (ACPI S1) に戻ります

もう一度高度 (ACPI S3) にする場合は設定をやり直してください。

## スタンバイモードを高度 (ACPI S3) に設定する

- 1 それまで本パソコンで行っていた作業を終了します。  
必要に応じて作業中のデータを保存し、アプリケーションを終了してください。
- 2  「アプリケーションCD 2」をDVD-ROMドライブまたはCD-ROMドライブにセットします。
- 3 「スタート」ボタンをクリックし、「ファイル名を指定して実行」をクリックします。
- 4 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。  
`e:¥update¥etc¥chgsmode¥chgsmode.exe`  
↑ eには、お使いのDVD-ROMドライブ名またはCD-ROMドライブ名を入力してください。  
「スタンバイモードの設定 - 注意事項」ウィンドウが表示されます。
- 5 「次の画面」をクリックします。  
「スタンバイモードの設定」ウィンドウが表示されます。
- 6 「高度」の  をクリックし、 にします。  
「高度」の下に「(現在の設定)」が表示されている場合は、スタンバイモードはすでに高度に設定されていますので、「キャンセル」をクリックして終了させてください。
- 7 「OK」をクリックします。  
「スタンバイモードを高度 (ACPI S3) 設定にします」というメッセージが表示されます。
- 8 「OK」をクリックします。  
本パソコンが再起動します。

これでスタンバイモードを高度にする設定は終了です。

## スタンバイモードを標準 (ACPI S1) に設定する

スタンバイモードを標準 (ACPI S1) の設定に戻すときは、次の手順に従って操作してください。

- 1 それまで本パソコンで行っていた作業を終了します。  
必要に応じて作業中のデータを保存し、アプリケーションを終了してください。
- 2  「アプリケーションCD 2」をDVD-ROMドライブまたはCD-ROMドライブにセットします。
- 3 「スタート」ボタンをクリックし、「ファイル名を指定して実行」をクリックします。
- 4 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。  
`e:¥update¥etc¥chgsmode¥chgsmode.exe`  
↑ eには、お使いのDVD-ROMドライブ名またはCD-ROMドライブ名を入力してください。  
「スタンバイモードの設定 - 注意事項」ウィンドウが表示されます。



## アドバイス

「スタンバイモードの設定 - 高度 (ACPI S3) 設定エラー」ウィンドウが表示される場合

内容をよくお読みのうえ、「次の画面」をクリックしてください。

### 5 「次の画面」をクリックします。

「スタンバイモードの設定」ウィンドウが表示されます。

### 6 「標準」の をクリックし、 にします。

「標準」の下に「(現在の設定)」が表示されている場合は、スタンバイモードはすでに標準に設定されていますので、「キャンセル」をクリックして終了させてください。

### 7 「OK」をクリックします。

「スタンバイモードを標準 (ACPI S1) 設定にします」というメッセージが表示されます。

### 8 「OK」をクリックします。

本パソコンが再起動します。

これでスタンバイモードを標準にする設定は終了です。

## ACPI S3 の注意事項

スタンバイモードを高度 (ACPI S3) でお使いの場合、スタンバイ状態から復帰すると、USB キーボードからの入力が正常にできなくなる場合があります。

この場合は、本パソコンを再起動してください。

## ACPI モードの注意事項

スタンバイモードを標準 (ACPI S1) または高度 (ACPI S3) でお使いの場合に、MS-DOS プロンプトを起動していると、次のような現象が起こることがあります。

- ・スタンバイから復帰したときにウィンドウ内が黒く表示される  
MS-DOSプロンプトをウィンドウ表示で使用している場合に、スタンバイ状態になると起こる現象です。  
マウスを操作すると正常な表示に戻ります。
- ・スタンバイから復帰したときにウィンドウが最小化されている  
MS-DOSプロンプトを全画面表示で使用している場合に起こる現象です。  
タスクバーにある「MS-DOSプロンプト」をクリックして全画面表示に戻してください。

## APM について

本パソコンでは、省電力機能として、ACPI (Advanced Configuration and Power Interface) モードと APM (Advanced Power Management) モードのどちらかを選んでお使いになれます。ACPI モードに対応していないオプション機器をお使いになるときに APM モードに変更します。ご購入時の設定は ACPI モードです。

### 重要

#### ハードディスクをご購入時の状態に戻してください

Windows 98 の APM モードに設定を変更するには、パソコンをご購入時の状態に戻す必要があります。ハードディスク (C ドライブ) 内のファイルはすべて消えることになるため、お客様が作成したデータなどの大切なファイルは、事前にフロッピーディスクなどにコピーして保存してください。

また、ご購入後にインストールされたアプリケーションは、もう一度インストールし直す必要があります。

#### 電源を切るときは

アドバイス「その他の電源の切りかた」(P.15) をご覧になり電源を切ってください。電源ボタンを押すと、スタンバイ状態になります。

#### ACPI モードに戻すときには

再度ハードディスクをご購入時の状態に戻す必要があります。

ACPI モードへ設定を戻すには、 『トラブル解決 Q&A』 をご覧になり、ご購入時の状態に戻してから設定を変更してください。

#### 再起動に時間がかかる場合があります

再起動に数分間かかる場合がありますが、故障ではありません。そのままおまちください。

## Windows 98 の APM モードを設定する

### 必要なものを用意する

APM の設定には、次のものがが必要です。

-  『トラブル解決 Q&A』
-  『取扱説明書』
-  『リカバリ CD-ROM』 (1/2) (2/2)
-  『アプリケーション CD 2』

## APM 切り替えプログラムを使う

いったん APM モードに切り替えると、ACPI モードに戻すには、増設したオプション機器（プリンタ、スキャナなど）を取り外し、作成したデータを保存して、もう一度ハードディスク（C ドライブ）をご購入時の状態に戻す必要があります。上記重要の記述をご確認のうえ、内容にご同意いただける場合は、次の操作を行ってください。

### 1 『トラブル解決 Q&A』 『取扱説明書』 をご覧になり、本パソコンをご購入時の状態に戻します。

ご購入後に増設されたオプション機器（プリンタ、スキャナなど）はすべて取り外してください。これらのオプション機器は、すべての作業が終了するまで取り付けないでください。

また、ご購入後に作成したデータ、インストールしたアプリケーションなどは、すべて削除されます。必要なデータは、あらかじめフロッピーディスクなどに保存しておいてください。

### 2 パソコン本体の電源を入れます。

#### **重要**

#### アクティブデスクトップを解除してください

APM モードを設定する前に、次の手順に従ってアクティブデスクトップの設定を解除してください。

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」、「アクティブデスクトップ」の順にマウスポインタを合わせ、「Web ページで表示」をクリックし、チェックマークを外します。

Windows98 の標準画面に切り替わります。

APM モードを設定した後に、改めてアクティブデスクトップに設定してください。

#### アプリケーションを終了し、スクリーンセーバーを解除してください

開いているウィンドウや、起動しているアプリケーションをすべて終了させてください。「FM 便利ツール」など、タスクバーに常駐するタイプのアプリケーションを終了させ、スクリーンセーバーを解除してください。

また、操作中、何度もパソコンが再起動されるので、スタートアップに登録されているアプリケーションは、そのつど終了させる必要があります。

### 3 「アプリケーション CD 2」を DVD-ROM ドライブまたは CD-ROM ドライブにセットします。

### 4 「スタート」ボタンをクリックし、「ファイル名を指定して実行」をクリックします。

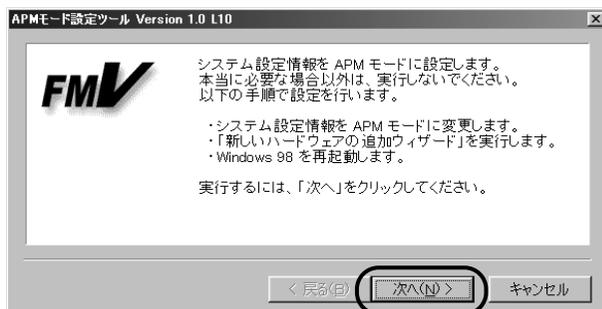
### 5 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。

e:¥chgapm¥chgapm.exe

↑ e には、お使いの DVD-ROM ドライブ名または CD-ROM ドライブ名を入力してください。

「APM モード設定ツール」ウィンドウが表示されます。内容をよくお読みください。

## 6 「次へ」をクリックします。



## 7 「APM モードに設定する」のをクリックし、にします。

## 8 「次へ」をクリックします。

## 9 「完了」をクリックします。

「新しいハードウェアの追加ウィザード」ウィンドウが表示されます。

## 10 「次へ」をクリックします。

「システムにあるプラグアンドプレイ機器を検索します。」というメッセージが表示されます。

## 11 「次へ」をクリックします。

「インストールするデバイスは一覧にありますか？」というメッセージが表示されます。

## 12 「デバイスは一覧にない」のをクリックしてにし、「次へ」をクリックします。

「新しいハードウェアを自動的に検出しますか？」というメッセージが表示されます。

## 13 「はい」をクリックし、「次へ」をクリックします。

「プラグアンドプレイで検出されなかった新しいデバイスを検索します。」というメッセージが表示されます。

## 14 「次へ」をクリックします。

新しいデバイスの検索が始まります。検索には数分かかります。

「ハードウェアの検出が完了し、インストールの準備ができました。」というメッセージが表示されます。

## 15 「完了」をクリックします。

「今すぐ再起動しますか？」というメッセージが表示されます。

## 16 フロッピーディスクがセットされていないことを確認し、「はい」をクリックします。

Windows 98 が再起動し、新しいハードウェアの検出が実行されます。

「今すぐ再起動しますか？」というメッセージが表示されます。

## 17 「はい」をクリックします。

Windows 98 が再起動します。

## 18 DVD-ROM ドライブまたは CD-ROM ドライブから 「アプリケーション CD」を取り出します。

### アドバイス

メッセージが表示されたら

- ・「ドライバ更新の警告」ウィンドウが表示された場合は「はい」をクリックしてください。
- ・「Windows 98 の CD-ROM」を要求するメッセージが表示された場合には、c:\windows\options\cabs と入力し、「OK」をクリックしてください。
- ・「ディスプレイ設定に問題があります」というメッセージが表示された場合は「OK」をクリックし、続いて表示される「画面のプロパティ」ウィンドウで「キャンセル」をクリックしてください。

**19** 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。

**20**  (ハードウェアの追加) をクリックします。  
「新しいハードウェアの追加ウィザード」ウィンドウが表示されます。

**21** 「次へ」をクリックします。  
「システムにあるプラグアンドプレイ機器を検索します。」というメッセージが表示されます。

**22** 「次へ」をクリックします。  
「インストールするデバイスは一覧にありますか？」というメッセージが表示されます。

#### アドバイス

メッセージが表示されたら

「すべてのデバイスがインストールされましたか？」というメッセージが表示されたら、「ほかのデバイスもインストールする」の  をクリックして  にし、「次へ」をクリックします。

**23** 「デバイスは一覧にない」の  をクリックして  にし、「次へ」をクリックします。

「新しいハードウェアを自動的に検出しますか？」というメッセージが表示されます。

**24** 「はい」をクリックし、「次へ」をクリックします。

**25** 「次へ」をクリックします。  
新しいデバイスの検索が始まります。検索には数分かかります。

#### アドバイス

「詳細」ボタンが表示されたら

検出が完了すると「詳細」ボタンが表示されます。このボタンをクリックして、「アドバンスドパワーマネジメント サポート」が検出されたことを確認してください。

**26** 「完了」をクリックします。

**27** 「スタート」ボタンをクリックし、「Windows の終了」をクリックします。

**28** 「再起動する」をクリックし、「OK」をクリックします。  
本パソコンが再起動し、「RealPlayer G2 の設定」ウィンドウが表示されます。

**29** 「OK」をクリックします。

#### 画面の設定をする

**1** 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。

**2**  (画面) をクリックします。

**3** 「設定」タブをクリックし、「色」を「High Color (16 ビット)」に設定します。

- 4 「OK」をクリックします。  
「今すぐ再起動しますか？」というメッセージが表示されます。
- 5 「はい」をクリックします。  
本パソコンが再起動します。
- 6 画面を設定します。  
ご購入時の状態に戻すには、解像度や発色数などの画面の設定を変える必要があります。詳しくは、「画面の解像度と発色数を変える」(P.42)をご覧ください。  
画面を設定したら、必ず本パソコンを再起動してください。
- 7 「スタート」ボタンをクリックし、「Windows の終了」をクリックします。
- 8 「再起動する」をクリックし、「OK」をクリックします。  
本パソコンが再起動します。
- 9 APMモードに設定されたことを確認するため、「スタート」ボタンをクリックし、「Windows の終了」をクリックします。  
「Windows の終了」ウィンドウで「スタンバイ」が表示されることを確認し、「キャンセル」をクリックします。

### 3 モードフロッピードライバを再インストールする

- 1 「コントロールパネル」ウィンドウの  (システム) をクリックします。
- 2 「デバイスマネージャ」タブをクリックし、「フロッピーディスクコントローラ」の  をクリックします。
- 3 「Fujitsu3-modeFloppy (FMVSeries)」をクリックし、「削除」をクリックします。  
「デバイス削除の確認」ウィンドウが表示されます。
- 4 「OK」をクリックします。
- 5 「閉じる」をクリックします。
- 6 「コントロールパネル」ウィンドウの  (ハードウェアの追加) をクリックします。  
「新しいハードウェアの追加ウィザード」ウィンドウが表示されます。
- 7 「次へ」をクリックします。  
「システムにあるプラグアンドプレイ機器を検索します。」というメッセージが表示されます。
- 8 「次へ」をクリックします。  
「インストールするデバイスは一覧にありますか？」というメッセージが表示されます。
- 9 「デバイスは一覧にない」の  をクリックして  にし、「次へ」をクリックします。  
「新しいハードウェアを自動的に検出しますか？」というメッセージが表示されます。
- 10 「いいえ」の  をクリックして  にし、「次へ」をクリックします。

#### アドバイス

メッセージが表示されたら

「すべてのデバイスがインストールされましたか？」というメッセージが表示されたら、「ほかのデバイスもインストールする」の  をクリックして  にし、「次へ」をクリックします。

- 11** 「ハードウェアの種類」で「フロッピーディスクコントローラ」をクリックし、「次へ」をクリックします。
- 12** 「ディスク使用」をクリックします。
- 13**  「アプリケーションCD 2」をDVD-ROMドライブまたはCD-ROMドライブにセットします。
- 14** 「配布ファイルのコピー元」に次のように入力し、「OK」をクリックします。  
`e:¥3mode`  
↑ eには、お使いのDVD-ROMドライブ名またはCD-ROMドライブ名を入力してください。
- 15** 「次へ」をクリックします。
- 16** 「完了」をクリックします。  
ファイルのコピーが始まり、しばらくすると「今すぐ再起動しますか？」というメッセージが表示されます。
- 17** 「はい」をクリックします。  
本パソコンが再起動します。
- 18** DVD-ROMドライブまたはCD-ROMドライブから  「アプリケーションCD 2」を取り出します。

#### APMシステム情報設定ツールを使う

- 1**  「アプリケーションCD 2」をDVD-ROMドライブまたはCD-ROMドライブにセットします。
- 2** 「スタート」ボタンをクリックし、「ファイル名を指定して実行」をクリックします。
- 3** 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。  
`e:¥fixapm¥fixapm.exe`  
↑ eには、お使いのDVD-ROMドライブ名またはCD-ROMドライブ名を入力してください。  
「APMシステム情報設定ツール」ウィンドウが表示されます。
- 4** 「OK」をクリックします。  
「今すぐWindowsを再起動しますか？」というメッセージが表示されます。
- 5** 「はい」をクリックします。  
本パソコンが再起動します。
- 6** DVD-ROMドライブまたはCD-ROMドライブから  「アプリケーションCD 2」を取り出します。

## 電源の管理の設定をする

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。
- 2  (電源の管理) をクリックします。  
「電源の管理のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 3 「詳細」タブをクリックします。
- 4 「コンピュータのスリープボタンを押したとき」の右側の▼をクリックし、「シャットダウン」をクリックします。
- 5 「OK」をクリックします。
- 6 「スタート」ボタンをクリックし、「Windows の終了」をクリックします。
- 7 「再起動する」をクリックし、「OK」をクリックします。  
本パソコンが再起動します。
- 8 「コントロールパネル」ウィンドウの  (電源の管理) をクリックします。  
「電源の管理のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 9 「詳細」タブをクリックします。
- 10 「コンピュータのスリープボタンを押したとき」の右側の▼をクリックし、「スタンバイ」をクリックします。
- 11 「OK」をクリックします。

これで APM モードの設定は終了です。このあとにオプション機器の接続、アプリケーションのインストールを行ってください。

## 索引

## 記号

2DD .....	20
2HD .....	20
3 モードドライブ .....	20

## A

ACPI .....	130
ACPI S1 .....	130
ACPI S3 .....	130
AC アダプタのお手入れ .....	45
Alt キー .....	8
APM .....	133
Application キー .....	8
Application ボタン .....	10, 38
- の割り当てを変更する .....	38
Application ボタン 1 / E-mail ボタン ...	10, 38
Application ボタン 2 / Internet ボタン ...	10, 38
Application ボタン 3 .....	10, 38

## B

Back Space キー .....	9
BIOS セットアップ .....	90
- の設定時に使う各キーの役割 .....	93
- の設定を変更する .....	92
- のパスワード機能を使う ...	100, 101, 103
- の変更内容を取り消す .....	93
- 標準設定値一覧 .....	98
- メッセージ一覧 .....	105
- を起動する .....	91
- をご購入時の設定に戻す .....	96
- を終了する .....	94
BUSY ランプ .....	5

## C

Caps Lock 英数キー .....	8
CD .....	22
CD-ROM .....	22
- をセットする .....	23
- を取り出す .....	23
CD-ROM ドライブ .....	5
- 仕様 .....	111

CD 操作ボタン .....	10
CMOS RAM .....	90
CPU .....	70
Ctrl キー .....	8

## D

DC-IN コネクタ .....	4
Delete キー .....	9
DIMM .....	71
DVD .....	22
DVD-ROM .....	22
DVD-ROM ドライブ .....	5
- 仕様 .....	111
DVD プレーヤー .....	24
- 起動する .....	24
- 再生する .....	25

## E

E-mail ボタン .....	10, 38
ECC .....	71
EJECT ボタン .....	5
End キー .....	9
Enter キー .....	9
Esc キー .....	8

## F

FAX/ ボイスモデム .....	113
- 仕様 .....	113
F キー .....	8

## H

Home キー .....	9
---------------	---

## I

IDE .....	83
Insert キー .....	9
Internet ボタン .....	10, 38
IRQ .....	114
- 一覧 .....	114
- を解放する .....	115

## L

LANカード	59
LINE IN 端子	6
LINE OUT 端子	6
LINE 端子	6, 118

## M

MB	20, 70
MD	68
MD レコーダー	68
MIDI/JOYSTICK 端子	7, 119
MO	78
MO ドライブ	78
Mute (消音) ボタン	10

## N

Num Lock キー	9
-------------	---

## P

Pause キー	9
PC/AT 互換機	52
PCカード	58
- をセットする	60
- を取り出す	62
PCカードストッパー	4
PCカードスロット	4
PCカード取り出しボタン	4
PgDn キー	9
PgUp キー	9
PHONE 端子	6, 118
Plug&Play	57
PnP	57
PnSc キー	9

## S

Scrlk キー	9
SCSI	59, 65, 78, 83
SCSI カード	59, 79
SCSI ケーブル	79
SDRAM	71
Shift キー	8
SPD	71

## T

TWAIN	65
-------	----

## U

USB	6, 67
USB 機器	67
USB ポート	6, 117

## V

VIDEO CD	32
----------	----

## W

Windows キー	8
------------	---

## ア

アクセス表示ランプ	3
-----------	---

## イ

インジケータ	9
インテル® プロセッサ シリアル ナンバ コントロール ユーティリティ ...	127

## エ

液晶ディスプレイ	3
- 仕様	111
液晶ディスプレイの特性	127
液晶ディスプレイの廃棄	127
エラーメッセージ	105

## オ

お手入れ	45
オプション機器	50
音量調節ボタン	10
音量つまみ	34
音量を調節する	34

## カ

カーソルキー	9
解像度	42
- を変更する	43
書き込み禁止タブ	21
各部の名称と働き	2
画面	42

## キ

キーボード	8
- のお手入れ	45
キーボードコネクタ	7, 117
強制終了	15

## ク

空白キー	8
クリック	11

## ケ

ケーブル	119
------	-----

## コ

コネクタのピン配列と信号名	116
---------------	-----

## サ

再生/一時停止ボタン	10
サウンド機能仕様	112
サウンドドライバをインストールする	123

## シ

終端抵抗	79, 80
終了	15
仕様一覧	110
省電力	16
シリアルコネクタ	7, 116

## ス

スキャナ	65
スクリーンセーバーボタン	10
スクロールボタン	11, 40
スタンバイ	16, 129
スタンバイボタン	10
スタンバイモード	130
スピーカー	3, 34
- から音が聞こえないとき	35
- 仕様	112
- の音量を調節する	34
スペースキー	8

## セ

セットする	
- CD-ROM	23
- DVD-ROM	23
- PCカード	60
- フロッピーディスク	20

## ソ

増設する	
- MOドライブ	78
- ハードディスク	83
- メモリ	70
外付けMOドライブ	79
- を取り付ける	80
外付けハードディスク	83
- を取り付ける	83

## タ

ターミナルアダプタ	66
ターミネータ	79, 80
ダブルクリック	11
ダミーカード	61, 63

## チ

チルトフット	8
--------	---

## テ

停止/取り出しボタン	10
ディスプレイドライバをインストールする	121
ディップスイッチ	102
デジタルカメラ	64
デバイス	115
テンキー	9
電源	14
- を入れる	14
- を切る	15
電源スイッチ	3
電源ランプ	3

## ト

ドライバ	52
取り出す	
- CD-ROM	23
- DVD-ROM	23
- PCカード	62
- フロッピーディスク	21
取り付ける	
- 外付けMOドライブ	80
- 外付けハードディスク	83
- メモリ	72

## 八

ハードディスク	83
- の領域を設定する	84
- を増設する	83
- をフォーマットする	86
パスワード	100, 101, 103
- 忘れてしまったら	102
パソコン本体	2
- 仕様	110
- のお手入れ	45
発色数	42
- を変更する	43
早送りボタン	10
パラレルコネクタ	7, 116

## ヒ

光磁気ディスクドライブ	78
光デジタルオーディオ出力端子	5
- の設定を有効にする	69
左ボタン	11

## フ

ファンクションキー	8
フォトタッチソフト	65
ブライツネスポリウム	2
プラグアンドプレイ	57
プリンタ	54
プリンタケーブル	54
フロッピーディスク	19
- をセットする	20
- を取り出す	21
フロッピーディスクアクセス表示ランプ	4
フロッピーディスクドライブ	4
- のお手入れ	47
フロッピーディスク取り出しボタン	4

## へ

ヘッドセット	35
- から音が聞こえないとき	36
ヘッドホン	37
ヘッドホン端子	5

## ホ

ボリュームボタン (+)	10
ボリュームボタン (-)	10

## マ

マイク端子	5
マウス	11
- のお手入れ	45
マウスコネクタ	7, 117
巻き戻しボタン	10

## ミ

右クリック	11
右ボタン	11
ミュート	34

## メ

メール着信ランプ	3
メモリ	70
- の組み合わせ	72
- の取り付け場所	71
- の持ちかた	73
- 容量を確認する	75
- を交換する	76
- を取り付ける	72
- を増やす	70
メモリスロット	71

## モ

モデム	113, 128
- 仕様	113

## ワ

割り込み要求	114
ワンタッチボタン	8, 10, 38



Microsoft、Windows、MS、MS-DOS、Outlook は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

Pentium、MMX は、米国インテル社の登録商標です。

Celeron は、米国インテル社の商標です。

K56flex は Lucent Technologies 社、Conexant Systems Inc. の商標です。

その他の各製品名は、各社の商標、または登録商標です。

その他の各製品は、各社の著作物です。

All Rights Reserved, Copyright© 富士通株式会社 2000

画面の使用に際して米国 Microsoft Corporation の許諾を得ています。

---

使いこなす本 ハード編

B3FH-6061-01-00

発行日 2000年1月

発行責任 富士通株式会社

Printed in Japan

---

本書の内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。

本書に記載されたデータの使用に起因する第三者の特許権およびその他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。

無断転載を禁じます。

落丁、乱丁本は、お取り替えいたします。

㊦ 0001-1



# 箱を開けたら...

箱の中身を確認してください。  
ご購入後、できるだけ早く添付品を確認  
しましょう。

## はじめに読む本

まず最初に...

### 1 取扱説明書



ビデオを見てから  
本を見よう!



パソコンが初めてなら...

### 2 かるがるパソコン入門



CD-ROMが  
付いています!



FMVを知ろう!

### 3 FMV総合案内



## 使いこなす本



### インターネット編

- ・インターネットをはじめる
- ・ホームページを見る
- ・Eメールで手紙を出す



### ソフト編

- ・デジタル写真を利用する
- ・はがきを作る
- ・電車の経路を調べる
- ・地図で調べる



### ハード編

- ・各部の名称を知る
- ・プリンタをつなぐ
- ・メモリを増やす

## 困ったときの本

### お役立ちシート

- お手元に置いてお使いください
- ・ありがちなトラブルの解決
- ・文字入力早わかり



### トラブル解決Q&A

- ・パソコンが動かない!
- ・サポート情報
- ・パソコンをふりだしにもどす



### 画面で見る パソコン情報ランド

- 今すぐ役立つ情報がいっぱいです!
- ・豊富なQ&A情報
- ・マニュアル検索
- ・パソコン用語集
- ・トラブル解決のヒント



このマニュアルはエコマーク認定の再生紙を使用しています。



T4988618875097